

OSAKA CHIYODA JUNIOR COLLEGE

# 講義要綱

2024

大阪千代田短期大学

# 本学の建学精神・教育理念・教育方針 (SHIP)

## 建学の精神

本学は、弘法大師の興学精神に則り、将来、教養あり且つ有為な社会人としての資質を養い、創造的な生活をなし得る人材を育成する高等教育を行う。

## 教育理念

人格の発展と豊かな成長を図る『人間教育』を目的とし、学問的知識、実際の技量、人間性を培う教育を行う。

## 教育方針

### 「SHIP」の追求

Small	:	少人数教育
Heartful	:	あたたかい心のふれあいを大切に
Intellectual	:	豊かな知性と広い視野を養う
Practical	:	実践的な知識と能力を身につける

## 3つのポリシー

建学の精神を実現するため、以下の3つのポリシーを定める。

### 1. ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

幼児教育科では、人間の生涯発達の視点から、子ども・障害者の教育や福祉支援に関する学習により、専門的知識・技術及び倫理観を身につけ、幼稚園教諭・保育士・保育教諭を始めとする教育・福祉専門職として活躍できる人材の養成を目的として、以下の能力を有するに至った者に短期大学士の学位を授与する。

- 1) 子どもの保育・教育に対する情熱・使命感・責任感を身につけている。
- 2) 保育・幼児教育に関する専門的知識・技術を修得し、実践力を身につけている。
- 3) 課題探究能力を持ち、自ら解決しようとする姿勢を身につけている。
- 4) 子どもとその家族を始めとする人権を尊重する心と術を身につけている。

### 2. カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)

幼児教育科では、質の高い保育士・幼稚園教諭・保育教諭を養成するために、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施している。

- 1) 広く人格形成に資する一般教養科目を設置している。
- 2) 学習効果を高め学生一人ひとりの成長を図るために、少人数による授業の実施に努めている。
- 3) 知識活用力、論理的思考力、課題探究・解決力、表現力、コミュニケーション力など、社会人・地域の一人として必要不可欠な能力を育成するために、参加型・双方向型の授業(ゼミナール等)を実施している。
- 4) 保育士資格と幼稚園教諭二種免許状を認定するための専門的知識・技術及び倫理観を体系的に身につけるために、資格に関する専門科目を設置している。
- 5) 高い倫理性に基づいた実践力を養うために、実習科目を重視し、丁寧な個別指導を実施している。
- 6) 保育学・幼児教育学と隣接した分野の学びを提供し、関連資格の取得を支援するために、本学の地域教育・福祉総合センターとの連携体制を作っている。

### 3. アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れの方針)

本学の教育理念、教育方針に共感し、教育・保育・福祉分野で地域・社会に貢献することができる次のような学生を受け入れます。

- 1) 幼児教育・保育に関心を持ち、将来保育者になりたいという強い意志のある人
- 2) 高等学校等における基礎的な学力を有し、幼児教育・保育に関する専門的知識・技能を高めることができる人
- 3) 教育的な探究ができる応用力・活用力・創造力を高めようとする人
- 4) 保育者としてのマナー・モラルを遵守し、多様な考えを受け入れ、尊重し、協調できる人
- 5) 子どもを取り巻く社会に関心を持ち、積極的に子どもや保護者に関わり、社会に貢献しようとする意欲を持つ人

## 目 次

<p><b>幼児教育科 1 回生</b> <b>2024 年度入学生</b> ..... 3</p> <p>ダンス入門..... 5</p> <p>日本国憲法..... 6</p> <p>人権を学ぶ..... 7</p> <p>生物の多様性..... 8</p> <p>英語 A..... 9</p> <p>英語 B..... 10</p> <p>韓国語 A..... 11</p> <p>韓国語 B..... 12</p> <p>コンピュータ・リテラシ A..... 13</p> <p>コンピュータ・リテラシ B..... 14</p> <p>データサイエンス入門..... 15</p> <p>体育理論..... 16</p> <p>体育実技..... 17</p> <p>キャリアデザイン I..... 18</p> <p>幼児と健康..... 19</p> <p>幼児と人間関係..... 20</p> <p>幼児と環境..... 21</p> <p>幼児と言葉..... 22</p> <p>幼児と表現..... 23</p> <p>表現技術（ピアノ I）..... 24</p> <p>表現技術（ピアノ II）..... 25</p> <p>表現技術（造形 I）..... 26</p> <p>表現技術（造形 II）..... 27</p> <p>保育内容総論..... 28</p> <p>教育学..... 29</p> <p>教職・保育者論..... 30</p> <p>教育心理学..... 31</p> <p>特別支援教育..... 32</p> <p>教育課程論..... 33</p> <p>教育実習 I..... 34</p> <p>教育実習指導..... 35</p> <p>保育原理..... 36</p> <p>子ども家庭福祉..... 37</p> <p>社会福祉..... 38</p> <p>社会的養護 I..... 39</p> <p>子どもの保健..... 40</p> <p>乳児保育 I..... 41</p> <p>保育実習 I（保育所）..... 42</p> <p>保育実習指導 I（保育所）..... 43</p> <p>保育実習指導 I（福祉施設）..... 44</p> <p>こども音楽療育概論..... 45</p> <p>ゼミナール I..... 46</p> <p>ゼミナール I..... 47</p> <p>ゼミナール I..... 48</p> <p>ゼミナール I..... 49</p> <p>ゼミナール I..... 50</p> <p>ゼミナール I..... 51</p> <p>ゼミナール I..... 52</p> <p>ゼミナール I..... 53</p> <p>ゼミナール I..... 54</p> <p>ゼミナール I..... 55</p>	<p><b>幼児教育科 2 回生</b> <b>2023 年度入学生</b> ..... 57</p> <p>英語 C..... 59</p> <p>英語 D..... 60</p> <p>コンピュータ・リテラシ C..... 61</p> <p>体育理論..... 62</p> <p>体育実技..... 63</p> <p>キャリアデザイン II..... 64</p> <p>保育内容の指導法（健康 I）..... 65</p> <p>保育内容の指導法（健康 II）..... 66</p> <p>保育内容の指導法（人間関係）..... 67</p> <p>保育内容の指導法（環境）..... 68</p> <p>保育内容の指導法（言葉 I）..... 69</p> <p>保育内容の指導法（言葉 II）..... 70</p> <p>保育内容の指導法（造形表現 I）..... 71</p> <p>保育内容の指導法（造形表現 II）..... 72</p> <p>保育内容の指導法（音楽表現 I）..... 73</p> <p>保育内容の指導法（音楽表現 II）..... 74</p> <p>保育内容の指導法（総合表現）..... 75</p> <p>教育制度論..... 76</p> <p>特別支援教育・保育演習..... 77</p> <p>保育方法論..... 78</p> <p>乳幼児理解..... 79</p> <p>教育相談..... 80</p> <p>教育実習 II..... 81</p> <p>教育実習指導..... 82</p> <p>保育・教職実践演習..... 83</p> <p>社会的養護 II..... 84</p> <p>子ども家庭支援の心理学..... 85</p> <p>子どもの食と栄養..... 86</p> <p>乳児保育 II..... 87</p> <p>子育て支援..... 88</p> <p>保育実習 I（福祉施設）..... 89</p> <p>保育実習指導 I（福祉施設）..... 90</p> <p>保育実習 II..... 91</p> <p>保育実習指導 II..... 92</p> <p>保育実習 III..... 93</p> <p>保育実習指導 III..... 94</p> <p>器楽活用法 I..... 95</p> <p>こども音楽療育演習..... 96</p> <p>こども音楽療育実習..... 97</p> <p>ゼミナール II..... 98</p> <p>ゼミナール II..... 99</p> <p>ゼミナール II..... 100</p> <p>ゼミナール II..... 101</p> <p>ゼミナール II..... 102</p> <p>ゼミナール II..... 103</p> <p>ゼミナール II..... 104</p> <p>ゼミナール II..... 105</p>
--	---

## 科目ナンバリングについて

下表の3つの記号を組み合わせたものを「科目ナンバリング」と言います。

**科目ナンバリング = 科目区分 + 科目レベル + 授業形態**

科目区分		記号
<b>基 礎</b>		
一 般	文化と歴史	LH
	社会と人間	LS
	地球と自然	LN
外国語		LF
情報処理		LI
保健体育		LP
キャリア		LC
<b>専 門</b>		
保育内容・領域		MF
指導法		MT
保育教職基礎		MB
保育福祉		MW
関連・発展科目		MA
ゼミナール		MS

科目レベル	記号
<b>レベル</b>	
概論・入門	<u>1</u>
詳細・発展	2

授業形態	記号
講 義	<u>L</u>
演 習	E
実技・実習	P
現地実習	T

これは科目の特徴を表す記号で、例えば「社会福祉」の場合、上の表で

保育福祉に関する科目 = MW, 概論・入門的科目 = 1, 講義による授業 = L  
 なので「MW1L」が科目ナンバリングです。



# 講義要綱

幼児教育科 1 回生  
2024 年度入学生



ダンス入門		講義/演習/実技実習・単位数・回数 講・2単位・15回 [学修準備時間 60]	
教員 西村 真子	年次・学期 1年・前	関連資格・必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感	
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
<p>基本的なステップ、様々なジャンルのダンスを学び、保育で活用できる基礎力を身につける。 パフォーマンス作りの中で、幼児の様々な表現力を豊かにするための曲選び(曲編集)、振り付け、構成作りを学ぶ。 またダンスを通して幼児の団結や頑張る力を身につけられる様な指導を学ぶ。</p>		<p>・保育に必要なダンスの基礎力を身につける。 ・保育者になる学生自身がダンスを楽しみ、幼児の年齢に合ったパフォーマンス作品を考える。 ・課題作品を通して、保育現場で活用出来る創作力や表現力を身につける。</p>	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>	
グループワーク等に積極的に参加すること。		ダンスに必要な基礎ステップを理解、身体に落とし込むこと。 発表の際には、自分の感情・表現もできる様にすること。	
		<b>[課題に対するフィードバックの方法]</b>	
		実技ミニチェックでは、その場で各自に応じた指導を行う。 もしくは課題プリントへ各自コメントし、返却する。 [オフィスアワー]:昼休み、空き時間で対応	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	50	実技試験(基礎力、表現力、協調性、工夫力、正確性)	
期末レポート	0		
その他	50	授業や課題の参加、取り組み姿勢	
<b>授業計画</b>			
1. 幼児ストレッチ・基礎体力の作り方		9. パフォーマンス作り②振り付け	
2. 幼児基礎ステップ①簡単な足の動き		10. パフォーマンス作り③フォーメーション	
3. 幼児基礎ステップ②簡単な足の動き		11. 邦楽でダンス振り付け、幼児への伝え方	
4. ダンスの種類～チアダンス～		12. 洋楽でダンス振り付け、幼児への伝え方	
5. ダンスの種類～HIPHOP～		13. 幼児ダンス作品作り(グループ)	
6. ダンスの種類～KPOP～		14. 幼児ダンス作品作り(グループ)	
7. ダンスの種類～JAZZ～		15. 作品発表会	
8. パフォーマンス作り①曲選び、曲編集			
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:
<b>実務経験</b>			
幼小中ダンス指導者、高等学校ダンス部外部指導者、ダンス教室設立、プロ野球チアリーダー			

日本国憲法 講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
講 ・ 2 単位 ・ 15 回  
[学修準備時間 60]

教員 森 征樹	年次・学期 1 年 ・ 前	関連資格 ・ 必修/選択 [幼必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 - DP2: 知識・技術 ◎ DP4:人権・共感
------------	------------------	----------------------	--

**授業の目的・内容**

<p><b>【授業の目的と概要】</b></p> <p>われわれの社会では、憲法の内容を分からなければ理解できない様々な問題が日々生じている。この講義では、時事問題や過去の裁判例などの具体的な事例を取り上げ、現代社会における「憲法問題」をどのように読み解けばよいかを考察する。また、特に「子ども人権」については詳細に解説する予定である。</p> <p>さらに日本国憲法の基本的な構造と原理を学ぶことによって、現代社会の問題点について、自己の意見を論理的に主張する力を身につける。</p>	<p><b>【到達目標】</b></p> <p>講義で扱う「憲法問題」、「人権問題」を考えるにあたって、最低限必要な知識を身につけるとともに、それらの問題に対して自分の意見を持って解決策を探り、自分の主張を的確に表現できるようにする。すなわち、最低限の暗記は必要だが、自身の主張を法学的論理性を基に形成して、他者に対して説得力のある文章を記すことができるようになることが大事である。</p>
---	---

**履修のルール**

<p><b>【履修のルール】</b></p> <p>積極的な授業への参加・予習復習が必須である。授業で解説した箇所は必ず復習し、理解が追いついていない箇所を決してそのままにしておかないこと。</p>	<p><b>【予習・復習の方法「自主学習ガイド」】</b></p> <p>作成したノートおよび教科書をよく読み返し、理解できないところを無くすようにすること（少なくとも何がどう分からないのかを洗い出しておくこと）。授業の中で言及する問題点について、自分の考えを論理的に構成しておくこと。</p> <p><b>【課題に対するフィードバックの方法】</b></p> <p>リアクションペーパーなどを使って講評する。 [オフィスアワー]:原則として、講義開始前および講義終了後に質問等を受け付ける。</p>
---	--

**評価基準・評価方法**

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	80	講義内容にそくした論述式の筆記試験を行う。
期末レポート	0	
その他	20	受講態度、講義への参加姿勢、授業中課題、など。

**授業計画**

1. ガイダンス/憲法とは何か	9. 平和主義/戦争が起きないために何を？・自衛隊の位置づけ
2. 人権とは何か/子どもの人権・外国人の人権	10. 国会/国民の代表・選挙制度
3. 新しい人権/プライバシー権・名誉権	11. 内閣/行政権の行使とは何か・衆議院の解散
4. 法の下での平等/合理的区別と非合理的差別	12. 裁判所①/裁判の種類・内容・限界
5. 表現の自由/価値、保障内容、限界	13. 裁判所②/違憲審査制とは何か・違憲とされた法令
6. 職業選択の自由(営業の自由)/規制・制約の形態	14. 地方自治/住民投票で決着を!
7. 生存権/人間らしく生きるためにスマホは必要か?	15. 憲法改正/一度も改正されていない憲法は改正すべきなのか?
8. 教育を受ける権利/誰が教育内容を定めるのか	

<p><b>【教科書】</b></p> <p>森英樹『大事なことは憲法が教えてくれる：日本国憲法の底力』新日本出版社、1,760 円。</p>	<p><b>【参考書】</b></p> <p>南野森(監修)、開発社(編集)『10 歳から読める・わかるいちばんやさしい日本国憲法』東京書店、1,408 円。 曾我部真裕、横山 真紀(編集)『スタディ憲法 [第2版]』法律文化社、2750 円。</p>
---	--

**アクティブラーニングへの取り組み**

○ PBL(課題解決型学習)	反転授業	○ ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
○ 学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	その他:

**実務経験**

--

人権を学ぶ 講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
講 ・ 2 単位 ・ 15 回  
[学修準備時間 60]

教員 年次・学期 関連資格・必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連  
 黒田 浩継 1 年・前 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性  
- DP2: 知識・技術 © DP4:人権・共感

**授業の目的・内容**

**[授業の目的と概要]** **[到達目標]**

《目的》・現代社会に存在する様々な人権問題の具体的な事例を当事者の視点から考察し、人権を尊重する考え方の重要性・必要性について理解を深める。  
 ・人権問題を自らの生き方につなげ、人権を尊重する人間として他者との関わり大切さについて考え、差別のない社会の実現に向けて行動できる実践力を身に付けることをねらいとする。  
 《概要》「子どもの人権」を中心に、保育者に必要な最低限度の人権に関わる知識を学習する。学習に当たっては当事者の視点に基づいた教材を活用し、多様な考え方があつたことを体験できる参加体験型ワークショップ等を取り入れる。

・人権に関わる様々な問題についての理解を深め、課題解決に向けた実践力を身に付ける。  
 ・様々な人権問題を「自分ごと」としてとらえ、将来、保育者としてこどもやその保護者と接する際に役立つ知識と力を身に付ける。

**履修のルール**

**[履修のルール]** **[予習・復習の方法「自主学習ガイド」]**

・ 本学の1 回生を対象とした選択必修科目  
 ・ 2 回生、高野山大学の学生も希望すれば受講できる。

授業中に適宜指示するが、予習については授業計画を参考に最初の授業で配布する「ゆまにてなにわ」を事前に読んでおく。

**[課題に対するフィードバックの方法]**  
 [オフィスアワー]:

**評価基準・評価方法**

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	60	筆記試験を実施する(配布資料、ノート持ち込み可)。
期末レポート	0	
その他	40	受講態度、授業への参加・取り組み姿勢、「授業振り返りシート」の提出状況

**授業計画**

- |                                 |                                   |
|---------------------------------|-----------------------------------|
| 1. ガイダンス「人権を学ぶ」で何を学ぶのか?         | 9. 障がい者の人権と合理的配慮ーともに生きる社会とは       |
| 2. 「人権」ってなに?ー誰もが幸せに生きていくためにー    | 10. いじめとハラスメント(セクハラ、パワハラ)         |
| 3. 子どもの人権I「子どもの権利条約ー子どもは権利の主体」  | 11. SDGsと人権I「子どもの貧困問題」            |
| 4. 子どもの人権II「児童虐待と体罰」            | 12. SDGsと人権II「ジェンダーと男女平等教育」       |
| 5. ちがいを豊かさにI「在日韓国朝鮮人の人権問題」      | 13. SDGsと人権III「性の多様性ー性的マイノリティの人権」 |
| 6. ちがいを豊かさにII「コリアタウンフィールドワーク1」  | 14. 差別のない社会をめざしてI「アサーティブな自己表現」    |
| 7. ちがいを豊かさにIII「コリアタウンフィールドワーク2」 | 15. 差別のない社会をめざしてII「子どもたちの人権尊重」    |
| 8. ちがいを豊かさにIV「多文化共生社会の実現に向けて」   |                                   |

**[教科書]** **[参考書]**  
 講義内で配布する資料(「ゆまにてなにわ」、プリント) 授業中に適宜紹介する

**アクティブラーニングへの取り組み**

○ PBL(課題解決型学習)		反転授業		ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		双方向アンケート	その他:

**実務経験**

大阪府教育庁、大阪府教育センターにおいて人権教育を担当。現在、大阪府の人権に関わる委員会の委員(大阪府研究調査開発事業)を務める。この経験をもとに保育者に必要な人権に関する基本的内容について指導する。

講義要綱  
1年次

生物の多様性		講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数 講 ・ 2 単位 ・ 15 回 [学修準備時間 60]	
教員 島田 和秀	年次・学期 1 年 ・ 前	関連資格 ・ 必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 - DP2: 知識・技術 © DP4:人権・共感	
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
脊椎動物の進化や哺乳動物の進化と多様性を学びヒトの進化と特徴と保育幼児教育との関係についても学んでいく。		ヒトの特徴について、他の哺乳類と比較して深くとらえる。多様な哺乳類の特徴を進化の過程と結び付け理解する。脊椎動物の進化の中で陸上において哺乳類が覇権を獲得していった過程を理解する。ヒトの進化の過程において保育の意味や重要性を理解する。	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>	
ノートを取る。授業終了後に授業の要約を書いてノート提出すること。		毎回の授業に対し、考察を書く。	
		<b>[課題に対するフィードバックの方法]</b>	
		ノートの内容についてそれぞれ個別に指導する。	
		[オフィスアワー]:昼休み、空き時間で対応	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	70	講義内容についての筆記試験。到達目標に対して理解を問う筆記試験を行う。	
期末レポート	0		
その他	30	ノートの考察について、授業の理解度を評価する。	
<b>授業計画</b>			
1. ヒト科の動物		9. 動物園実習	
2. ヒトと類人猿の解剖学的分析		10. ヒトの生き残り戦略	
3. 人類の進化と出アフリカ		11. ヒトの脳の発達	
4. 動物園実習に向け動物調べ		12. 生物の陸上への進化	
5. 動物園実習に向け動物調べ		13. 哺乳類 VS 恐竜	
6. 動物調べ発表		14. 恐竜絶滅後の生物の主導権争い	
7. 哺乳類の分類		15. ニワトリの卵の発生観察	
8. 動物園実習			
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
講義で配布する資料 天王寺動物園実習（実習学生負担：入園料 500 円、現地までの交通費が必要です。）			
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他：
<b>実務経験</b>			

英語 A		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・1単位・15回 [学修準備時間 15]	
教員 Peter Shelly	年次・学期 1年・前/後	関連資格・必修/選択 [幼選]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>【授業の目的と概要】</b>		<b>【到達目標】</b>	
This course focuses on helping students improve their English speaking communication skills and is great for relative beginners. This course is suitable for learners whose reading, grammar, and vocabulary knowledge is greater than their speaking ability. A willingness to try to use English in class, as well as actively participate in role playing dialogues is expected. Each lesson focuses on a clear topic and teaches practical English a student can use outside of class. The situations covered are similar to normal ones a person may find herself in abroad. Although the course is conducted using American English, other accents can be heard on the class CD. The course consists of 15 lessons, plus a final exam, each within a 90 minute class.		The learning objectives are focused on helping each student develop his/her confidence and ability to use English actively to communicate with native speakers. We will explore and discuss each topic and use the target language through two-part conversational activities. Two simple model dialogues will be presented to, and practiced by the class each lesson. Some memorization of basic phrases and vocabulary will be required. Through further controlled practice using visual and written prompts, students will expand their ability to communicate in English in a similar social situation.	
<b>履修のルール</b>			
<b>【履修のルール】</b>		<b>【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】</b>	
Because we are studying a language, each student is strongly urged to attend every lesson and actively participate in class. Each student is also expected to bring a basic English/Japanese dictionary to every lesson. This can be either a paper or electronic dictionary, but NO cell/smart phones can be used during class.		Please prepare for each class by reading the unit's main conversation beforehand, as well as reviewing any vocabulary or phrase list provided. Additional material or assignments to help you become familiar with the topic may be provided ahead, too. Please actively participate and try in each class, complete and turn in the assigned homework on time, and learn the vocabulary and phrases covered in each unit.	
		<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>	
		When possible, the correct answers will be provided immediately after a test for student corrections and questions. [オフィスアワー]: I do not hold formal office hours. I will do my best to find a mutually convenient time that we can meet to discuss any questions, problems, or concerns you may have. Below are the ways you may contact me to set up an appointment:	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>•Mr. Peter D. Shelly</li> <li>•peterdshelly@gmail.com (the easiest and best way to contact me - please include your name in English)</li> </ul>	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	24	Final Exam [24%]	
期末レポート	0		
その他	76	- Non-academic grade [20% total] - Academic grade [56% total] <ul style="list-style-type: none"> <li>• Homework (32%)</li> <li>• Mini exams (16%)</li> <li>• Mid-term Exam (8%)</li> </ul>	
<b>授業計画</b>			
1. Class Introduction / Tell me about your family (start)	2. Tell me about your family	3. I like classical music best	4. What blood type are you?
5. What a beautiful coat!	6. Would you like to come over for coffee?	7. I'm taking a computer class these days	8. I'm going to wash the car
9. Review of Units 1, 2, 3, 4, 5, 8, 9 + Midterm exam	10. Do you remember when you were in high school?	11. Would you like to try some Japanese food?	12. We're flying to Singapore
		13. I have a terrible headache	14. I'm afraid of snakes
		15. Let's keep in touch!	
<b>【教科書】</b>		<b>【参考書】</b>	
Making Friends 2 with Self-Study CD マクミラン ランゲ ージハウス ¥¥2,530(税込)			
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:
<b>実務経験</b>			

英語 B		講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数 演 ・ 1 単位 ・ 15 回 [学修準備時間 15]	
教員 鯉坂 はるよ	年次・学期 1 年 ・ 前/後	関連資格 ・ 必修/選択 [幼選]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱 ・ 使命感 - DP3:探究 ・ 主体性 ◎ DP2: 知識 ・ 技術 - DP4:人権 ・ 共感
<b>授業の目的 ・ 内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
<p>&lt;目的&gt; 英語の絵本を読むことで、英語を学び、英語圏の子どもの世界、子どもの文化も学ぶことを目的とする。小学校から英語を学ぶこととなり、英語を取り入れる幼稚園、保育所、こども園が増加しているため、幼稚園、保育所、こども園でどのように英語を取り入れているのかも知る。</p> <p>&lt;概要&gt; (1)英語の絵本を読み、語句の意味、文法を学び、絵本の世界を知る。                  (2)英語圏の子どもの世界や英語圏の子どもの遊びを知る。                  (3)英語圏の子どもの遊びや英語の手遊びを体験する。                  (4)幼稚園、保育所、こども園での英語の取り入れ方を体験する。                  (5)自分で絵本のストーリーを考え、英語にし、英語の絵本を作成する。</p>		<p>(1)英語の知識、英語圏の子どもの世界、英語圏の子どもの文化の知識を習得する。                  (2)外国の絵本の知識を習得する。                  (3)幼稚園、保育所、こども園での英語の取り入れ方を理解する。                  (4)英語の子どもの遊びや手遊びができる。                  (5)英語のオリジナル絵本を作成する。</p>	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>	
		今回の講義までに講義内容に対応する箇所を予習すること。毎回授業開始時に前回授業の振り返り小テストを行うので、学んだことを復習しておくこと。全 30 時間。 <b>[課題に対するフィードバックの方法]</b> 小テストを実施した後に、解説を行う。 [オフィスアワー]:火、水、木、金曜日の昼休み。研究室にて。	
<b>評価基準 ・ 評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準 ・ 方法	
期末試験	50	筆記試験を行う (50%)。	
期末レポート	0		
その他	50	英語の絵本を作成する際のグループワークの参加状況や、絵本の発表 (プレゼンテーション) や、完成した絵本も評価に入れる (40%)。毎授業最初に、前回の振り返り小テストを行う (10%)。	
<b>授業計画</b>			
1. 授業の進め方、様々な海外の絵本、先輩の作成した英語絵本の紹介 2. 英語の絵本 Little Blue and Little Yellow の作者を知る 3. Little Blue and Little Yellow の内容を理解する 4. Little Blue and Little Yellow の作者が伝えたいこと 5. 英語の絵本、イギリス民謡発祥の英語の手遊び 6. 英語の絵本に出てくる遊びを学ぶ 7. 英語の絵本に出てくる遊びを学び、体験する 8. 幼稚園、保育所、こども園での英語		9. 子どもの英語の歌 Grandfather's Clock の背景を知る 10. 子どもの英語の歌 Grandfather's Clock の内容を理解する 11. 米国民謡発祥の英語の手遊び 英語の絵本のストーリーを考える (ディスカッション・ディバート、グループワーク) 12. 絵本のストーリーを英語にする (グループワーク) 13. 英語の絵本を作成する (グループワーク) 14. 作成した絵本の発表 (プレゼンテーション) 15. 作成した絵本の発表のふりかえり、試験について	
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
適宜プリントを配布する。		授業中に適宜紹介する。	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
<input type="checkbox"/> PBL (課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディバート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	<input type="checkbox"/> その他:
<b>実務経験</b>			

韓国語 A		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・1単位・15回 [学修準備時間 15]	
教員 金光敏	年次・学期 1年・前	関連資格・必修/選択 [幼選]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
韓国語に入門基礎を軸にして、読める、書ける、話す、聞くをめざした実用的な授業展開に取り組みます。また、言語の背景となる文化理解、現代韓国の基礎理解などもおりまぜて、朝鮮半島全体への関心を高める授業に取り組みたいと思います。		15回の授業を終えて、ハングルの習得と簡単な会話ができることをめざします。また、韓国へのさらなる関心の高まりを実感できるよう、都市名などの地理や伝統文化、現代韓国に関わる用語習得などに取り組んでもらいます。	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>	
		翌週の授業までに必ず復習をして臨んでください。言語は積み重ね。短時間でいいので復習をしておくともちがいがなく習得が早いです。	
		<b>[課題に対するフィードバックの方法]</b>	
		レポート提出をしてもらい、添削をして返却します。かならず、見直してください。 [オフィスアワー]:毎週授業終了後に個別の質問を受け付けます。	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	60	筆記試験を行います。	
期末レポート	0		
その他	40	課題プリントを出します。そちらも評価の対象とします。	
<b>授業計画</b>			
1. 韓国と韓国語の理解	2. ハングルのつくりと読み(1) ハングルの歴史	3. ハングルのつくりと読み(2) 反切表の習得	4. ハングルのつくりと読み(3) 反切表の練習
5. 挨拶と自己紹介 会話のステップ	6. 肯定と疑問文	7. 否定文	8. 動詞の活用(1) パッチムのあるとない動詞の活用
9. 動詞の活用(2) 変則的な動詞の活用	10. 動詞の活用(3) 否定、可能、不可能	11. 形容詞の活用(1) 形容詞の基本活用と変則活用	12. 形容詞の活用(2) 形容動詞の活用
13. 現在形と過去形(1) 基本活用	14. 現在形と過去形(2) 変則活用	15. まとめ 発話と筆記の練習	
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
できる韓国語初級(1) 新大久保学院 税込み 2200円			
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:
<b>実務経験</b>			

韓国語 B		講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数 演 ・ 1 単位 ・ 15 回 [学修準備時間 15]	
教員 金 光敏	年次・学期 1 年 ・ 後	関連資格 ・ 必修/選択 [幼選]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2: 知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
前期の授業内容を踏まえて、さらに基礎理解を深め、実用的に使える語彙、表現の拡大をめざします。単語習得に力を入れることで、実際の使える韓国語に取り組みます。		韓国語能力検定の 2 級レベルをめざします。	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>	
週に 1 度の授業だけでは能力は伸びません。かならず、週に 1 回以上、復習時間を持ってください。		翌週の授業までに必ず復習をして臨んでください。言語は積み重ね。短時間でいいので復習をしておくともちがいがなく習得が早いです。	
<b>[課題に対するフィードバックの方法]</b>			
授業ごとにミニレポートの提出をしてもらいます。それを添削して返却します。 [オフィスアワー]:授業終了後にいつでも個別質問を受け付けます			
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	60	筆記試験を実施します。	
期末レポート	0		
その他	40	課題レポートを提出してもらいます。そちらも評価の対象にします。	
<b>授業計画</b>			
1. 復習	肯定、疑問、否定	9. 数の数え方	固有語と漢数字
2. 復習	動詞、形容詞の活用	10. 実用韓国語 1	
3. 表現	仮定形の活用	11. 実用韓国語 2	
4. 表現	動詞の連体形の活用	12. 実用韓国語 3	
5. 表現	動詞と形容詞の過去形	13. 反復練習	
6. 表現	語尾の締めくり方	14. 反復練習	
7. 表現	漢字語と固有語	15. まとめ	韓国語へのさらなる興味を見つけるために
8. 表現	外来語表現		
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
できる韓国語初級(1) 新大久保学院 税込み 2200 円			
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:
<b>実務経験</b>			

コンピュータ・リテラシ A		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・1単位・15回 [学修準備時間 15]	
教員 森 大樹	年次・学期 1年・前	関連資格・必修/選択 [幼選]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 - DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>【授業の目的と概要】</b>		<b>【到達目標】</b>	
<p>インターネットやメール、文書作成、プレゼンテーションなどコンピュータに対する情報活用能力は、将来の就業においても大切な要素のひとつである。さらに近年、各種情報がデジタル化された結果、デジタルカメラやクラウドなど、ICT環境の運用能力も必要とされるようになった。</p> <p>【目的】本科目の目的は ICT 機器の活用方法を習得することである。ワードやGoogleクラスルーム、表計算を使って具体的な課題の演習をおこない、情報リテラシーを自然と身に付け、同時に専門分野などへの応用ができる力を習得する。</p> <p>【概要】次の授業計画に示したように、Googleクラスルームやワード等の持つそれぞれの基本機能について演習をおこないながら、コンピュータの基礎的な技能が自然に身につくように構成してある。作成したテーマ課題を授業時にプレゼンテーションし、相互学習をする。</p>		<p>各自持参するノート PC の使用方法、Googleクラスルームやワード等のソフトウェアの操作方法を学び、基本的な文書や簡単な表の作成がスムーズに出来るようになること。また単に例文通りに入力するだけでなく、全体の構成、体裁などについて各自が創意工夫して文書や表の作成ができるようになること、情報リテラシーを身に付けることを目標としている。</p>	
<b>履修のルール</b>			
<b>【履修のルール】</b>		<b>【予習・復習の方法「自主学習ガイド」】</b>	
「コンピュータ・リテラシ A」、「コンピュータ・リテラシ B」はカリキュラム内容が連続しているため、合わせて履修すること。		授業後には、授業時にできなかった課題を必ず最後まで完成させておくこと。また、授業時間内に完了した課題についても、もう一度復習し、学習内容を整理すること。	
		<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>	
		提出された課題に対して次回授業時に解説を行う。 【オフィスアワー】:火曜～金曜の昼休み・森研究室(704)	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	受講態度(40%)、課題等(60%)。課題への取り組み、授業態度を重視する。	
<b>授業計画</b>			
1. オリエンテーション、情報モラル		9. 文書作成演習(2)表の作成、印刷	
2. ノート PC 環境、メール、ブラウザの設定		10. 文書作成演習(3)画像挿入、図形描画	
3. Googleクラスルームの使い方		11. おたより作成	
4. Googleミート、Googleドライブの使い方		12. 表計算(1)関数による統計処理と情報分析	
5. タイピング課題		13. 表計算(2)グラフ作成	
6. 情報処理の基礎・情報検索・図書館利用法		14. パワーポイントを活用したプレゼンテーション資料の作成	
7. 自己紹介文作成と印刷		15. 総合演習問題	
8. 文書作成演習(1)ページ設定、文字列操作			
<b>【教科書】</b>		<b>【参考書】</b>	
『これからの保育のための ICT リテラシー&メディア入門』株式会社みらい 2022年4月発行 ISBN: 978-4-86015-578-0 価格: 3,300円(税込) 自分専用のノート PC を各自購入し、授業に各自持参すること。大学生協モデルも販売するので、どの機種を買っていいか迷う場合は生協モデルを購入してください。 ノート PC 推奨スペック→Googleクロームが動作するもの。画面10インチ以上。キーボード付き。		講義時に適宜紹介	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
PBL(課題解決型学習)		反転授業	ディスカッション、ディベート
学生によるプレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート
			グループワーク その他:
<b>実務経験</b>			

コンピュータ・リテラシ B		講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数 演・1単位・15回 [学修準備時間 15]	
教員 森 大樹	年次・学期 1年・後	関連資格・必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連 [幼選]	- DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 - DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>【授業の目的と概要】</b>		<b>【到達目標】</b>	
<p>インターネットやメール、文書作成、プレゼンテーションなどコンピュータに対する情報活用能力は、将来の就業においても大切な要素のひとつである。さらに近年、各種情報がデジタル化された結果、デジタルカメラやクラウドなど、ICT環境の運用能力も必要とされるようになった。</p> <p>【目的】本科目の目的は ICT 機器の活用方法を習得することである。ワードやパワーポイント等を使って具体的な課題の演習をおこない、これらの技能を自然と身に付け、同時に専門分野などへの応用ができる力を習得する。</p> <p>【概要】次の授業計画に示したように、ワードやパワーポイント等の持つそれぞれの基本機能について演習をおこないながら、コンピュータの基礎的な技能が自然と身につくように構成してある。作成したテーマ課題を授業時にプレゼンテーションし、相互学習をする。</p>		<p>ワードやパワーポイント等のソフトウェアの操作方法を学び、基本的な文書作成やプレゼンテーションがスムーズに出来るようになること。また単に例文通りに入力するだけでなく、全体の構成、体裁などについて各自が創意工夫して文書や表の作成ができるようになることを目標としている。</p>	
<b>履修のルール</b>			
<b>【履修のルール】</b>		<b>【予習・復習の方法「自主学習ガイド」】</b>	
「コンピュータ・リテラシ A」、「コンピュータ・リテラシ B」はカリキュラム内容が連続しているため、合わせて履修すること。		授業後には、授業時にできなかった課題を必ず最後まで完成させておくこと。また、授業時間内に完了した課題についても、もう一度復習し、学習内容を整理すること。	
		<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>	
		提出された課題に対して次回授業時に解説を行う。 【オフィスアワー】:火曜～金曜の昼休み・森研究室(704)	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	受講態度(40%)、課題等(60%)。課題への取り組み、授業態度を重視する。	
<b>授業計画</b>			
1. オリエンテーション		9. パワーポイント(4)運動会プログラム	
2. 学園祭ポスター制作(1)課題説明		10. パワーポイント(5)園生活ポスター	
3. 学園祭ポスター制作(2)デザイン完成		11. パワーポイント(6)思い出のスライドショー	
4. 名前シール作成		12. パワーポイント(7)手遊び動画	
5. 「情報機器の活用と保育」課題説明		13. 保育指導案(1)表様式作成	
6. パワーポイント(1)自己紹介作成		14. 保育指導案(2)内容完成	
7. パワーポイント(2)研究発表スライド		15. 総合演習問題	
8. パワーポイント(3)地図の作成			
<b>【教科書】</b>		<b>【参考書】</b>	
『これからの保育のための ICT リテラシー&メディア入門』株式会社みらい 2022年4月発行 ISBN: 978-4-86015-578-0 価格: 3,300円(税込)		講義時に適宜紹介	
自分専用のノート PC を各自購入し、2回目の授業に各自持参すること。大学生協モデルも販売するので、どの機種を買っていいか迷う場合は生協モデルを購入してください。 ノート PC 推奨スペック→グーグルクロームが動作するもの。画面10インチ以上。キーボード付き。			
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	<input type="checkbox"/> その他:
<b>実務経験</b>			

データサイエンス入門		講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数 講 ・ 1 単位 ・ 8 回 [学修準備時間 30]	
教員 森 大樹	年次・学期 1 年 ・ 前	関連資格 ・ 必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連	- DP1:情熱 ・ 使命感 ◎ DP3:探究 ・ 主体性 - DP2: 知識 ・ 技術 - DP4:人権 ・ 共感
<b>授業の目的 ・ 内容</b>			
<b>【授業の目的と概要】</b>		<b>【到達目標】</b>	
<p>【目的】本授業は全学生に向けて卒業必修科目として開講され、データサイエンスを中心とした科目です。現在、社会の急速な ICT 化にともない、様々な場面で ICT を活用して社会の問題解決、データ分析活用ができる能力が求められています。本学においても現代社会で求められるデータの分析と活用能力、AI の理解とプログラミング、情報モラル、教育・保育現場での ICT 活用等について学びます。</p> <p>【概要】本授業で身に付けられる能力は次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Society5.0 の概念を学ぶ(クラウド、ビッグデータ、IoT、AI)</li> <li>・人工知能 (AI) とプログラミングの基本的思考方法</li> <li>・情報モラルや情報セキュリティについての基礎事項</li> <li>・保育現場での ICT 園務支援システムの基礎事項</li> <li>・様々な場面でデータの集計、分析と解釈、統計処理。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在のグローバル社会において求められる、Society5.0、情報モラル、情報セキュリティ、AI 等の情報学</li> <li>・データサイエンスの基礎概念を理解し、説明できること。</li> <li>・データサイエンスの身近な活用事例を理解し説明できるようになること。</li> <li>・統計処理とグラフの作成ができるようになること。</li> </ul>	
<b>履修のルール</b>			
<b>【履修のルール】</b>		<b>【予習・復習の方法「自主学習ガイド」】</b>	
「コンピュータ・リテラシ A」「コンピュータ・リテラシ B」を履修していること。		授業後には、授業時にできなかった課題を必ず最後まで完成させておくこと。また、授業時間内に完了した課題についても、もう一度復習し、学習内容を整理すること。	
		<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>	
		提出された課題に対して次回授業時に解説を行う。	
		【オフィスアワー】:火曜～金曜の昼休み・森研究室(704)	
<b>評価基準 ・ 評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準 ・ 方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講態度(40%)、課題等(60%)。課題への取り組み、授業態度を重視する。</li> <li>・各授業時の演習課題を必ず提出すること。</li> </ul>	
<b>授業計画</b>			
1.	Society5.0 の概念(森)	9.	
2.	情報倫理、情報セキュリティ	10.	
3.	AI とプログラミング	11.	
4.	保育現場での ICT 活用	12.	
5.	データの分析と統計(1)データ集計	13.	
6.	統計データから考える河内長野市の現状と課題(河内長野市)	14.	
7.	データの分析と統計(2)グラフ	15.	
8.	データの分析と統計(3)考察		
<b>【教科書】</b>		<b>【参考書】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義時に資料をGoogleクラスルームで配布する。</li> <li>・ノート PC を各自毎回持参すること。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義時に指示する。</li> </ul>	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
<input type="checkbox"/>	PBL (課題解決型学習)	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	ディスカッション、ディベート
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	双方向アンケート
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	グループワーク
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	その他:
<b>実務経験</b>			

<b>体育理論</b>		講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数 講 ・ 1 単位 ・ 8 回 [学修準備時間 30]	
教員 相奈良 律	年次・学期 1 年 ・ 後	関連資格・必修/選択 [幼必][保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2: 知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
体育・スポーツについての講義を通して、保育者・教育者として健康と安全に関する知識を身につけることを目的とする。各回のテーマに基づき、講義を行い、生涯にわたって自らの健康の保持増進が図れるように理解を深める。また、子どもの発育発達をふまえてのイメージを膨らませ援助・指導に必要な知識や技能を習得する。		自身の健康観や運動の重要性に気づき日常の実践活動に生かすことができる。子どもの発育発達の基礎を理解できるようになる。	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>	
		授業時に配布するプリント等の資料を整理しておくこと。スポーツや体育・体力等に關する記事やニュース等を意識して読むようにすること。	
		<b>[課題に対するフィードバックの方法]</b>	
		課題等のフィードバックは、次時の授業冒頭で解説、説明する。筆記試験等は成績発表後に希望があれば開示、解説を適宜実施する。 [オフィスアワー]:授業時間前後。	
<b>評価基準・評価方法</b>			
<b>種類</b>	<b>割合(100%)</b>	<b>基準・方法</b>	
期末試験	70	到達目標に対応して筆記試験を行う。体育理論について用語の説明や自身の考えを問う。	
期末レポート	0		
その他	30	授業時に提示した課題について取り組み状況や内容を総合的に評価する。	
<b>授業計画</b>			
1. オリエンテーション、幼児体育の理論と現状、幼児の運動遊びの意義	9.		
2. 体育の歴史と文化、体育・遊びの概念	10.		
3. 熱中症について	11.		
4. オリンピック、パラリンピック	12.		
5. 体力とは、健康とは	13.		
6. 健康づくり～運動、栄養、睡眠～	14.		
7. 運動指導の留意点と安全への配慮	15.		
8. 子どもが動きたくなる環境づくり			
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
特に指定しない。必要に応じて適宜プリントを配布する。			
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他：
<b>実務経験</b>			

<b>講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数</b> <b>実 ・ 1 単位 ・ 15 回</b> [学修準備時間 15]													
<b>体育実技</b>													
<b>教員</b> 相奈良 律	年次・学期 1 年 ・ 前 関連資格 ・ 必修/選択 [幼必][保必]												
ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感													
<b>授業の目的・内容</b>													
<b>【授業の目的と概要】</b> 講義と実技を通して、身体運動に関する知識と実践のための方法や技術を身につけることを目的とする。学生自身が身体を動かす楽しさを体験する中で、子どもの発達をふまえてのイメージを膨らませ援助・指導に必要な知識や技術を習得する。また、保育者として必要な体力・運動能力の養成を図るために、運動遊びに加えて競技的なスポーツの実践を通して基礎技術の習得、ルールや特性について理解を深める。自らの健康の保持増進が図れるように理解を深めながら、心身のリフレッシュを図る。	<b>【到達目標】</b> 1)各運動を安全かつ効果的に実施するための基本的な動きと基礎的な知識を理解する。 2)技術の高低や得意不得意、好き嫌いにとらわれず、自分の持っている技術を活かして運動そのものを楽しむ能力を身につけることができる。 3)運動やゲームを多く経験し、保育現場で実践できるように理解し、簡易的な運動やゲームを考案することができる。												
<b>履修のルール</b>													
<b>【履修のルール】</b> ・ 授業に際し、体調管理に努めること。 ・ 授業時は、水分・汗ふきタオル・着替え・屋内屋外両方のシューズを常に用意しておくこと。	<b>【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】</b> ・ 授業時に配布する資料を整理しておくこと。 ・ 毎時、講義ノートに感想や気づきを記録する。 ・ 授業内容に応じて、自宅等で練習するなど動きの確認をしておくこと。 <b>【課題に対するフィードバックの方法】</b> 課題等のフィードバックは、次時の授業冒頭で解説、説明する。提出された講義ノート返却時にメッセージを添える。 [オフィスアワー]:授業時間前後。												
<b>評価基準・評価方法</b>													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>割合(100%)</th> <th>基準・方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>期末試験</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>期末レポート</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>100</td> <td>①到達目標 1)に対応して実技試験を行う。 ②グループワークにおける発表や活動状況を評価する。 ③授業への取り組み姿勢、講義ノートの提出を評価する。</td> </tr> </tbody> </table>	種類	割合(100%)	基準・方法	期末試験	0		期末レポート	0		その他	100	①到達目標 1)に対応して実技試験を行う。 ②グループワークにおける発表や活動状況を評価する。 ③授業への取り組み姿勢、講義ノートの提出を評価する。	
種類	割合(100%)	基準・方法											
期末試験	0												
期末レポート	0												
その他	100	①到達目標 1)に対応して実技試験を行う。 ②グループワークにおける発表や活動状況を評価する。 ③授業への取り組み姿勢、講義ノートの提出を評価する。											
<b>授業計画</b>													
1. オリエンテーション、アイスブレイキング 2. 「走」運動 (いろいろな鬼あそび) 3. 「投」運動 (基本動作の指導法、ボール運動) 4. 「跳」運動 (なわあそびの理論と実践) 5. 運動あそびの創作と発表 (グループワーク) 6. バラバールン 7. 器械運動 (とび箱、鉄棒の基本) 8. サーキットあそび	9. ニューススポーツ①ドッジビー 10. ニューススポーツ②ヘルスパレー 11. 身近なものを使った運動あそび (新聞紙、フラフープ) 12. 表現運動 (キッズダンス、ダンス創作) 13. 運動指導の理論と実践 (模擬保育実践に向けた内容検討) 14. 模擬保育実践① 15. 模擬保育実践②ふりかえり												
<b>【教科書】</b> 特に指定しない。必要に応じて適宜プリントを配布する。	<b>【参考書】</b>												
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>													
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>PBL (課題解決型学習)</th> <th>反転授業</th> <th>ディスカッション、ディベート</th> <th>○</th> <th>グループワーク</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○</td> <td>学生によるプレゼンテーション</td> <td>実習、フィールドワーク</td> <td>双方向アンケート</td> <td></td> <td>その他:</td> </tr> </tbody> </table>		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	○	グループワーク	○	学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート		その他:	
	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	○	グループワーク								
○	学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート		その他:								
<b>実務経験</b>													

キャリアデザイン I		講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数 講 ・ 2 単位 ・ 15 回 [学修準備時間 60]	
教員 阪田 啓代	年次・学期 1 年 ・ 通*	関連資格 ・ 必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連	◎ DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 - DP2: 知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
<p>本講義では、職業に関する基本的な情報・知識を学び、社会人として必要なスキルを身に付けることを目的とする。また、幼児教育をはじめ様々な分野で活躍する職業人の話や身近な職業人へのインタビュー等を通して、将来の進路選択や働くことの意味について考える。雇用形態の多様化が進み、仕事を取り巻く環境が大きく変わりつつあるなかで、自分の将来を描ける職業観を探究しよう。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現代社会に関心を持ち、職業や労働についての情報や知識を理解する。</li> <li>・ 職業イメージを持ち、卒業後の進路について具体的に考えられる。</li> <li>・ 社会人としての基礎的な素養を身に付ける。</li> </ul>	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予習、復習については授業内で指示する。</li> </ul>	
		<b>[課題に対するフィードバックの方法]</b>	
		<p>課題（小テストやレポート等）については、授業のなかで解説、講評を行う。 [オフィスアワー]:月～金 実習・キャリアサポート室で随時</p>	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	50	筆記試験を行う。	
期末レポート	0		
その他	50	授業への取り組み状況、授業内課題及び職業人へのインタビュー課題などで総合的に評価する。	
<b>授業計画</b>			
1. オリエンテーション/キャリアとは何か	2. 卒業後のキャリアをイメージする-幼稚園等-	3. 卒業後のキャリアをイメージする-福祉施設-	4. 卒業後のキャリアをイメージする-企業-
5. ソーシャルスキルを身に付ける	6. 働くことの基礎知識-契約と労働条件-	7. 働くことの基礎知識-法人・求人先理解-	8. 働くことの基礎知識-様々な雇用形態-
9. 非正規雇用の現状と課題	10. 採用試験の概略と模擬体験	11. 「働くこと」について考える（職業人へのインタビュー結果より）	12. 進路選択とキャリア理論
13. 自己分析・自己紹介書の作成①自己の棚卸し・自分の強みと弱み	14. 自己分析・自己紹介書の作成②キャリア・アンカー	15. まとめ-春休中の進路・就職活動計画を考える	
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プリント教材を配布</li> <li>・ 進路就職ハンドブック</li> </ul>			
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:
<b>実務経験</b>			
2 級キャリアコンサルティング技能士、国家資格キャリアコンサルタントとして、本学の進路指導を担当する部署で学生のキャリア支援を行っている。			

幼児と健康		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・1単位・8回 [学修準備時間 30]	
教員 本山 司	年次・学期 1年・後	関連資格・必修/選択 [幼必][保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
領域「健康」の指導について、幼児の健やかな心と体を育てるための基本的な生活習慣や安全な生活、運動発達などの側面から理解する。		乳幼児期の運動発達の特徴を通して、身体の諸機能の発達と生活習慣について理解する。また、その健康課題を理解することにより、乳幼児の健やかな発達はどうあるべきかを考える力を身につける。	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>	
		授業内で指示する章について、事前に予習をしておくこと。また、既習事項について復習をし、理解を深めておくこと。	
		<b>[課題に対するフィードバックの方法]</b>	
		課題等のフィードバックは、次時の授業冒頭で解説、説明する。筆記試験等は成績発表後に希望があれば開示、解説を適宜実施する。	
		[オフィスアワー]:授業の前後に受付します。	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	50	筆記試験(50%)	
期末レポート	0		
その他	50	・学習のまとめの発表内容及び成果(50%)	
<b>授業計画</b>			
1.	領域「健康」からみる乳幼児期の生活環境	9.	
2.	健康とは－その定義と乳幼児の健康の意義－	10.	
3.	現代における乳幼児の身体的・生理的発達	11.	
4.	発達の特徴からみる乳幼児期の基本的な生活習慣	12.	
5.	乳幼児期の運動発達の特徴	13.	
6.	乳幼児期に起こりやすい怪我と病気	14.	
7.	年齢別、発達の特徴による乳幼児期の生活リズムの形成	15.	
8.	保育現場での乳幼児期の遊びと安全への意識		
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
・秋田喜代美、三宅茂夫監『シリーズ知のゆりかご 子どもの姿からはじめる領域・健康』みらい ¥2,530(税込)			
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
○	PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート
	学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート
			○ グループワーク その他:
<b>実務経験</b>			

幼児と人間関係		講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数 演 ・ 1 単位 ・ 8 回 [学修準備時間 30]						
教員 石上 浩美	年次・学期 1年・前	関連資格・必修/選択 [幼必][保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感					
<b>授業の目的・内容</b>								
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>						
人と関わる能力の基盤は、子ども自身が養育者や周囲の大人から大切に護られているという安定感や自覚に基づいた基本的信頼関係である。幼稚園教育要領「人との関わりに関する領域(人間関係)」に示されているねらい「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。」をふまえて、人間関係の発達に関する基礎理論を理解し、コミュニケーションスキルの技法について実践的に学ぶことによって、保育者としての指導力を培う。		1)乳児期の二項関係から愛着形成、三項関係の成立に関する理論について理解できる。 2)ブロンフェンブレンナーの「生態学的システム論」に代表される幼児期の環境との関わりについて理解できる。 3)遊びや生活の中での子ども同士のとの関わりやいざこざ、子どもと保育者とのやりとりなど、幼児期特有の人間関係について事例から理解できる。 4)保育内容「人間関係」に関する現代の保育・教育・福祉課題について理解できる。						
<b>履修のルール</b>								
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>						
反転授業形式のため、指定テキスト精読すること(予習重視)		予習：シラバスを参考に教科書指定ページの精読(60分) 復習：授業内容などを参考にノート整理・事後学修課題を行う。(60分) ※授業資料・課題提出は Google Classroom を活用する。						
		<b>[課題に対するフィードバックの方法]</b>						
		・授業時全体アナウンス ・Google Classroom コメント [オフィスアワー]:後日公表 メールおよび Google Classroom も常時活用						
<b>評価基準・評価方法</b>								
種類	割合(100%)	基準・方法						
期末試験	50	筆記試験：50% 知識・理解の習熟度合いについて						
期末レポート	0							
その他	50	毎回のミニレポート (Google Form) 内容：30% 思考・判断力について 授業内口頭発表内容：20% 表現・独創性について						
<b>授業計画</b>								
1. 授業の目的・目標、内容、授業計画と評価観点・方法の説明、 テキスト第1章		9.						
2. 領域「人間関係」/乳幼児期の人間関係の発達の理解 テキスト第2章第3章		10.						
3. 乳幼児期の依存と自立/幼児期の道徳性・規範意識の芽生え テキスト第4章第5章		11.						
4. 幼児期の協同性を育む保育/乳幼児期の人間関係の広がり テキスト第6章第7章		12.						
5. 保育者との信頼関係を基盤とした子ども同士の関係構築と保育展開 テキスト第8章		13.						
6. 模擬保育1 領域「人間関係」を視点とした保育の構想(1) テキスト第9章		14.						
7. 模擬保育2 領域「人間関係」を視点とした保育の構想(2) テキスト第10章		15.						
8. 領域「人間関係」と現代的諸問題(特別講師) 無戸籍・無国籍の子どもと家庭支援								
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>						
柏まり・小林みどり編著(2023)新・保育と人間関係―理論と実践をつなぐために、嵯峨野書院、定価(本体2,250円+税) ISBN978-4-7823-0621-5		多数あるため適宜講義内で紹介する。						
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>								
	PBL(課題解決型学習)	○	反転授業		○	ディスカッション、ディベート	○	グループワーク
○	学生によるプレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○	双方向アンケート			その他:
<b>実務経験</b>								

幼児と環境		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・1単位・8回 [学修準備時間 30]	
教員 柳原 高文	年次・学期 1年・後	関連資格・必修/選択 [幼必][保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
領域(環境)のねらいと内容について理解し、幼児と身近な環境との関わりの意義や自然認識の発達について学ぶ。幼児は、人や社会、自然など様々な環境に取り巻かれて育つことから、幼児の思考、自然認識の発達や、幼児と環境との関わりの意義、現代的な課題などについて学ぶ。		1) 幼稚園教育要領における保育内容(環境)のねらいと内容を理解し、説明できる。 2) 身近な地域環境の現状と課題を踏まえながら、幼児と環境との関わりの意義や、自然認識の発達について理解する	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>	
		予習: 次回までに予習すべき内容と準備物について授業内で指示する。 復習: 教科書や配布プリント等の内容の整理、演習授業では実践の振り返りを行うこと。	
		<b>[課題に対するフィードバックの方法]</b>	
		授業内で解説する。また、実践の振り返りについては個別に添削を行う。 [オフィスアワー]: 水の昼休み	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	70	筆記試験を行う。	
期末レポート	0		
その他	30	授業への関心・意欲・態度	
<b>授業計画</b>			
1.	オリエンテーション/野外ゲーム	9.	
2.	幼児と環境とは/キャンパスの自然観察	10.	
3.	自然事象の不思議とは	11.	
4.	森のようちえんとは	12.	
5.	ちよたんの森での園児との活動1	13.	
6.	ちよたんの森での園児との活動2	14.	
7.	生き物との関わり	15.	
8.	全国の森のようちえん		
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
適時資料配布			
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
PBL(課題解決型学習)		反転授業	ディスカッション、ディベート
学生によるプレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	双方向アンケート
			○ グループワーク その他:
<b>実務経験</b>			
森林インストラクター。この経験をもとに保育の基本を指導する。			

幼児と言葉		講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数 演 ・ 1 単位 ・ 8 回 [学修準備時間 30]	
教員 寄 ゆかり, 西元 咲文	年次・学期 1 年 ・ 前集	関連資格・必修/選択 [幼必][保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2: 知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
三法令(幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領)に示された領域「言葉」のねらいおよび内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。また、言葉の育つ道筋と保育者のかかわりや役割について知る。		1)保育の基本等を踏まえ領域「言葉」のねらいおよび内容を理解する。 2)乳幼児が言葉を獲得していく発達過程を理解する。 3)言葉によって育まれる力を理解し、それらを育むための保育者の指導や支援のあり方について検討することができる。	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学習ガイド」]</b>	
		予習：授業計画に記載されている内容に添って事前に教科書を読んでおくこと。 復習：教科書や配布資料を再読し、授業内容を整理しておくこと。演習授業では振り返りを行うこと。	
		<b>[課題に対するフィードバックの方法]</b>	
		授業内で解説する。また、実践の振り返りについては個別に添削を行う。 [オフィスアワー]:授業後質問を受け付ける。	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	授業への参加状況(ペアワーク、グループワーク)、ミニレポート、受講態度による評価	
<b>授業計画</b>			
1.	オリエンテーション/領域「言葉」とは	9.	
2.	人間と言葉	10.	
3.	乳幼児期の言葉の獲得	11.	
4.	言葉の豊かさ	12.	
5.	言葉遊び	13.	
6.	児童文化財(おはなし・紙芝居)	14.	
7.	児童文化財(絵本とは何か・絵本と子ども)	15.	
8.	模擬保育：児童文化財を活用した保育		
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
馬見塚昭久/小倉直子 『保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導演法」』 ミネルヴァ書房 ¥2,640(税込)		授業中に適宜紹介する。	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
PBL(課題解決型学習) 学生によるプレゼンテーション	反転授業 ○ 実習、フィールドワーク	ディスカッション、ディベート 双方向アンケート	○ グループワーク その他：
<b>実務経験</b>			
公立の幼稚園教諭、また、海外の日本人学校の幼稚園教諭として勤務。 この経験をもとに保育の基本を指導する。			

幼児と表現		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・1単位・8回 [学修準備時間 30]	
教員 大浦 知加	年次・学期 1年・前	関連資格・必修/選択 [幼必][保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・三法令(幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領)の領域「表現」のねらい及び内容の取扱いについて理解する。</li> <li>・幼児の表現の特徴を理解し、その発達をサポートする環境構成や技術を実践的に学ぶ。</li> <li>・さまざまな保育教材を通じた表現あそびを体験し、その表現方法を理解する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「表現」の指導に関する、幼児が表現活動を行うための支援の在り方を理解し、知識・技術・表現力を身につける。</li> <li>・幼児の表現の過程と特徴を理解して、領域「表現」を捉え、その指導を展開できる。</li> <li>・保育教材を通じた、幼児が表現活動を行うための支援の方法を理解し、知識・技術・表現力を身につける。</li> </ul>	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・動きを伴うため、動きやすい服装と靴。</li> <li>・配布する楽譜類はスケッチブックに貼り保存。</li> <li>・スケッチブック・フェイスタオル持参。</li> <li>・創作時は「ホチキス、カッター、のり、マジック、色鉛筆」等を持ってくる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・三法令の領域「表現」の内容を読んでおく。</li> <li>・授業内容を振り返り、理解を深める。</li> <li>・学習した内容の中で興味・関心を持った点を自主的に深める。</li> </ul>	
<b>[課題に対するフィードバックの方法]</b>			
その場で、課題に応じた指導を返したり、補足説明をする。また、随時メールや Classroom を活用して行う。 [オフィスアワー]:火～金曜(研究室)			
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	40	実技試験(パネルシアターオペレッタ発表)	
期末レポート	0		
その他	60	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オペレッタ創作への取り組み状況</li> <li>・授業内ミニレポート、振り返りレポート</li> <li>・オペレッタ発表への取組み状況(意欲・片付け含む)</li> </ul> 上記を総合的に評価する。	
<b>授業計画</b>			
1.	幼児の表現における発達の理解/身近なモノと関わり捉えた知覚をオノマトペや色、形で表現する	9.	
2.	幼児の表現する過程を体験し感覚特性を理解する/絵本リトミック、身ぶり表現	10.	
3.	幼児の表現を支える効果音、手作り楽器から表現遊びを創作する	11.	
4.	コミュニケーション的要素を取り入れた言葉と音による表現	12.	
5.	総合的表現発表の骨組みを考える(こどもたちに伝えるための表現方法について、グループ内でディスカッションを行い最良の方法を目指す)(パネルシアター制作を含む)	13.	
6.	コミュニケーションとしての表現(発表を支える児童文化財の特性を知り、創作する)(パネルシアター制作を含む)	14.	
7.	コミュニケーションとしての表現(発表を支える音や身ぶり表現を探索する)(パネルシアターオペレッタ)	15.	
8.	コミュニケーションとして表現する方法をかたちにする(グループワーク発表)		
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
編著：伊藤伸明『3つのコードで楽しく弾ける』ドレミ楽譜出版¥1,980(税込)		・平成29年度 幼稚園教育要領(最新版)、保育所保育指針(最新版)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版) 適宜授業で紹介する。	
編著：木村鈴代『新たなしい子どものうたあそび一現場で活かせる保育実践—第2版』同文書院¥2,420(税込) スケッチブック¥330(税込)		※すべて、他の音楽・表現授業と共有、2年間継続して使用します。	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
○ PBL(課題解決型学習)	○ 反転授業	○ ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
○ 学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	○ その他:学生による創作表現・発表
<b>実務経験</b>			
保育園・こども園・小学校・中学校・高校、専門学校音楽講師勤務の経験と、現場保育者や教員への音楽指導経験を生かした指導法を展開する。また長年、0歳～大人までのピアノ指導や親子リトミック・音楽遊び指導を行い、和楽器・管弦打楽器こどもオーケストラや舞台イベントを主催・指導。自身も和太鼓やピアノによる舞台表現家である。			

表現技術(ピアノ I)		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・1単位・15回 [学修準備時間 15]	
教員 寄 ゆかり, 他	年次・学期 1年・前	関連資格・必修/選択 [幼必][保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
<p>幼児の様々な表現方法を豊かにするための表現遊びや歌唱、弾き歌いのための伴奏方法、またそれに必要な音楽理論などを総合的に学ぶ。 また、ピアノの基本的な演奏法を学び、その技術を向上させることにより、保育で活用できる演奏（主に幼児教育現場での「弾き歌い」ができる）力を身につける。</p>		<p>幼稚園教育要領の領域「表現」のねらい及び内容の取扱いについて理解し、 ・保育に必要なピアノの演奏力を身につける。 ・保育現場で使われる幼児曲等を知り、歌える。 ・保育現場で行われる乳幼児の手遊びができる。</p>	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>	
<p>・イヤホンは必ず持参すること。 ・ピアノ演奏を行うため、必ず爪は短くし、マニキュア等不要なものを取っておくこと。</p>		<p>ピアノや手遊びなど、演習は日々の練習の積み重ねが大変、重要です。授業時に学んだ予習方法をもとに、できるだけ毎日、練習するようにしてください。</p>	
<b>[課題に対するフィードバックの方法]</b>			
<p>実技ミニチェックでは、その場で各自に応じた指導を返している。また、楽典、レポートなどはClassroom等で各自の課題をコメントし、指導に活かしている。 [オフィスアワー]:お昼休み等(研究室)</p>			
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	50	実技試験(日常の授業での取り組み状況も含んだ演奏試験)	
期末レポート	0		
その他	50	授業内実技ミニテスト(歌唱、手遊び)の評価及び、課題(楽典、レポート)の取り組み状況等	
<b>授業計画</b>			
1. 領域「表現」のねらいからみる歌唱、鍵盤演奏力の必要性		9. 季節の曲の歌唱(春夏)とコード奏/アインザッツのタイミングを学ぶ	
2. 保育現場での音楽遊び/保育に用いるコード練習(C:)		10. 夏の歌唱曲を子どもたちと歌う。曲想に関する音楽理論の復習	
3. 保育現場での手遊び、身体遊び/保育に用いるコード練習(C:, G:)		11. 秋の歌唱曲と手遊びを知る	
4. 季節の曲の歌唱(春)とコード奏(C:G:F:)弾き歌い		12. 手遊びの経験(実習の時期に合わせた)	
5. コードと歌。演奏に関する音楽理論の復習		13. 秋の歌唱曲の弾き歌い(イントロ・アインザッツ・エンディングまで)	
6. 春の歌唱曲を子どもたちと歌う/様々な伴奏形を知る		14. 長調カデンツを用いたコード奏と伴奏形の復習	
7. 保育で使用するコードを使ってイントロ、エンディングをつける		15. 夏秋(実習に合わせた)の弾き歌いと手遊び。音楽理論の復習	
8. コードを用いた弾き歌いと様々な伴奏形の体験			
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
<p>編著：伊藤伸明『3つのコードで楽しく弾ける』ドレミ楽譜出版 ¥1,980(税込) 編著：木村鈴代『たのしい子どものうたあそび』同文書院 ¥2,200+税 編著：神原雅之ほか『幼児のための音楽教育』教育芸術社 ¥2,000+税 (※冊数が多いですが、2年間使用します)</p>		<p>平成29年度 幼稚園教育要領(最新版)、保育所保育指針(最新版)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)</p>	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
PBL(課題解決型学習)	○	反転授業	ディスカッション、ディベート
学生によるプレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	双方向アンケート
			グループワーク その他:
<b>実務経験</b>			
<p>音楽教室においては、3歳児から70代までのピアノ、エレクトーンでの鍵盤指導及び管楽器、打楽器指導を中心としたアンサンブル教育も行う。また現役保育者に対する保育内容に関する実技講習などの研修を多く行っている。</p>			

表現技術(ピアノⅡ)		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・1単位・15回 [学修準備時間 15]	
教員 寄 ゆかり, 他	年次・学期 1年・後	関連資格・必修/選択 [幼必][保選]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
<p>幼児の様々な表現方法を豊かにするための表現遊びや歌唱、弾き歌いのための伴奏方法、またそれに必要な音楽理論などを総合的に学ぶ。</p> <p>また、表現技術(ピアノⅠ)で学んだピアノの基本的な演奏法については、さらにその技術を向上させることにより、保育で活用できる演奏(主に幼児教育現場での「弾き歌い」ができる)力を身につける。</p>		<p>幼稚園教育要領の領域「表現」のねらい及び内容の取扱いについて理解し、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育に必要なピアノの演奏力を身につける。</li> <li>・保育現場で使われる幼児曲等を知り、歌える。</li> <li>・保育現場で行われる乳幼児の手遊びができる。</li> </ul>	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学習ガイド」]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・イヤホンは必ず持参すること。</li> <li>・表現技術(ピアノⅠ)の単位修得済みであること。</li> <li>・ピアノ演奏を行うため、必ず爪は短くし、マニキュア等不要なものは取っておくこと。</li> </ul>		<p>ピアノは日々の練習の積み重ねが大変、重要です。授業時に学んだ予習方法を元に、必ず毎日、ピアノに触れて練習するようにしてください。</p> <p><b>[課題に対するフィードバックの方法]</b> 実技ミニチェックでは、その場で各自に応じた指導を返している。また、楽典、レポートなどはClassroom等で各自の課題をコメントし、指導に活かしている。 [オフィスアワー]:お昼休み等(研究室)</p>	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	50	実技試験(日常の授業での取り組み状況も含んだ演奏試験)	
期末レポート	0		
その他	50	授業内実技ミニテスト(歌唱、手遊び)の評価及び、課題(楽典、レポート)の取り組み状況等	
<b>授業計画</b>			
1. 領域「表現」のねらいからみるピアノの弾き歌い、カデンツ練習	2. 保育現場での音楽遊び/保育に用いるコード練習(c:)	3. 保育現場での手遊び、身体遊び/保育に用いるコード練習(c:, d:, a:)	4. 季節の曲の歌唱(秋)とコード奏、弾き歌い
5. コードを使って歌の楽しさを味わう/簡単な伴奏で流れを止めない練習	6. 秋の歌唱曲を子どもたちと歌う/伴奏の違いによる曲のイメージ	7. 保育で使用するコード復習(6つの調)	8. コードを用いた弾き歌いと様々な伴奏形
9. 季節の曲の歌唱(冬)とコード奏/伴奏の違いによる曲のイメージ	10. 冬の歌唱曲を子どもたちと歌う	11. 実習で弾き歌いするために必要な力	12. テンポ、曲想をつかみながら、秋冬の歌唱曲を弾き歌いする。
		13. カデンツを用いたコード奏と伴奏形の復習(春、夏の曲)	14. 四季を通じた弾き歌いのレパートリーを増やす
		15. 子どもと歌を楽しむために必要な演奏力	
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
<p>編著：伊藤伸明『3つのコードで楽しく弾ける』ドレミ楽譜出版 ¥1,980(税込)</p> <p>編著：木村鈴代『たのしい子どものうたあそび』同文書院 ¥2,200+税</p> <p>編著：神原雅之ほか『幼児のための音楽教育』教育芸術社 ¥2,000+税</p> <p>※すべて表現技術(ピアノⅠ)の教科書を継続して使用します。</p>		<p>平成29年度 幼稚園教育要領(最新版)、保育所保育指針(最新版)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)</p>	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
PBL(課題解決型学習)	○ 反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:
<b>実務経験</b>			
音楽教室においては、3歳児から70代までの幅広い層にピアノ、エレクトーンでの鍵盤指導及び管楽器、打楽器指導を中心としたアンサンブル教育も行う。また現役保育者に対する保育内容に関する実技講習などの研修を多く行っている。			

表現技術(造形 I)		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・1単位・15回 [学修準備時間 15]	
教員 東 景子	年次・学期 1年・前	関連資格・必修/選択 [幼必][保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>【授業の目的と概要】</b>		<b>【到達目標】</b>	
この授業では、高校で美術を受講していた有無に関わらず、皆さんが保育者になるまでに身につけてほしい造形的な発想や構想力、技能や表現力を想定して実施する。具体的には、素材を活かす作品作りや、直接描く絵画とは違う、版画表現を取り入れた間接的な表現の習得、季節や行事に合った作品作りを取り入れて楽しむ。		1. 課題作品の演習を通して、素材や技法に対する理解を深め、表現や工夫する力を習得する事を目的とする。 2. 保育者になる学生自身が造形表現を楽しみ、保育現場でも活用出来る様に意識して取り組む事が出来る。	
<b>履修のルール</b>			
<b>【履修のルール】</b>		<b>【予習・復習の方法「自主学習ガイド」】</b>	
特に絵の具画材を使用する回では、多少汚れても構わない服装がエプロン等を持参の上受講する事。		必要な道具と素材は告知するので、必ず事前に準備し持参する事。各課題について確実に仕上げ、鑑賞会の際には、作品制作意図も説明できる様にする事。	
<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>			
作品鑑賞会の際にコメントをする、もしくは、課題とプリント返却時にメッセージを添える等の方法で行う。 [オフィシアワー]:月火水金の昼休み、図工室か研究室			
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	準備物、制作課題提出、作品制作意図のまとめプリントで評価する。	
<b>授業計画</b>			
1. オリエンテーション、造形表現の意義 持ち物・準備物の確認	9. 表現技法の紹介③スパッタリング		
2. パラバルーンで遊ぼう！一身体で風を感じてー	10. 道具を扱う①針金の造形		
3. 子どものなりたいものに変身！～素材を活かす～①	11. 版遊びの紹介①粘土でロール版画遊び		
4. 子どものなりたいものに変身！～素材を活かす～②	12. グループワーク-大きな壁面制作-		
5. 子どものなりたいものに変身！～素材を活かす～③完成-撮影会	13. グループワーク-大きな壁面制作-		
6. 触覚を楽しむ！①紙粘土遊び	14. グループワーク-大きな壁面制作-		
7. 表現技法の紹介①はじき絵	15. 壁面制作の完成-作品鑑賞会-		
8. 表現技法の紹介②スクラッチ			
<b>【教科書】</b>		<b>【参考書】</b>	
横英子『保育をひらく造形表現』萌文書林 2,300円+税 必要に応じてプリント資料を配布する。 ○サクラクレパス マット水彩12色12mlポリ MW12 PE、○サクラクレパス太巻き16色、○サクラクレパス NR10 [画筆ネオセブロン 丸筆10号]、○フエキ 幼児用でんぶん糊 どうぶつのみ 3号 160g、○サクラクレパス 水性ペン ピグ マックス 細字 8色 ZPK-S8 ●ゼブラ油性マーカー マッキーP-M0-120-MC-BK (昨年と同様) +○協和紙工 パラエティ おりがみ15cm角(80枚)、○			
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	<input type="checkbox"/> その他:
<b>実務経験</b>			
小中学校の図画工作・美術(非常勤講師・常勤講師)と併設の特別支援学級の美術、社会人向けの生涯学習(木版画教室)講師			

表現技術(造形Ⅱ)		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・1単位・15回 [学修準備時間 15]	
教員 東 景子	年次・学期 1年・後	関連資格・必修/選択 [幼必][保選]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
前期の表現技術(造形Ⅰ)に続き、皆さんが保育者になるまでに身につけてほしい造形的な発想や構想力、技能や表現力を想定して実施する。具体的には、素材を活かす作品作りや、季節や行事に合った作品作りを取り入れて楽しむ。		1. 課題作品の演習を通して、素材や技法に対する理解を深め、表現や工夫する力を習得する事を目的とする。 2. 保育者になる学生自身が造形表現を楽しみ、保育現場でも活用出来る様に意識して取り組む事が出来る。	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>	
特に絵の具画材を使用する回では、多少汚れても構わない服装かエプロン等を持参の上受講する事。		必要な道具と素材は告知するので、必ず事前に準備し持参する事。各課題について確実に仕上げ、鑑賞会の際には、作品制作意図も説明できる様にすること。 <b>[課題に対するフィードバックの方法]</b> 作品鑑賞会の際にコメントをする、もしくは、課題とプリント返却時にメッセージを添える等の方法で行う。 [オフィスアワー]:月火水金の昼休み、図工室か研究室	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	0	準備物、制作課題提出、作品制作意図のまとめプリントで評価する。	
<b>授業計画</b>			
1. オリエンテーション 折り紙を使って		9. 冬の造形①平面制作 想像の世界を描く2	
2. 版遊びの紹介②マーブリング		10. 冬の造形①平面制作 想像の世界を描く3	
3. マーブリングの応用 コラージュ制作		11. 冬の造形②立体制作 シンプルな形から1	
4. 版遊びの紹介③ステンシル		12. 冬の造形②立体制作 シンプルな形から2	
5. 表現技法の紹介④フロッターージュ		13. 「表現を活かす基礎技法」表紙制作1	
6. 表現技法の紹介⑤ドリップング		14. 「表現を活かす基礎技法」表紙制作2	
7. 野外活動一落ち葉アートー		15. 作品のまとめ、振り返り	
8. 冬の造形①平面制作 想像の世界を描く1			
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
槇英子『保育をひらく造形表現』萌文書林 2,300円+税			
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	<input type="checkbox"/> その他:
<b>実務経験</b>			
小中学校の図画工作・美術(非常勤講師・常勤講師)と併設の特別支援学級の美術、社会人向けの生涯学習(木版画教室)講師			

保育内容総論		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・1単位・8回 [学修準備時間 30]	
教員 石上 浩美	年次・学期 1年・前	関連資格・必修/選択 [幼必][保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
<p>「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が改定された。それに応じて、多様な背景のある子どもや家庭を支援し、就学前教育カリキュラムを作成できる専門知識と技能が求められるようになった。このような現状をふまえながら、保育内容5領域について俯瞰的に理解することがこの科目の大きな目的である。そして、公教育を担う保育者として適切な教育実践を行うことができるようになることをめざす。具体的には、アクティブ・ラーニング(AL)形式で様々な保育実践事例を紹介しながら、保育実践力の修得を目指す。さらに、現代の保育課題を明らかにし、それらへの具体的な対処方法・方略を探究する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の内容について論述ができる。</li> <li>2. 年齢発達段階に応じた保育内容5領域に関する基礎知識をふまえた論述ができる。</li> <li>3. アクティブ・ラーニング(AL)形式での議論に参加し保育実践力の基礎を修得できる。</li> <li>4. 現代の保育課題に興味・関心を持ち、それらへの具体的な対処方法・方略を探究できる。</li> </ol>	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>	
反転授業形式のため、指定テキスト精読すること(予習重視)		予習: シラバスを参考に教科書指定ページの精読(60分) 復習: 授業内容などを参考にノート整理・事後学修課題を行う。(60分) ※授業資料・課題提出は Google Classroom を活用する。	
<b>[課題に対するフィードバックの方法]</b>			
・授業時全体アナウンス ・Google Classroom コメント [オフィスアワー]: 後日公表 メールおよび Google Classroom も常時活用			
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	50	筆記試験: 50% 知識・理解の習熟度合いについて	
期末レポート	0		
その他	50	毎回のミニレポート (Google Form) 内容: 30% 思考・判断力について 授業内口頭発表内容: 20% 表現・独創性について	
<b>授業計画</b>			
1.	オリエンテーション 授業の目的・目標、内容、授業計画と評価観点・方法の説明	9.	
2.	教育・保育の基本と保育内容の理解/子どもの発達と理解 テキスト第1章第2章	10.	
3.	5領域と保育内容/保育内容の基礎理解 テキスト第3章第4章第5章	11.	
4.	各年齢の保育内容① 0歳児から2歳児 テキスト第7章第8章	12.	
5.	各年齢の保育内容② 3歳児から5歳、小学校との連携 テキスト第9章第10章	13.	
6.	様々なニーズを支援する保育内容 テキスト第11章第12章	14.	
7.	保育内容の発展的理解/口頭発表 テキスト第13章第14章	15.	
8.	諸外国の保育内容/口頭発表 テキスト第15章		
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
小川圭子・日坂歩都恵・小林みどり編著(2021)『保育実践になく保育内容総論』 みらい(ISBN:9784860155605) 2420円		・文部科学省編 幼稚園教育要領解説(平成30年3月) フレーベル館(ISBN9784577814475) 264円 ・厚生労働省編 保育所保育指針解説(平成30年3月) フレーベル館(ISBN9784577814482) 352円	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
○	PBL(課題解決型学習)	○	反転授業
○	学生によるプレゼンテーション	○	ディスカッション、ディベート
		○	グループワーク
		○	実習、フィールドワーク
		○	双方向アンケート
		○	その他:
<b>実務経験</b>			

教育学		講義/演習/実技実習・単位数・回数 講・2単位・15回 [学修準備時間 60]	
教員 松浦 善満	年次・学期 1年・前	関連資格・必修/選択 [幼必][保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
<p>・ヒトは教育の営みをする唯一の動物です。教育原理のスタートは A. ボルトマンの生理的早産の発見に学びます。つぎに発達・成長と教育の原理、さらに教育の歴史について学びます。</p>		<p>①保育者として保育、教育の原理について理解する。 ②保育者に必要な保育・教育の歴史について基本的理解を深める。 ③現代の教育課題について実践的に理解を深める。</p>	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>	
<p>1) 授業の資料をそのつど配布しますので、テキストは使用しません。 2) 配られた資料はノートに添付し学習の参考にします。 3) 授業の最後に授業評価と感想を求めますので必ず記入ください。</p>		<p>1) 授業で紹介した資料を毎時間 30 分程度復習してください。2) 次回の授業準備をお願いしますのでその都度、予習してください。 <b>[課題に対するフィードバックの方法]</b> 1) ノートのチェックを 3 回程度行います。2) 授業の感想を次の授業で紹介します。 [オフィスアワー]: 水曜昼休み、および 3 時間目、授業終了後研究室にて。</p>	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	50	筆記試験	
期末レポート	0		
その他	50	授業に取り組む姿勢 (30%)、ノート (20%)	
<b>授業計画</b>			
<p>1. オリエンテーション・保育者としての保育・教育学とは 2. 子どもの発達①ヒトはなぜ生理的早産なのか?A. ボルトマン 3. 子どもの発達②敏感期と子どもの遊びと発達 4. 子どもの発達③言葉と創造 非認知能力について 5. 子育ての歴史1 (近世・江戸時代の教育/浮世絵に学ぶ) 6. 子育ての歴史2 (幼稚園の発足と明治期の教育) 7. 子育ての歴史3 (保育所の発足と大正期の教育) 8. 子育ての歴史4 (戦時下の保育・教育)</p>		<p>9. 子育ての歴史5 (戦後の保育・教育) 10. 子どもと保育・教育問題1 (早期教育の課題を考える) 11. 子どもと保育・教育問題2 (いじめ問題の解決に向き合う) 12. 子どもと保育・教育問題3 (児童虐待問題に向き合う) 13. 子どもと環境問題 (森の幼稚園・ゲスト授業) 14. 子どもと絵本 (読み聞かせのコツ) 15. まとめ・専門職としての保育・教育学の課題</p>	
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
教科書はそのつど資料を配布しますので購入しなくてよい。参考図書①汐見利幸他『日本の保育の歴史』(萌文書林) ②矢野健夫『日本における保育園の誕生』(新読書社) ③広岡キミエ作品		参考図書①汐見利幸他『日本の保育の歴史』(萌文書林) ②矢野健夫『日本における保育園の誕生』(新読書社) ③広岡キミエ作品	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	○ その他:ゲスト授業を企画します。
<b>実務経験</b>			

教職・保育者論		講義/演習/実技実習・単位数・回数 講・2単位・15回 [学修準備時間 60]	
教員 板倉 史郎	年次・学期 1年・前	関連資格・必修/選択 [幼必][保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
授業の目的・内容			
[授業の目的と概要] 学校教育・保育の目的と教員・保育士養成の変遷について概説し、現代社会における教職・保育職について、その意義、役割、資質、職務について学習する。		[到達目標] 教員、保育者の職務について理解する。	
履修のルール			
[履修のルール]		[予習・復習の方法「自主学习ガイド」] ・配布する資料等を整理し、活用する。 ・授業時に予習、復習について説明する。 [課題に対するフィードバックの方法] ・講義で課すミニレポートに関しては、次回の講義で講評を行い、返却する。 [オフィスアワー]:特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。	
評価基準・評価方法			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	授業への参加状況(40%)、各講義で課すミニレポート(40%)、最終レポート(20%)により総合的に評価する。	
授業計画			
1. オリエンテーション、授業概要、諸注意	2. 教育とは何かー「教育」と「教師」	3. 教職とは何か①ー教師にはどのような資質、能力が求められるか	4. 教職とは何か②ー教師・教職の歴史、養成・採用・研修
5. 法令から見た教員ー教員の種類、身分、服務	6. 幼保連携(一元化)ー保育士と幼稚園教員、保育教諭	7. 教員・保育者の専門性①ー子ども理解	8. 教員・保育者の専門性②ー緊急時の対応
9. 教員・保育者の専門性③ー保・幼・小の連携と協働	10. 幼稚園教諭と保育士の職務の相違点、共通点	11. 教員以外の専門職スタッフとの連携・協働ーチーム学校	12. 地域社会、保護者との連携・協働
13. 学校・教員をとりまく現状と課題①ー教員評価、法定研修、体罰	14. 学校・教員をとりまく現状と課題②ーいじめ問題、カウンセリングマインド	15. 教職・保育職の意義及び教員・保育士の職務のまとめ	
[教科書] ・寄ゆかり、伊藤一雄編著『新しい保育基礎』サンライズ出版 ・¥2,200(税込)		[参考書]	
アクティブラーニングへの取り組み			
PBL(課題解決型学習) 学生によるプレゼンテーション	反転授業 実習、フィールドワーク	○ ディスカッション、ディベート 双方向アンケート	○ グループワーク その他:
実務経験			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校現場において、長年にわたり教育活動を行ってきた。</li> <li>・小学校現場において、実習生の指導を担当してきた。</li> </ul>			

教育心理学		講義/演習/実技実習・単位数・回数 講・2単位・15回 [学修準備時間 60]	
教員 石上 浩美	年次・学期 1年・後	関連資格・必修/選択 [幼必][保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
<p>教育心理学とは、「教育現場に役立つための心理学的な知見とアプローチ」について考えるための学問である。</p> <p>それは、保育士・教員として現場に立った時に役立つ実践的な理論であるとともに、いつかどこかで子どもと関わり育む状況になった時にも活用可能なものであってほしいと考える。教育心理学が取り扱う主な内容は、発達・学習・人格・適応・評価である。この講義では、幼児期の発達と協同学習の理念と手法に基づいた問題解決型の学習展開を目指している。</p>		<p>(1)教育心理学に関する基礎的な理論と用語を理解することができる。</p> <p>(2)現代の幼児教育・保育に関する時事的な問題に対して、興味・関心を持つことができる。</p> <p>(3)講義内容に関する、予習・復習が習慣化できる。</p> <p>(4)講義時の質疑応答やグループワークに積極的に参加できる。</p> <p>(5)自己の保育者イメージを考え、形成しようとする事ができる。</p>	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>	
反転授業形式のため、指定テキスト精読すること（予習重視）		予習：シラバスを参考に教科書指定ページの精読(60分) 復習：授業内容などを参考にノート整理・事後学修課題を行う。(60分) ※授業資料・課題提出は Google Classroom を活用する。	
<b>[課題に対するフィードバックの方法]</b>			
・授業時全体アナウンス ・Google Classroom コメント [オフィスアワー]:後日公表 メールおよび Google Classroom も常時活用			
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	50	筆記試験：50% 知識・理解の習熟度合いについて	
期末レポート	0		
その他	50	毎回のミニレポート (Google Form) 内容：30% 思考・判断力について 授業内口頭発表内容：20% 表現・独創性について	
<b>授業計画</b>			
1. オリエンテーション 授業の目的・目標、計画と評価観点・方法 テキスト第1章	2. 乳児期の発達 テキスト第2章	3. 幼児期の発達 テキスト第3章	4. 児童期から思春期の発達 テキスト第4章
5. 青年期から生涯にわたる発達 テキスト第5章	6. 学習のプロセス テキスト第6章	7. 協同学習 テキスト第7章	8. 人格の形成 テキスト第8章
9. 適応支援と心理アセスメント テキスト第9章	10. 障害を持つ子どもの理解 テキスト第10章	11. 保育・教育評価 テキスト第11章	12. 子どもを取りまく現状と課題Ⅰ 幼稚園教育要領から テキスト第12章
		13. 子どもを取りまく現状と課題Ⅱ スマホ依存といじめを中心に テキスト第13章	14. 子どもを取りまく現状と課題Ⅲ Society.5.0 社会 テキスト第14章
		15. 多文化共生社会とこれからの教育心理学 テキスト第15章	
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
石上浩美編著『新・教育心理学』嵯峨野書院 ¥未定(税込) 2024年7月新刊発行予定		多数あるため講義内で適宜紹介する	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	<input type="checkbox"/> その他:
<b>実務経験</b>			

特別支援教育		講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数 演 ・ 1 単位 ・ 8 回 [学修準備時間 30]	
教員 土居 隆	年次・学期 1 年 ・ 後	関連資格 ・ 必修/選択 [幼必][保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2: 知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
特別支援教育は、障害のある子ども一人一人の教育的ニーズを把握しその持てる力を高め、生活や学習上の困難を理解し適切な指導や必要な支援を行うものである。本授業では、特別支援教育の基本や仕組み、歴史の変遷について知るとともに、特別の支援を必要とする子どもとの関わりや支援方法の基本、現状と課題について理解することを通し、専門性の基盤を身に付けることを目的とする。		1)特別支援教育に関する制度（インクルーシブ教育システム含む）の基本理念や仕組み、歴史の変遷について説明できる。 2)特別の支援を必要とする子どもとの関わりや合理的配慮について、その基本を説明できる。 3)特別の支援を必要とする子どもに対する教育・保育の実際や支援方法について、その基本を説明できる。 4)特別な配慮を要する子どもの教育・保育に関わる現状と課題について挙げるができる。	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学習ガイド」]</b>	
		予習：授業計画を参考に教科書の該当箇所の通読・不明な用語や言葉の確認（60分） 復習：教科書や配布資料の再読・興味を持った事柄について文献やインターネット等で調べる（60分）	
		<b>[課題に対するフィードバックの方法]</b> 授業内でフィードバックを行う。また、随時 Classroom を活用して行う。 [オフィスアワー]:火曜以外の昼休み（研究室）	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	40	筆記試験を行う。	
期末レポート	0		
その他	60	各授業の授業内課題及び授業後のミニレポートにより評価する。	
<b>授業計画</b>			
1.	特別の支援を必要とする子どもの教育と障害児保育を支える理念	9.	
2.	障害児等の理解と教育・保育における発達支援①（肢体不自由児、知的障害児等）	10.	
3.	障害児等の理解と教育・保育における発達支援②（重症心身障害児・病弱児等）	11.	
4.	障害児等の理解と教育・保育における発達支援③（発達障害児等）	12.	
5.	幼稚園・保育所等における障害児その他の特別な配慮を要する子どもの教育・保育の実際	13.	
6.	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援方法	14.	
7.	家庭及び自治体・関係機関との連携	15.	
8.	障害その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題		
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
・尾野明美・小湊真衣・奥田訓子 編『特別支援 教育・保育概論』萌文書林 2,000円＋税 ・授業時に資料、プリントを配布する。		授業内で適宜紹介する。	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
PBL(課題解決型学習) 学生によるプレゼンテーション	○	反転授業 実習、フィールドワーク	○
		ディスカッション、ディベート 双方向アンケート	○
			グループワーク その他：
<b>実務経験</b>			
小学校の学級担任、生徒指導主事、特別支援教育コーディネーターとして勤務			

教育課程論		講義/演習/実技実習・単位数・回数 講・2単位・15回 [学修準備時間 60]	
教員 石上 浩美	年次・学期 1年・後	関連資格・必修/選択 [幼必][保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ○ DP2:知識・技術 ◎ DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
幼稚園・保育所等における「教育課程」「全体的な計画」の編成の基本的な考え方を理解し、その必要性と重要性を理解する。また、「教育課程」「全体的な計画」の編成および指導計画作成上の留意点や基本的知識を修得し、PDCAサイクルによるカリキュラム・マネジメントと評価、方法について理解するために、実際に指導計画を作成し模擬保育を行う。		1)「教育課程」「全体的な計画」の意義を理解し、説明できる。 2)「教育課程」「全体的な計画」の編成方法や手順について説明できる。 3)カリキュラム・マネジメントの意義について説明できる。 4)保育・教育の計画・実践・省察・評価の過程(PDCAサイクル)について理解し保育計画を作成し模擬保育ができる。	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>	
反転授業形式のため、指定テキスト精読すること(予習重視)		予習:シラバスを参考に教科書指定ページの精読(60分) 復習:授業内容などを参考にノート整理・事後学修課題を行う。(60分) ※授業資料・課題提出はGoogle Classroomを活用する。	
		<b>[課題に対するフィードバックの方法]</b>	
		・授業時全体アナウンス ・Google Classroomコメント [オフィスアワー]:後日公表 メールおよびGoogle Classroomも常時活用	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	50	筆記試験:50% 知識・理解の習熟度合いについて	
期末レポート	0		
その他	50	毎回のミニレポート(Google Form)内容:30% 思考・判断力について 授業内口頭発表内容:20% 表現・独創性について	
<b>授業計画</b>			
1. 保育における計画の意義と必要性		9. 0歳児の指導計画と実践 テキスト第8章	
2. オリエンテーション 授業の目的・目標、計画と評価観点・方法、カリキュラムの理論 テキスト第1章		10. 1・2歳児の指導計画と実践 テキスト第9章	
3. 幼稚園教育要領・保育所保育指針などと「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 テキスト第2章		11. 3・4歳児の指導計画と実践 テキスト第10章	
4. 教育課程・全体的な計画と指導計画 テキスト第3章		12. 5歳児の指導計画と小学校への接続 テキスト第11章	
5. 指導計画作成のポイント——幼稚園・保育所・認定こども園 テキスト第4章		13. 異年齢保育の指導計画と実践/指導計画作成のための視点 テキスト第12章第13章	
6. 指導計画における特別な配慮を必要とする子どもへの支援 テキスト第5章		14. 模擬保育(1)	
7. 指導計画に活かすための記録と省察 テキスト第6章		15. 模擬保育(2)	
8. 評価とカリキュラム・マネジメント テキスト第7章			
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
安部孝 編編 『カリキュラム論—教育・保育の計画と評価—』 多数あるため講義内で適宜紹介する (株)みらい ¥2,420(税込) 9784860155667			
内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 ¥550(税込)			
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート
			<input type="checkbox"/> グループワーク その他:
<b>実務経験</b>			

<b>教育実習 I</b>		講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数 実 ・ 2 単位 ・ 回 [学修準備時間 0]	
教員 板倉 史郎, 本田 和隆, 他	年次・学期 1 年 ・ 後集	関連資格・必修/選択 [幼必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 ○ DP2: 知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>【授業の目的と概要】</b>		<b>【到達目標】</b>	
<p>・この実習は、幼稚園教諭 2 種免許を取得するための実習である。実習を通じて、幼稚園教諭として必要な知識と技術を身につけ、教員としての資質を向上させることを目的としている。この実習は基礎的な実習として位置付き、2 回生で実施する教育実習 II に繋がるものである。</p> <p>・教育実習 I では、幼稚園の教育活動に参加し、幼稚園教諭の業務と役割について実践的に学ぶが参加実習を中心に行う。また、そこでの実習指導者指導のもと、幼稚園教諭に必要な資質、技能を習得する。</p>		<p>・幼稚園の機能、社会的役割および幼稚園教諭の業務内容を理解する。</p> <p>・幼稚園教諭の姿から子どものかかわり方の実際を学ぶ</p> <p>・保育計画(保育指導案)の立案を学ぶ</p> <p>・幼稚園教諭として必要な資質および知識、技術を身につける</p> <p>・幼児教育に対する考え方を深める</p>	
<b>履修のルール</b>			
<b>【履修のルール】</b>		<b>【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】</b>	
<p>・保育実習指導 I (保育所) への事前指導の出席が 4/5 に満たない者については、本実習への参加を認めない。</p> <p>・春夏期において教育学、教職・保育者論を含む 20 単位以上の取得を実習参加の原則とする。</p>		<p>・実習に必要な手続きや書類は期限内に必ず実施、提出すること。</p> <p><b>【課題に対するフィードバックの方法】</b></p> <p>・実習後に個人面談を行い、実習園の評価を開示したうえで、成果と課題について確認する。</p> <p>[オフィスアワー]:特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。</p>	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習評価(75%)</li> <li>・実習記録の内容(25%)</li> </ul>	
<b>授業計画</b>			
1.	実習ハンドブック参照	9.	
2.		10.	
3.		11.	
4.		12.	
5.		13.	
6.		14.	
7.		15.	
8.			
<b>【教科書】</b>		<b>【参考書】</b>	
<p>・小櫃智子ほか『改訂版 幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,650(税込)</p> <p>・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通)750 円</p>			
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:
<b>実務経験</b>			
小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。			

教育実習指導 講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
演 ・ 1 単位 ・ 15 回  
[学修準備時間 15]

教員 年次・学期 関連資格・必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連  
板倉 史郎, 本田 和隆 1 年通\* ・ (2 [幼必] - DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性  
年前) - DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感

**授業の目的・内容**

<p><b>[授業の目的と概要]</b></p> <p>本授業は、教育実習に参加するための事前・事後指導を行うことを目的とする。 講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連づけ、子ども理解と豊かな実践力の基礎を養い、及び幼稚園の子どもを取り巻く環境を理解することを目的としている。幼稚園の現状の理解やそこで求められる保育者としての力量を高めるための講義、演習を行う。</p>	<p><b>[到達目標]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園の教育活動を理解する</li> <li>・ 幼稚園の制度的理解を深める</li> <li>・ 幼稚園教諭として必要とされる保育の内容を学ぶ</li> <li>・ 幼稚園教諭として求められる基礎的な知識・技能を学ぶ</li> <li>・ 子どもの発達の基礎知識に基づき、保育計画(保育指導案)が作成できる</li> <li>・ 実習記録が書けるようになる</li> </ul>
---	--

**履修のルール**

<p><b>[履修のルール]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前指導は 4/5 以上の出席が必須。欠席した場合は次回までに講義配付資料等を受け取りに行くこと (板倉研究室)</li> <li>・ 実習手続きがされない、課題未提出の場合、実習を中止することがある</li> <li>・ 全 15 回を 2 年間にわたって履修</li> </ul>	<p><b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎時、提示される課題等は必ず行うこと。</li> </ul> <p><b>[課題に対するフィードバックの方法]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 提出課題については評価を行い、必要に応じて修正、加筆することで改善を図らせる。 [オフィスアワー]:特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。</li> </ul>
--	---

**評価基準・評価方法**

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業に取り組む姿勢 (受講態度) (30%)</li> <li>・ 授業における参加状況(15%)</li> <li>・ 実習課題提出、到達状況(30%)</li> <li>・ 実習後の振り返り、まとめ、報告(25%)</li> </ul>

**授業計画**

1. オリエンテーション (教育実習とは)	9. 参加・観察実習事前指導②～実習での自己課題の確認～
2. 幼稚園の役割と機能、幼稚園教諭の職務の理解	10. 実習振り返りによる自己課題の明確化①
3. 幼稚園の一日の流れ	11. 実習記録の改善点～本実習に向けて～
4. 保育技術の習得	12. 教育実習の目標と課題(カード作成)
5. 教育実習の目標と課題(カード作成)	13. 教育実習事前指導①～本実習の理解～
6. 実習記録の構成	14. 教育実習事前指導②～自己課題の確認～
7. 実習記録の記述方法	15. 実習振り返りによる自己課題の明確化② まとめ
8. 参加・観察実習事前指導①～始めての実習に参加すること～	

<p><b>[教科書]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小櫃智子ほか『改訂版 幼稚園・保育所・認定こども園実習 授業内で紹介するパーフェクトガイド』わかば社 ¥1,650(税込)</li> <li>・ 本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通)750 円</li> </ul>	<p><b>[参考書]</b></p>
---	---------------------

**アクティブラーニングへの取り組み**

○ PBL(課題解決型学習)	○ 反転授業	○ ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
○ 学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	○ その他:

**実務経験**

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

講義要綱  
幼児教育科  
1年次

保育原理		講義/演習/実技実習・単位数・回数 講・2単位・15回 [学修準備時間 60]	
教員 今井 美樹	年次・学期 1年・前	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
<p>保育の意義・目的・制度・基礎理論・方法、保育者の在り方を学ぶことを目的とする。</p> <p>・保育実践の基本となる子ども理解の意義とその方法について学ぶ。</p> <p>・集団の中で一人一人の心身の発達状況を細やかに読み取り、必要な経験や学びを理解し、保育を構想する力を身に付けるために、演習を通して実践的に学んでいく。</p> <p>・保育における基本や歴史、今日の課題などを自発的にしっかり学び、一人一人が自分自身の保育に対する考えを持てるように学びを広げていく。</p>		<p>①保育の意義及び目的を理解する。</p> <p>②保育に関する法規と制度を理解する。</p> <p>③保育の思想や歴史を知る。</p> <p>④保育の現状と課題を理解する。</p> <p>⑤保育の運営、地域との連携、安全への対応を理解する。</p> <p>⑥保育者の在り方を知る</p>	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>	
		<p>予習：シラバスを参考に教科書の指定ページの精読（60分）復習：授業内容を参考にノート整理・事後学習課題（60分）</p> <p><b>[課題に対するフィードバックの方法]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時全体アナウンス</li> <li>・Google Classroomを活用してコメントを行う。</li> </ul> <p>[オフィスアワー]:後日公表（メール及びGoogle Classroomも常時活用）</p>	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	<p>・到達度検証テスト5回 60% 授業内5回の到達度テストで、習熟度を確認する。</p> <p>・課題（小レポート）提出40% 授業内で取り上げた課題について調べ、自分の考えを述べる小レポートを2回実施する。</p>	
<b>授業計画</b>			
1. オリエンテーション 授業の目的、目標、内容、授業計画と評価観点・方法の説明	9.	西洋と日本の保育の創成期	
2. 保育の方向性と保育実践の基礎となる発達観 到達度テスト	10.	西洋の保育実践の発展過程	
3. 保育の関する諸法令などからみる保育の原理	11.	日本の保育実践の発展過程	
4. 保育所保育指針、幼稚園教育要領、教育、保育要領にみる保育の原理	12.	倉橋惣三に学ぶ一児童中心主義の保育を探る・到達度テスト	
5. 養護と教育の一体化についてについて・到達度テスト	13.	保育者の在り方を考える	
6. 保育実践の基本構造について	14.	これからの保育に向けて・到達度テスト	
7. 多様な保育内容とその方法	15.	保育原理まとめ 子どもの命と将来の可能性を担う教育職・保育職に就くには	
8. 子育て支援について学ぶ・到達度テスト			
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
<p>佐伯一弥企画・著・金瑛珠 改訂2版「Workで学ぶ保育原理」株式会社わかば社¥1,870</p>		<p>・文部科学省編 幼稚園教育要領解説（平成30年3月）フレーベル館¥264</p> <p>・厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年3月）フレーベル館¥352</p> <p>・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）フレーベル館¥385</p>	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
PBL(課題解決型学習)	○	反転授業	○
学生によるプレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
			ディスカッション、ディベート
			双方向アンケート
			グループワーク
			その他:
<b>実務経験</b>			
<p>幼稚園教諭、保育園施設長 子育て支援員研修講師（保育原理）</p>			

子ども家庭福祉 講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
講 ・ 2 単位 ・ 15 回  
[学修準備時間 60]

教員	年次・学期	関連資格・必修/選択	ディプロマポリシー(DP)との関連
本田 和隆	1 年・後	[保必]	- DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ○ DP2: 知識・技術 ◎ DP4:人権・共感

**授業の目的・内容**

<p><b>[授業の目的と概要]</b></p> <p>子どもたちが抱える多様な問題は、子どもと家庭を取り巻く社会的背景の急激な変化や、現代家族の変容と深く関わっている。子どもと家族に対する支援の必要性を念頭に、様々な法律や福祉制度の基本を幅広く学ぶ。あわせて、社会の発展に伴い変化してきた「子どものとらえ方」について学ぶ。</p> <p>また、子どもや親への支援のしくみ・方法、地域を視野に入れた支援の基礎について学び、その課題や展望を学ぶ。</p> <p>子どもの福祉を専門的な視点から考えられるように、視覚教材や事例を紹介し具体的に理解できるようにする。</p>	<p><b>[到達目標]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども家庭福祉を学ぶために必要な基礎知識を理解する</li> <li>・法制度をはじめとした子ども・家庭を支えるさまざまな制度の枠組みを理解する</li> <li>・現代の子育てに関わる問題の概要を理解する</li> </ul>
--	---

**履修のルール**

<p><b>[履修のルール]</b></p> <p>・「社会福祉」の学習内容と深く関係があるため関連して理解できるようにしておくこと。</p>	<p><b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b></p> <p>初回の講義において全体の流れと到達目標を説明するとともに、毎回の講義において予習・復習しておくべき課題を提示する。</p> <p><b>[課題に対するフィードバックの方法]</b></p> <p>都度、授業で確認する。 [オフィスアワー]:授業終了後、可能な限り対応する。</p>
---	---

**評価基準・評価方法**

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	70	筆記試験
期末レポート	0	
その他	30	授業に取り組む姿勢、ミニレポート、授業態度による評価

**授業計画**

1. 超少子高齢社会における子ども家庭福祉①一子育て家庭の現状	9. 子ども家庭福祉の制度・事業
2. 超少子高齢社会における子ども家庭福祉②一子ども家庭福祉の基本的な視点	10. 子ども家庭福祉の実施政機関
3. 子ども家庭福祉の理念と専門職①一子ども家庭福祉の概念と理念	11. 子ども家庭福祉に関連する施設①一児童福祉施設とは
4. 子ども家庭福祉の理念と専門職②一子ども家庭福祉の専門職と倫理	12. 子ども家庭福祉に関連する施設②一社会的養護
5. 子ども家庭福祉の展開	13. 地域の子育て家庭への支援の現状と課題
6. 子どもの権利擁護	14. 要保護・要支援児童への支援
7. 子ども家庭福祉の法体系①一児童福祉法六法の概要	15. 子ども家庭福祉の動向とソーシャルワーク
8. 子ども家庭福祉の法体系②一児童福祉法六法以外の関連法	

<p><b>[教科書]</b></p> <p>・講義時にプリント教材を配布 ・芝野松次郎・新川泰弘・宮野安治・山川宏和編『子ども家庭福祉入門』ミネルヴァ書房 ¥2,420(税込)</p>	<p><b>[参考書]</b></p> <p>『保育福祉小六法』みらい</p>
---	---

**アクティブラーニングへの取り組み**

PBL(課題解決型学習)	○	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	その他:

**実務経験**

--

社会福祉		講義/演習/実技実習・単位数・回数 講・2単位・15回 [学修準備時間 60]	
教員 溝淵 淳	年次・学期 1年・前	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 - DP2:知識・技術 © DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>【授業の目的と概要】</b>		<b>【到達目標】</b>	
<p>現代社会における多種多様な「生きづらさ」に焦点をあて、①なぜ「生きづらさ」が生じているのか、また、②なぜ、「生きづらさ」が当事者個人だけ（自己責任）ではなく、社会全体の取り組みの中で軽減・解消される必要があるのか、さらには、③「生きづらさ」を軽減・解消していくための仕組みや取り組みの実際について理解することを目指す。最後に、④保育士を含む対人支援の専門職に今後求められる視点や取り組みについても展望する。</p>		<p>1. 福祉を必要とする人々を取り巻く様々な状況（生活問題など）を理解している。 2. 社会福祉の全体像を踏まえ、その知識を生かしながら保育士として実践する力量を身につけている。</p>	
<b>履修のルール</b>			
<b>【履修のルール】</b>		<b>【予習・復習の方法「自主学習ガイド」】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>資料やノート等にメモしながら、話に耳を傾ける…といった姿勢の修得を念頭におくこと。</li> <li>わからない用語等をそのままにせず調べるようにすること。</li> <li>授業時に事前及び事後課題の内容を提示する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>事前課題が出された場合は、必ず取り組んだうえで授業に臨むこと。</li> <li>授業後の事後課題が出された場合は、必ず取り組み提出すること。</li> <li>※いずれも90分目安</li> </ul>	
		<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>	
		<p>毎回のコメントに対しては次回授業時に取り上げ、期末レポートについては、最終授業時に講評する。</p> <p>【オフィスアワー】：・火曜日および金曜日の午後16時～18時 6階研究室で対応。 ・質問・意見はコメントペーパーでも受け付ける。</p>	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	40	授業内で取り上げた内容について、受講生が調べ、さらに掘り下げた上でまとめる形のレポート課題とする。受講生の主体性（自ら調べる、自ら深める、自らの見解を述べる…等）を最優先する形で評価する。	
その他	60	授業へ取り組む姿勢、コメント、授業中の課題	
<b>授業計画</b>			
1. オリエンテーション 保育と社会福祉の関係 保育者に求められる役割	2. 社会福祉を支える考え方	3. 社会福祉の歴史の変遷 海外の動向との比較	4. 社会で暮らす人びとの生活課題 社会福祉と子ども家庭支援の関連
5. 社会福祉の制度と法体系 (1) 社会福祉制度と法体系の確立と展開	6. 社会福祉の制度と法体系 (2) 各制度と法体系の内容と相互の関連	7. 社会福祉を担う行政機関と社会福祉の財政	8. 社会福祉の施設とそこでの運営
9. 社会福祉の専門職と倫理	10. 社会福祉における支援活動 (1) 支援活動を支える考え方	11. 社会福祉における支援活動 (2) 支援活動の対象範囲	12. 社会福祉における相談援助 (3) 支援で用いられる方法と技術
13. 社会福祉の専門職と倫理	14. 社会福祉における権利擁護とサービスの質保証	15. 今後の社会福祉の動向と課題 地域共生社会 まとめ	
<b>【教科書】</b>		<b>【参考書】</b>	
適宜資料を配付する。		一般社団法人全国保育士養成協議会監修『ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉データブック 2024』（中央法規、1,430円）	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
○	PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート
	学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート
			○ グループワーク その他：
<b>実務経験</b>			

社会的養護 I 講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
講 ・ 2 単位 ・ 15 回  
[学修準備時間 60]

教員	年次・学期	関連資格・必修/選択	ディプロマポリシー(DP)との関連
本田 和隆	1 年・後	[保必]	- DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 ○ DP4:人権・共感

**授業の目的・内容**

<p><b>[授業の目的と概要]</b></p> <p><b>【授業目的】</b> 本講では、社会的養護の意義と基本的原理の理解を深めることを目的とする。</p> <p><b>【授業概要】</b> 現代の子育てをめぐる諸問題が複雑化、多様化するなか、子どもとその家族が抱える悩みも深刻化している。都市化、核家族化が進む昨今では、家庭や地域の中だけでは問題解決が出来ない困難事例も増加しており、社会的な養護の必要性を高めている。問題を抱える児童の養護に関する現状理解や子どもの権利保障という視点から、社会的な養護を要する子どもと家族、それを取り巻く地域社会を支援するための基本的理念を学び、行政施策などの具体的な仕組みについて理解を深める。特に、多くの保育士が勤める乳児院や児童養護施設などの児童福祉施設の機能と、そこで働く保育士の役割について考察を深める。</p>	<p><b>[到達目標]</b></p> <p><b>【到達目標】</b> 社会的養護を要する子どもの現状に関心を持ち、子どもの権利擁護のための行政施策とその他の支援体制および保育士の具体的な役割に対する知見と考察を深めることができる。</p>
--	--

**履修のルール**

<p><b>[履修のルール]</b></p>	<p><b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b> 教科書を中心に予習・復習をすること。範囲については、授業時に確認する。また、授業内容に関わる話題やニュースに関心をもっておくことが大切である。</p> <p><b>[課題に対するフィードバックの方法]</b> 各回の課題について次回の講義でフィードバックを行う。 [オフィスアワー]:授業終了後、可能な限り対応する。</p>
------------------------	--

**評価基準・評価方法**

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	70	筆記試験
期末レポート	0	
その他	30	授業の参加状況、ミニレポート、授業態度による評価

**授業計画**

1. 現代社会における社会的養護の意義	9. 児童福祉法改正と「新しい社会的養育ビジョン」
2. 社会的養護の理念と概念	10. 家庭養護の推進ー里親、ファミリーホーム、養子縁組
3. 社会的養護の歴史的変遷	11. 社会的養護の実際① 乳児院、母子生活支援施設、児童心理治療施設
4. 子どもの人権擁護と社会的養護	12. 社会的養護の実際② 児童養護施設、児童自立支援施設、自立援助ホーム
5. 社会的養護の基本原則	13. 社会的養護に関わる専門職と専門性
6. 社会的養護における保育士等の倫理と責務	14. 児童福祉施設配置の職員：里親支援専門相談員、家庭支援専門相談員など
7. 社会的養護の仕組み	15. 社会的養護の施設等の運営管理
8. 社会的養護の実施体系	

<p><b>[教科書]</b> 芝野松次郎・新川泰弘・山川宏和編 (2021)『社会的養護入門』ミネルヴァ書房. ¥2,640(税込)</p>	<p><b>[参考書]</b></p>
---	---------------------

**アクティブラーニングへの取り組み**

PBL(課題解決型学習)	○ 反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	その他:

**実務経験**

--

講義要綱  
幼児教育科  
1年次

子どもの保健		講義/演習/実技実習・単位数・回数 講・2単位・15回 [学修準備時間 60]	
教員 西村 玲子	年次・学期 1年・後	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b> 小児期は人格や健康の基礎を形成する重要な時期である。 保育現場で生じる保健的問題に対処できるように、乳幼児期における発育・発達、疾病等の専門的知識を習得することを目的とする。		<b>[到達目標]</b> 1. 乳幼児期の発育・発達について理解している。 2. 乳幼児期に多い疾病について理解している。 3. 乳幼児期のかかわりの重要性について理解している。	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b> 予習：毎回回の授業テーマを提示するので、事前にテキストを確認しておくこと。(30分程度) 復習：授業内容を復習しておくこと。(30分程度) <b>[課題に対するフィードバックの方法]</b> 課題に対しては、可能な限り授業中に解説する。 [オフィスアワー]:非常勤講師控室 在室時	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	0	筆記試験を行う。(到達目標に対応した理解を問う筆記試験)	
<b>授業計画</b>			
1. オリエンテーション 子どもの心身の健康と保健の意義 2. 子どもの保健・福祉サービス ① わが国の母性保健 3. 子どもの保健・福祉サービス ② わが国の小児保健 4. 子どもの虐待について 5. 子どもの身体発育と保健 ①発育・発達 6. 子どもの身体発育と保健 ②脳・感覚器の発達 7. 子どもの運動機能の発達と保健 8. 子どもの生理機能の発達と保健 ①体温・呼吸等	9. 子どもの生理機能の発達と保健 ②消化吸収・排泄等 10. 子どもの精神機能の発達と保健 11. 心身の健康状態とその把握 12. 子どもの主な疾病 ①感染症 13. 子どもの主な疾病 ②アレルギー等 14. 子どもの主な疾病 ③予防接種等 15. 重要ポイントの復習と到達度テスト		
<b>[教科書]</b> 新版 よくわかる子どもの保健 丸尾良浩/竹内義博 編著 ミネルヴァ書房 ¥2200+税		<b>[参考書]</b> 適宜紹介していく	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:
<b>実務経験</b>			

乳児保育 I		講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数 講 ・ 2 単位 ・ 15 回 [学修準備時間 60]				
教員 今井 美樹	年次・学期 1 年 ・ 後	関連資格 ・ 必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱 ・ 使命感 - DP3:探究 ・ 主体性 ◎ DP2: 知識 ・ 技術 - DP4:人権 ・ 共感			
<b>授業の目的 ・ 内容</b>						
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>				
現代における乳児を取り巻く環境について知り、教育 ・ 保育施設において保育者が日々実践している乳児保育についての定義 ・ 目的 ・ 役割等を学ぶ。出生してから著しく発達していく時期の乳児の生活や遊びの実際を知り、そこに寄り添う保育者としての求められる知識や保育方法の基本について事例等を通して検討する中で学び、「子どもの最善の利益」とは何なのかについて理解を深める。		1. 乳児保育の意義 ・ 目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所 ・ 乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3 歳未満児の発育 ・ 発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携 ・ 協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。				
<b>履修のルール</b>						
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習 ・ 復習の方法「自主学习ガイド」]</b>				
		予習：次回の授業について、テキストの内容を予習しておくこと。 復習：授業内容や大切な学びとなった点についてノートに整理をし、関連した図書や法制度、資料等を確認し学びを深めること。				
		<b>[課題に対するフィードバックの方法]</b>				
		・ 授業時全体アナウンス ・ Google classroom コメント [オフィスアワー]:後日公表 メール				
<b>評価基準 ・ 評価方法</b>						
種類	割合(100%)	基準 ・ 方法				
期末試験	0					
期末レポート	0					
その他	100	・ 到達度テスト 2 回 (60%) 授業内容について知識 ・ 理解の習熟度を問う確認テスト ・ 振り返りレポート (20%) 毎回の授業の振り返りレポート提出 ・ 課題 (手作り絵本) 製作 (20%) 課題 (乳児向け絵本) 製作				
<b>授業計画</b>						
1. オリエンテーション 本授業の進め方や授業方法などについて説明等を行う	9. 乳児の遊び (乳児の絵本作り) 各年齢ごとの乳児の遊びや適したおもちゃについて					
2. 乳児保育の目的と役割, 実施体制などについて	10. 乳児保育の環境構成 乳児の年齢ごとの保育室での環境構成について					
3. 乳児保育の基本 乳児保育の背景や歴史の変遷、子育て支援、地域との繋がりについて	11. 乳児保育での全体的な計画と指導計画について					
4. 0 ・ 1 ・ 2 歳児の発達 0 ・ 1 ・ 2 歳児の子どもの主な発達について	12. 乳児保育における子育て支援 保護者への対応、支援の実際について					
5. 乳児 (0 歳児) の保育内容	13. 乳児保育における連携 乳児保育での職員 ・ 家庭 ・ 地域での連携について					
6. 1 歳以上 3 歳未満児の保育内容	14. 乳児保育の重要性、保育者の専門性と資質向上について (到達度テスト)					
7. 乳児の生活と遊びの基本的事項 健康や安全、防災対策について (到達度テスト)	15. まとめ 子どもの育ちを保護者と分かち合う					
8. 乳児の生活の基本 食事 ・ 睡眠と休息 ・ 排泄 ・ 着脱 ・ 清潔について						
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>				
小山朝子編著 亀崎美沙子 ・ 善本真弓 「講義で学ぶ乳児保育」わかば社 ¥1,760		・ 厚生労働省 保育所保育指針解説 (平成 30 年 3 月) フレーベル館 ¥352 ・ 幼保連携型認定こども園教育 ・ 保育要領解説 (平成 30 年 3 月) フレーベル館 ¥385				
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>						
PBL (課題解決型学習)	○	反転授業	○	ディスカッション、ディベート	○	グループワーク
学生によるプレゼンテーション		実習、フィールドワーク		双方向アンケート		その他:
<b>実務経験</b>						
幼稚園教諭 ・ 保育園施設長 保育者等キャリアアップ研修講師 (乳児保育)						

<b>保育実習 I (保育所)</b>		講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数 実・2単位・回 [学修準備時間 0]	
教員 板倉 史郎, 本田 和隆, 他	年次・学期 1年・後集	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 - DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
<p>本実習は、保育士資格を取得するための実習である。実習を通じて保育士として必要な知識と技術を見につけ、その資質を向上させることを目的としている。</p> <p>保育実習 I (保育所) では、保育士としての保育活動に参加し、実習指導者の指導のもと、保育士の業務と役割について実践的に学ぶ。また、活動に関わる計画、子どもや利用者の発達に応じた関わり方を学ぶ。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所の機能、社会的役割および保育士の業務について理解する</li> <li>・ 保育士の姿から利用者との関わり方の実際を学ぶ</li> <li>・ 保育計画の立案を学ぶ</li> <li>・ 保育士として必要な資質および知識・技術を身につける</li> <li>・ 保育に対する考え方を深める</li> </ul>	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学習ガイド」]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育実習指導 I (保育所) への事前指導の出席が 4/5 に満たない者については、本実習への参加を認めない。</li> <li>・ 実習までに保育原理、乳児保育 I を含む 35 単位以上の取得を参加の原則とする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習に必要な手続きや書類は期限内に必ず実施、提出すること。</li> </ul>	
		<b>[課題に対するフィードバックの方法]</b>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習後に個人面談を行い、実習園の評価を開示したうえで、成果と課題について確認する。</li> </ul> <p>[オフィスアワー]:特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。</p>	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習評価(75%)</li> <li>・ 実習記録の内容(25%)</li> </ul>	
<b>授業計画</b>			
1. 実習ハンドブック 参照	9.		
2.	10.		
3.	11.		
4.	12.		
5.	13.		
6.	14.		
7.	15.		
8.			
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小櫃智子ほか『改訂版 幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,650(税込)</li> <li>・ 本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通)750 円</li> </ul>			
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:
<b>実務経験</b>			
小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。			

講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
演 ・ 1 単位 ・ 15 回  
[学修準備時間 15]

## 保育実習指導 I (保育所)

教員 板倉 史郎, 本田 和隆	年次・学期 1 年・通*	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 - DP2: 知識・技術 - DP4:人権・共感
--------------------	-----------------	--------------------	--

### 授業の目的・内容

<b>【授業の目的と概要】</b> 本授業は、保育実習 I (保育所)の参加するための事前・事後指導を行うことを目的とする。 講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連づけ、子ども理解と豊かな実践力の基礎を養うこと、及び保育所の子どもを取り巻く環境を理解することを目的としている。保育所の現状の理解やそこで求められる保育者としての力を高めるための講義、演習を行う。	<b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の目的を理解し、実習課題を明確にする</li> <li>・保育所の制度的理解を深める</li> <li>・保育所を利用する子どもと家族の生活を理解し、必要とされる保育・子育て支援の概要を学ぶ</li> <li>・保育士として求められる基礎的な知識、技能の活用方法を学ぶ</li> <li>・子どもの発達の基礎知識に基づき、保育計画(保育指導案)が作成できる</li> <li>・実習記録が書ける</li> </ul>
--	---

### 履修のルール

<b>【履修のルール】</b> ・事前指導は 4/5 以上の出席が必須。欠席した場合は次回までに講義配付資料等を受け取りに行くこと(板倉研究室) ・実習手続きがされない、課題未提出の場合、実習を中止することがある	<b>【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】</b> ・毎時、提示される課題等は必ず行うこと。 <b>【課題に対するフィードバックの方法】</b> ・提出課題については評価を行い、必要に応じて修正、加筆することで改善を図らせる。 [オフィスアワー]:特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。
--	---

### 評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	・授業に取り組む姿勢(受講態度)(30%) ・授業における参加状況(15%) ・実習課題提出、到達状況(35%) ・実習後の振り返り、まとめ、報告(20%)

### 授業計画

1. オリエンテーション(保育実習とは) 2. 実習目的を基にした実習生カードの指導、記入 3. 実習目的に基づく自己課題の明確化 4. ソーシャルスキルに関わる演習 5. 実習記録の書き方①目的とねらい 6. 実習記録の書き方②子どもの動きと保育者の動き 7. 保育計画指導案の立て方① ねらいをもった指導案 8. 保育計画指導案の立て方② つけさせたい力	9. 実習先の制度的理解 10. 保育士に必要とされる専門性 11. 実習に関わる演習①一遊び 12. 実習に関わる演習②一絵本の読み聞かせ 13. 実習直前指導 14. 実習の振り返りによる自己課題の明確化 15. 実習報告会
--	--

<b>【教科書】</b> ・小櫃智子ほか『改訂版 幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,650(税込) ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通)750 円	<b>【参考書】</b>
--	--------------

### アクティブラーニングへの取り組み

<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	その他:

### 実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

講義要綱  
幼児教育科  
1 年次

<b>保育実習指導 I (福祉施設)</b>		講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数 演 ・ 1 単位 ・ 15 回 [学修準備時間 15]	
<b>教員</b> 板倉 史郎, 本田 和隆	年次・学期 1 年後・(2 年 前)	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 - DP2: 知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b> 本授業は、保育実習 I (福祉施設)の参加するための事前・事後指導を行うことを目的とする。講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連づけ、子ども理解と豊かな実践力の基礎を養うこと、及び福祉施設を取り巻く環境を理解することを目的としている。福祉施設の現状の理解やそこで求められる保育者としての力量を高めるための講義、演習を行う。		<b>[到達目標]</b> ・実習の目的を理解し、実習課題を明確にする ・福祉施設の制度的理解を深める ・福祉施設を利用する利用者と家族の生活を理解し、必要とされる支援の概要を学ぶ ・保育士として求められる基礎的な知識、技能の活用方法を学ぶ ・利用者の発達の基礎知識に基づき、レクリエーション案が作成できる ・実習記録が書ける	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b> ・事前指導は 4/5 以上の出席が必須。欠席した場合は次回までに講義配付資料等を受け取りに行くこと(板倉研究室) ・実習手続きがされない、課題未提出の場合、実習を中止することがある		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b> ・毎時、提示される課題等は必ず行うこと。 <b>[課題に対するフィードバックの方法]</b> ・提出課題については評価を行い、必要に応じて修正、加筆することで改善を図らせる。 [オフィスアワー]:特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。	
<b>評価基準・評価方法</b>			
<b>種類</b>	<b>割合(100%)</b>	<b>基準・方法</b>	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に取り組む姿勢(受講態度)(30%)</li> <li>・授業における参加状況(15%)</li> <li>・実習課題提出、到達状況(35%)</li> <li>・実習後の振り返り、まとめ、報告(20%)</li> </ul>	
<b>授業計画</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション(福祉施設実習とは)</li> <li>2. 福祉施設実習の必要性</li> <li>3. 実習目的を基にした実習生カードの指導、記入</li> <li>4. 実習目的に基づく自己課題の明確化</li> <li>5. ソーシャルスキルに関わる演習</li> <li>6. 福祉施設実習記録の書き方①</li> <li>7. 福祉施設実習記録の書き方②</li> <li>8. 保育計画指導案の立て方①</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>9. 実習先の制度的理解</li> <li>10. 福祉施設での保育士に必要とされる専門性</li> <li>11. 実習に関わる演習①</li> <li>12. 実習に関わる演習②</li> <li>13. 実習直前指導</li> <li>14. 実習の振り返りによる自己課題の明確化</li> <li>15. 実習報告会</li> </ol>		
<b>[教科書]</b> ・小櫃智子ほか『改訂版 幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,650(税込) ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通)750 円		<b>[参考書]</b>	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	その他:
<b>実務経験</b>			
小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。			

こども音楽療育概論 講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
講 ・ 2 単位 ・ 15 回  
[学修準備時間 60]

教員 年次・学期 関連資格・必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連  
 小原 敦子 1 年・後 [保選] ○ DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性  
◎ DP2: 知識・技術 - DP4:人権・共感

**授業の目的・内容**

<p><b>【授業の目的と概要】</b></p> <p>音楽療育の意義を理解する。        ・各障害についての理解を深め、保育の場で障害児に対応できる力を身につける。        ・一人一人の子どもの状態を把握し、適切な対応ができる力を身につける。        ・保育における音楽と遊びの関係を学ぶ。        ・各授業時の後半に前半の講義内容をより深く理解することを目的とした保育実技を行う。その際にはグループワークも意識し協力しながら保育技術を高める機会を持つ。</p>	<p><b>【到達目標】</b></p> <p>一人一人の子どもに合わせて関わっていくことの大切さを理解する。        保育現場で適切な対応をしていくための具体的な手段を知る。        音楽を保育に活かす技術を身につける。</p>
--	---

**履修のルール**

<p><b>【履修のルール】</b></p> <p>・受講生は、運動のできる服装で参加すること。</p>	<p><b>【予習・復習の方法「自主学習ガイド」】</b></p> <p>・ボランティア等に積極的に参加し、子どもと実際にふれあう機会を多く持つことが望ましい。        ・授業中に紹介する参考文献を読む。        ・授業中に紹介されるエブロンシアターやパネルシアターを作成し実習や保育現場で活用することが望ましい。</p> <p><b>【課題に対するフィードバックの方法】</b></p> <p>・授業時に質問に応じる時間をもつ。        ・授業ごとに【今日学んだこと】をテーマにミニレポートを提出する。疑問に思うことがあればその紙面に書く。        ミニレポートに返答する形でコメントを書き、4~5 回ごとに返却する。        [オフィスアワー]:水曜日 14:50~15:00 16:30~16:40 リズム室にて</p>
--	--

**評価基準・評価方法**

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	60	試験を行う
期末レポート	0	
その他	40	毎授業時の小レポート 30 点 実技に取り組む態度(積極性 協調性など) 10 点

**授業計画**

- |  |  |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業についての説明</li> <li>2. 音楽療育とは</li> <li>3. 音楽の心身に及ぼす影響:乳幼児編</li> <li>4. 音楽の心身に及ぼす影響:児童編</li> <li>5. 乳幼児の音楽を通した発達</li> <li>6. 児童の音楽を通した発達</li> <li>7. 成長と遊び①(身近な感覚に働きかける遊び)</li> <li>8. 成長と遊び②(イメージ遊び)</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>9. ダウン症児の保育の実際</li> <li>10. 自閉症児の保育の実際</li> <li>11. 肢体不自由児の保育の実際</li> <li>12. 軽度発達障害児の保育の実際</li> <li>13. 通常保育における音楽を通した保育</li> <li>14. 障害児保育における音楽を通した保育</li> <li>15. まとめ-こども音楽療育士にとって大切なことは</li> </ol> |
|--|--|

<p><b>【教科書】</b></p> <p>授業時にプリント教材を配布する。</p>	<p><b>【参考書】</b></p> <p>・授業時に紹介する</p>
---	--------------------------------------

**アクティブラーニングへの取り組み**

PBL(課題解決型学習)		反転授業	ディスカッション、ディベート	○	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	双方向アンケート		その他:

**実務経験**

講義要綱  
幼児教育科  
1 年次

ゼミナール I		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・2単位・30回 [学修準備時間 30]	
教員 鯉坂 はるよ	年次・学期 1年・通	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 ○ DP2:知識・技術 ○ DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
<p>【前期】 大学での学び方(ノートの取り方、講義の受け方、レポートの書き方、事前学習への取り組み方法など)を、全ゼミ同様に学んでいく。</p> <p>【後期】 子どもの発達を踏まえながら、発達に沿った絵本やレクリエーションを考えることを目的とする。実習で、発達・年齢に応じてどのような絵本、遊びを考えたらよいか、検討する。絵本、遊びについて調べ、各自発表し、その内容について意見交換を行う。学んだことを踏まえ、保育教材も制作する。</p>		<p>【前期】 1) 大学での授業方法、受講に際する姿勢を理解できる。 2) 大学での授業の受講をし、定められた課題に対応できる。</p> <p>【後期】 1) 発達に沿った絵本について理解する。 2) 発達に沿ったレクリエーションについて理解する。 3) 保育教材を作成する。 4) グループワークにより、協調性が身に付いた。</p>	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学習ガイド」]</b>	
グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションに積極的に参加すること。		発表する絵本やレクリエーションについて調べ、発表できるように準備すること。発表後、復習し、実習でどのような絵本を読み、遊びを行うか考えること。将来的にも活用できる保育教材を制作すること。全60時間	
		<b>[課題に対するフィードバックの方法]</b> 発表後、ディスカッションするとともに、コメントする。 [オフィスアワー]:火、水、木、金の昼休み。研究室にて。	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	授業に取り組む姿勢、課題により、総合的に評価する。	
<b>授業計画</b>			
1. (プレゼミ) 大学での履修とは。大学での講義の受け方～ノートを取るには～	16. ガイダンス、卒業制作(絵本作成)について		
2. 指す夢は同じ～大学での夢を語り合う(各プレゼミごとの自己紹介を通して)～	17. 発達に沿った絵本(0歳児)(プレゼンテーション、ディスカッション)		
3. 入学前課題の確認① 保育者に必要な国語、数学力を理解する	18. 発達に沿ったレクリエーション、絵本(0,1歳児)(グループワーク、プレゼンテーション)		
4. 入学前課題の確認② 幼児教育には欠かせない「絵本」を通して	19. 発達に沿った絵本(2歳児)(プレゼンテーション、ディスカッション)		
5. 入学前課題の確認③ 「保育者のイメージ」「保育者に必要な漢字」を通して～保育者にとって必要な力とは～	20. 発達に沿ったレクリエーション(2歳児)(グループワーク、プレゼンテーション)		
6. 入学前課題の確認④ 自分の周辺にある「幼児教育施設」を理解する～実習に関連して～	21. 実習に向けての発達に沿った絵本、レクリエーション(プレゼンテーション)		
7. 大学でのレポートと論文の違い～実際に経験することから～	22. 発達に沿った絵本(3歳児)(プレゼンテーション、ディスカッション)		
8. 大学での学びの方法～アクティブラーニング～	23. 発達に沿ったレクリエーション(3歳児)(グループワーク、プレゼンテーション)		
9. マナー講座を通して①～社会人として必要な力を探る～	24. 発達に沿った絵本(4歳児)(ディスカッション)		
10. マナー講座を通して②～美演を伴った各自の課題を知る～	25. 発達に沿ったレクリエーション(4歳児)(グループワーク、プレゼンテーション)		
11. マナー講座を通して③～①②で経験したことをレポートにまとめる～	26. 発達に沿った絵本(5歳児)(ディスカッション)		
12. グループワークによるプレゼンテーション力の向上	27. 発達に沿ったレクリエーション(5歳児)(グループワーク、プレゼンテーション)		
13. グループワークを通して仕上げたチーム別発表、自己評価	28. 保育教材(0,1,2歳児)の制作		
14. 専門ゼミを知る(2回生の研究テーマを聞く)	29. 保育教材(3,4,5歳児)の制作		
15. 専門ゼミを選択する(各自で見学、体験し、決定する)	30. 発達に沿った絵本・レクリエーションの振り返り、2回生に向けて		
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	<input type="checkbox"/> その他:
<b>実務経験</b>			

ゼミナール I		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・2単位・30回 [学修準備時間 30]	
教員 石上 浩美	年次・学期 1年・通	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 ○ DP2:知識・技術 ○ DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>【授業の目的と概要】</b>		<b>【到達目標】</b>	
<b>【前期】</b> 大学での学び方（ノートの取り方、講義の受け方、レポートの書き方、事前学習への取り組み方法など）を、全ゼミ同様に学んでいく（学科共通内容）。 <b>【後期】</b> 発達心理学の基礎知識を基盤とした保育者イメージ形成ができるようになるために、文献・事例調査（フィールドワーク）研究と口頭発表を行う。		<b>【前期】</b> 1)大学での授業方法、受講に際する姿勢を理解できる。 2)大学での授業を受講し、定められた課題に対応できる。 <b>【後期】</b> 1)子どもの発達特性、多様な家庭環境、保育の意義について理解できる。 2)文献・事例調査（フィールドワーク）を通して具体的な保育者イメージ形成ができる。	
<b>履修のルール</b>			
<b>【履修のルール】</b>		<b>【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】</b>	
・問題解決型学習（PBL）のためゼミ生同士で協同する意義を意識しながら互いに協力する。 ・1年前期以外は1・2回生合同ゼミを原則とする。		予習：シラバスを参考に事前配布資料の精読(60分) 復習：授業内容などを参考にノート整理・事後学修課題を行う。(60分) ※授業資料・課題提出はGoogle Classroomを活用する。	
<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>			
・授業時全体アナウンス ・Google Classroom コメント 【オフィスアワー】:後日公表 メールおよびGoogle Classroomも常時活用			
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	ゼミへの参加姿勢、提出物・発表内容を総合的に評価する。事例調査レポート（フィールドワーク）：40点 実習などに関するミニレポート口頭発表：40点 ゼミ活動への参加姿勢・意欲：20点	
<b>授業計画</b>			
1. (プレゼミ) 大学での履修とは。大学での講義の受け方～ノートを取るには～	16. オリエンテーション：本ゼミナールの目的・計画・評価方法		
2. 指す夢は同じ～大学での夢を語り合う（各プレゼミごとの自己紹介を通して）～	17. 小山田祭準備・参加(1)		
3. 入学前課題の確認① 保育者に必要な国語、数学力を理解する	18. 小山田祭準備・参加(2)		
4. 入学前課題の確認② 幼児教育には欠かせない「絵本」を通して	19. 小山田祭りフレクシオン		
5. 入学前課題の確認③ 「保育者のイメージ」「保育者に必要な漢字」を通して～保育者にとって必要な力とは～	20. フィールドワーク基礎演習(1) フィールドワークとは		
6. 入学前課題の確認④ 自分の周辺にある「幼児教育施設」を理解する～実習に関連して～	21. フィールドワーク基礎演習(2)フィールドワークの方法と技法		
7. 大学でのレポートと論文の違い～実際に経験することから～	22. フィールドワーク基礎演習(3)幼児教育フィールドの選定		
8. 大学での学びの方法～アクティブラーニング～	23. 合同ゼミフィールド見学(1) 幼児保育施設		
9. マナー講座を通して①～社会人として必要な力を探る～	24. 合同ゼミフィールド見学(2) 子育て支援施設		
10. マナー講座を通して②～実演を伴った各自の課題を知る～	25. 合同ゼミフィールド見学(3) 民間課外活動施設		
11. マナー講座を通して③～①②で経験したことをレポートにまとめる～	26. フィールドワーク報告(1) 口頭発表&ディスカッション		
12. グループワークによるプレゼンテーション力の向上	27. フィールドワーク報告(2) 口頭発表&ディスカッション		
13. グループワークを通して仕上げたチーム別発表、自己評価	28. ゼミナール発表会参加（学科行事）		
14. 専門ゼミを知る（2回生の研究テーマを聞く）	29. ゼミナールIでの学び(1) 口頭発表&ディスカッション		
15. 専門ゼミを選択する（各自で見学、体験し、決定する）	30. ゼミナールIでの学び(2) ゼミナールII準備		
<b>【教科書】</b>		<b>【参考書】</b>	
適宜資料を配布する		多数あるため適宜紹介する	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
○ PBL(課題解決型学習)	○ 反転授業	○ ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
○ 学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	その他：
<b>実務経験</b>			

ゼミナール I		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・2単位・30回 [学修準備時間 30]	
教員 板倉 史郎	年次・学期 1年・通	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 ○ DP2:知識・技術 ○ DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>【授業の目的と概要】</b>		<b>【到達目標】</b>	
<p>【前期】大学での学び方（ノートの取り方、講義の受け方、レポートの書き方、事前学習への取り組み方法など）を、全ゼミ同様に学んでいく。</p> <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者に必要な資質、能力について考える。</li> <li>・保育を巡る情勢について学ぶ。</li> </ul>		<p>【前期】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)大学での授業方法、受講に際する姿勢を理解できる。</li> <li>2)大学での授業を受講し、定められた課題に対応できる。</li> </ol> <p>【後期】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)自分がめざす保育者像を持つことができる。</li> <li>2)保育や子どもを巡って、どのようなことが起り、問題になっているかについて学ぶことで関心を深める。</li> </ol>	
<b>履修のルール</b>			
<b>【履修のルール】</b>		<b>【予習・復習の方法「自主学習ガイド」】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題については、当日までにやり遂げる</li> <li>・自分の意見や考えをもって、ゼミに参加する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・その都度、直接指導、連絡する。</li> <li>・子どもや保育に関するニュース等に関心をもち、自分なりに理解できるように取り組む。</li> </ul>	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	・課題に対する取組、提出課題、発表等を総合的に評価する。	
<b>授業計画</b>			
1. (プレゼミ) 大学での履修とは。大学での講義の受け方～ノートを取るには～	16.	ゼミでの取組紹介と意見交換	
2. 指す夢は同じ～大学での夢を語り合う(各プレゼミごとの自己紹介を通して)～	17.	保育、子どもに関する関心事項について交流とそれに対する意見	
3. 入学前課題の確認① 保育者に必要な国語、数学力を理解する	18.	関心事項の発表と意見交流1 児童虐待	
4. 入学前課題の確認② 幼児教育には欠かせない「絵本」を通して	19.	関心事項の発表と意見交流2 子どもの貧困	
5. 入学前課題の確認③ 「保育者のイメージ」「保育者に必要な漢字」を通して～保育者にとって必要な力とは～	20.	関心事項の発表と意見交流3 単親世帯	
6. 入学前課題の確認④ 自分の周辺にある「幼児教育施設」を理解する～実習に関連して～	21.	日本の保育制度について1 幼児教育制度	
7. 大学でのレポートと論文の違い～実際に経験することから～	22.	日本の保育制度について2 保育制度	
8. 大学での学びの方法～アクティブラーニング～	23.	初めての保育実習に向けて	
9. マナー講座を通して①～社会人として必要な力を探る～	24.	保育実習を終えて	
10. マナー講座を通して②～実演を伴った各自の課題を知る～	25.	世界の保育制度について1 欧米諸国	
11. マナー講座を通して③～①②で経験したことをレポートにまとめる～	26.	世界の保育制度について2 アジア諸国	
12. グループワークによるプレゼンテーション力の向上	27.	保育者の置かれている現状について1 労働時間を中心に	
13. グループワークを通して仕上げたチーム別発表、自己評価	28.	保育者の置かれている現状について2 待遇を中心に	
14. 専門ゼミを知る(2回生の研究テーマを聞く)	29.	保育者と保護者との関係について	
15. 専門ゼミを選択する(各自で見学、体験し、決定する)	30.	1年のまとめと2回生への課題、抱負	
<b>【教科書】</b>		<b>【参考書】</b>	
なし		・ゼミの時間に随時紹介する。	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
○ PBL(課題解決型学習)	反転授業	○ ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
○ 学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	その他:
<b>実務経験</b>			
小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。			

ゼミナール I		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・2単位・30回 [学修準備時間 30]	
教員 大浦 知加	年次・学期 1年・通	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 ○ DP2:知識・技術 ○ DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
<p>【前期】大学での学び方（ノートの取り方、講義の受け方、レポートの書き方、事前学習への取り組み方法など）を、全ゼミ同様に学んでいく。</p> <p>【後期】「音楽表現コミュニケーション」ゼミ：目に見えない「音楽」を目に見えるモノでサポートしながら表現し、こどもにわかりやすい形で関わる方法を展開していく。</p> <p>また、保育現場で使用する和太鼓・バル・鍵ハモ等を体験をする。</p>		<p>【前期】</p> <p>1) 大学での授業方法、受講に際する姿勢を理解できる。 2) 大学での授業の受講をし、定められた課題に対応できる。</p> <p>【後期】</p> <p>1) 目に見える「手作り魔法のパネルシアター」等でサポートしながら音楽遊びを展開し、こどもの発達や興味・関心に合わせて関わる方法を理解できる。 2) 様々な音楽表現活動に意欲的に参加できる。</p>	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学習ガイド」]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・共に学び合う積極的な姿勢と、周りを見渡す広い視野を持つ</li> <li>・音楽表現活動に楽しんで参加する</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画等を活用し、音楽遊びを幅広く知る。</li> <li>・こどもの発達を考慮し、どのような環境で行うか考えてみる。</li> </ul>	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	ゼミ内での取り組み、意欲、姿勢、発表を総合評価する。	
<b>授業計画</b>			
1. (プレゼミ) 大学での履修とは。大学での講義の受け方～ノートを取るには～	16. 専門ゼミ「音楽コミュニケーション」ゼミ 耳から聞こえる「音楽」を、目に見えるモノで支えて表現し、こどもたちと関わる方法を探究する。”	2. 目指す夢は同じ～大学での夢を語り合う（各プレゼミごとの自己紹介を通して）～	17. 音楽遊びで自己紹介・ゼミでの夢を語り合う
3. 入学前課題の確認① 保育者で必要な国語、数学力を理解する	18. 音楽遊び①歌にできること（あやし歌・手遊び歌・遊び歌）	4. 入学前課題の確認② 幼児教育には欠かせない「絵本」を通して	19. 個人面談と、音楽遊び①歌を支えるモノを創作（魔法のパネルシアター、手遊びや歌詞の創作）
5. 入学前課題の確認③ 「保育者のイメージ」「保育者に必要な漢字」を通して～保育者にとって必要な力とは～	20. 音楽遊び①歌と目に見える創作物との共演実践	6. 入学前課題の確認④ 自分の周辺にある「幼児教育施設」を理解する～実習に関連して～	21. 音楽遊び②楽器にできること（和太鼓・トーンチャイム・バル・鍵ハモ・手作り楽器）
7. 大学でのレポートと論文の違い～実際に経験することから～	22. 音楽遊び②こどもの発達、興味関心に合わせて楽器演奏	8. 大学での学びの方法～アクティブラーニング～	23. 2回生と音楽交流会
9. マナー講座を通して①～社会人として必要な力を探る～	24. 音楽遊び③音楽ゲームにできること	10. マナー講座を通して②～実演を伴った各自の課題を知る～	25. 個人面談と、音楽遊び③チームで音楽ゲームを創作
11. マナー講座を通して③～①②で経験したことをレポートにまとめる～	26. 研究課題について協働創作（楽器を使った合奏と創作：音楽・造形表現の視点から）	12. グループワークによるプレゼンテーション力の向上	27. 研究課題について協働創作（ダンス：身体表現の視点から）
13. グループワークを通して仕上げたチーム別発表、自己評価	28. 研究課題について協働創作（音楽遊び：音楽・言語表現の視点から）	14. 専門ゼミを知る（2回生の研究テーマを聞く）	29. ゼミ発表リハーサル：演者と観客で音楽を共有する環境を整える
15. 専門ゼミを選択する（各自で見学、体験し、決定する）	30. ゼミ発表会（アリーナ）		
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
		授業内で紹介する。	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
○ PBL(課題解決型学習)	○ 反転授業	○ ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
○ 学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	○ その他：
<b>実務経験</b>			
<p>保育園・こども園・小学校・中学校・高校、専門学校音楽講師勤務の経験と、現場保育者や教員への音楽指導経験を生かした指導法を展開する。また長年、0歳～大人までのピアノ指導や親子リトミック・音楽遊び指導を行い、和楽器・管弦打楽器こどもオーケストラや舞台イベントを主催・指導。自身も和太鼓やピアノによる舞台表現家である。</p>			

講義要綱  
1年次  
幼児教育科

ゼミナール I		講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数 演 ・ 2 単位 ・ 30 回 [学修準備時間 30]	
教員 島田 和秀	年次・学期 1年・通	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 ○ DP2:知識・技術 ○ DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>【授業の目的と概要】</b>		<b>【到達目標】</b>	
<p>【前期】 大学での学び方(ノートの取り方、講義の受け方、レポートの書き方、事前学習への取り組み方法など)を、全ゼミ同様に学んでいく。</p> <p>【後期】 1) 人間の体を生物学の観点から学びその知識を保育に生かし、指導できるようにする。子どもの成長にとって幼児期に十分に遊ぶことが、好奇心や探求心を育て主体性や頑張る力、学ぶ意欲につながっていく。 2) 子どもたちの遊びの中での成長を科学的に探求していく。</p>		<p>【前期】 1) 大学での授業方法、受講に際する姿勢を理解できる。 2) 大学での授業の受講をし、定められた課題に対応できる。</p> <p>【後期】 1) 子どもの体の発達と遊びについて、各自テーマを設定して探究する。 2) 子どもと一緒に遊ぶ機会をつくり、同じ目線に立って遊ぶ中で子どもたちの成長の芽を見つける。 3) 自ら学んだことについて、お互いに発表しあい学びあう。</p>	
<b>履修のルール</b>			
<b>【履修のルール】</b>		<b>【予習・復習の方法「自主学習ガイド」】</b>	
授業に積極的に参加すること。		予習：課題に必要な文献検索や素材・用具の準備を行う。 復習：授業内容を振り返り、整理し理解を深める。	
		<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>	
		授業内で解説する。また、実践の振り返りについてはグループ討議を行う。 【オフィスアワー】:月・木・金の昼休み	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	授業への参加状況、受講態度による評価(70) 課題への取り組みやミニレポートの提出状況(30)	
<b>授業計画</b>			
1. (プレゼミ) 大学での履修とは。大学での講義の受け方～ノートを取るには～	16. オリエンテーション：ゼミ概要説明		
2. 目指す夢は同じ～大学での夢を語り合う(各プレゼミごとの自己紹介を通して)～	17. 子どもの遊びと発達について①		
3. 入学前課題の確認① 保育者で必要な国語、数学力を理解する	18. 子どもの遊びと発達について②		
4. 入学前課題の確認② 幼児教育には欠かせない「絵本」を通して	19. ちよ短の森、冒険遊び場での実習①		
5. 入学前課題の確認③ 「保育者のイメージ」「保育者に必要な漢字」を通して～保育者にとって必要な力とは～	20. ちよ短の森、冒険遊び場での実習②		
6. 入学前課題の確認④ 自分の周辺にある「幼児教育施設」を理解する～実習に関連して～	21. ちよ短の森、冒険遊び場での実習③		
7. 大学でのレポートと論文の違い～実際に経験することから～	22. 科学遊びおもちゃ作り①		
8. 大学での学びの方法～アクティブラーニング～	23. ちよ短の森、冒険遊び場での実習④		
9. マナー講座を通して①～社会人として必要な力を探る～	24. 科学遊びおもちゃ作り②		
10. マナー講座を通して②～実演を伴った各自の課題を知る～	25. ちよ短の森、冒険遊び場での実習⑤		
11. マナー講座を通して③～①②で経験したことをレポートにまとめる～	26. 科学遊びおもちゃ作り③		
12. グループワークによるプレゼンテーション力の向上	27. ちよ短の森、冒険遊び場での実習⑥		
13. グループワークを通して仕上げたチーム別発表、自己評価	28. 科学遊びおもちゃ作り④		
14. 専門ゼミを知る(2回生の研究テーマを聞く)	29. ちよ短の森、冒険遊び場での実習⑦		
15. 専門ゼミを選択する(各自で見学、体験し、決定する)	30. ゼミナール発表会		
<b>【教科書】</b>		<b>【参考書】</b>	
		授業中に適宜紹介する。	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
○ PBL(課題解決型学習)	○ 反転授業	○ ディスカッション、ディバート	○ グループワーク
○ 学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	○ その他:
<b>実務経験</b>			

ゼミナール I		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・2単位・30回 [学修準備時間 30]	
教員 土居 隆	年次・学期 1年・通	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 ○ DP2:知識・技術 ○ DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>【授業の目的と概要】</b>		<b>【到達目標】</b>	
<b>【前期】</b> 大学での学び方(ノートの取り方、講義の受け方、レポートの書き方、事前学習への取り組み方法など)を、全ゼミ同様に学んでいく。 <b>【後期】</b> 本ゼミは、特別支援教育について各自テーマを設定し、疑問に感じたことを自発的に調べ解決することなどを通し探求を進める。近年の動向や最新のニュースや SNS での話題などについても、根拠を持って考えることができることを目的とする。		<b>【前期】</b> 1) 大学での授業方法、受講に際する姿勢を理解できる。 2) 大学での授業の受講をし、定められた課題に対応できる。 <b>【後期】</b> 1) 発達障害の子どもの言動の背景にある心情や困り感を理解するとともに、保育者としての適切な関わりについて説明できる。 2) 最新のニュースなどにおける話題にみられる特別支援教育の状況や課題について、根拠を持って自分の意見を述べるができる。	
<b>履修のルール</b>			
<b>【履修のルール】</b>		<b>【予習・復習の方法「自主学習ガイド」】</b>	
ゼミナールの中で感じた疑問や分からないことについては積極的に発言し、互いに解決していくこと。最新のニュースや SNS での話題などにも関心を持ち、根拠を持って考えるよう意識すること。		予習：不明な用語や言葉の確認・課題は滞りなく準備(60分) 復習：興味を持った事柄について文献やインターネット等で調べる・課題は指摘された点を修正(60分) <b>【課題に対するフィードバックの方法】</b> 授業内でフィードバックを行う。また、随時 Classroom を活用して行う。 [オフィスアワー]:火曜以外の昼休み(研究室)	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	各授業の授業内課題及びミニレポート、課題の内容により総合的に判断する。	
<b>授業計画</b>			
1. (プレゼミ) 大学での履修とは。大学での講義の受け方～ノートを取るには～	16. オリエンテーション：ゼミ概要説明		
2. 目指す夢は同じ～大学での夢を語り合う(各プレゼミごとの自己紹介を通して)～	17. 特別支援教育に関する疑問 発表テーマの検討		
3. 入学前課題の確認①	18. 発達障害と子どもの心情の理解①自閉スペクトラム症		
4. 入学前課題の確認② 幼児教育には欠かせない「絵本」を通して	19. 発達障害と子どもの心情の理解②ADHD		
5. 入学前課題の確認③ 「保育者のイメージ」「保育者に必要な漢字」を通して～保育者にとって必要な力とは～	20. 発達障害と子どもの心情の理解③LD		
6. 入学前課題の確認④ 自分の周辺にある「幼児教育施設」を理解する～実習に関連して～	21. 特別支援教育の実践を知る①ユニバーサルデザインの保育		
7. 大学でのレポートと論文の違い～実際に経験することから～	22. 特別支援教育の実践を知る②ポジティブ行動支援		
8. 大学での学びの方法～アクティブラーニング～	23. 特別支援教育の実践を知る③ABAによるインクルーシブ教育		
9. マナー講座を通して①～社会人として必要な力を探る～	24. ゼミ発表会に向けて①先行研究を知る		
10. マナー講座を通して②～実演を伴った各自の課題を知る～	25. ゼミ発表会に向けて②構成の検討		
11. マナー講座を通して③～①②で経験したことをレポートにまとめる～	26. ゼミ発表会に向けて③考察について		
12. グループワークによるプレゼンテーション力の向上	27. ゼミ発表会に向けて④発表原稿の作成		
13. グループワークを通して仕上げたチーム別発表、自己評価	28. ゼミ発表会に向けて⑤発表資料の作成		
14. 専門ゼミを知る(2回生の研究テーマを聞く)	29. ゼミ発表会		
15. 専門ゼミを選択する(各自で見学、体験し、決定する)	30. まとめと振り返り 2回生に向けて		
<b>【教科書】</b>		<b>【参考書】</b>	
授業時に適宜資料、プリントを配布する。			
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
○ PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
○ 学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:
<b>実務経験</b>			
小学校の学級担任、生徒指導主事、特別支援教育コーディネーターとして勤務 指導主事として巡回相談、臨床心理士として発達相談を担当			

ゼミナール I		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・2単位・30回 [学修準備時間 30]	
教員 東 景子	年次・学期 1年・通	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 ○ DP2:知識・技術 ○ DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
<b>【前期】</b> 大学での学び方（ノートの取り方、講義の受け方、レポートの書き方、事前学習への取り組み方法など）を、全ゼミ同様に学んでいく。 <b>【後期】</b> 乳幼児が園生活を楽しめる様なペープサート（紙人形）や季節のクラフト制作をし、学生自身が創作活動を楽しみ、創意工夫する力を身に付ける事を目的とする。		<b>【前期】</b> 1)大学での授業方法、受講に際する姿勢を理解できる。 2)大学での授業を受講し、定められた課題に対応できる。 <b>【後期】</b> 1)表現したい対象やテーマを考え、簡単な人形制作と季節に応じたクラフト制作ができる。 2)保育・教育現場で活用する事を想像しながら制作する事が出来る。	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学習ガイド」]</b>	
・グループワークも多いため、一人一人が積極的な姿勢で取り組む。 ・特に絵の具画材を使用する回では、多少汚れても構わない服装かエプロン等を持参の上受講する事。		予習：事前に提示された課題について、創作のヒントとなる童謡や絵本、おはなしなどの参考資料を図書館やインターネットで調べて収集する。復習：提供した資料を整理しながら、次回に向けて質問事項をまとめる。 <b>[課題に対するフィードバックの方法]</b> ゼミの話し合いの中で、毎回対面で指導を行う。 [オフィスアワー]:月火水金の昼休み、研究室	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	準備物、授業への取り組み姿勢、課題の作品や発表内容を総合的に評価する。	
<b>授業計画</b>			
1. (プレゼミ) 大学での履修とは。大学での講義の受け方～ノートを取るには～	2. 目指す夢は同じ～大学での夢を語り合う(各プレゼミごとの自己紹介を通して)～	3. 入学前課題の確認①	4. 入学前課題の確認② 幼児教育には欠かせない「絵本」を通して
5. 入学前課題の確認③ 「保育者のイメージ」「保育者に必要な漢字」を通して～保育者にとって必要な力とは～	6. 入学前課題の確認④ 自分の周辺にある「幼児教育施設」を理解する～実習に関連して～	7. 大学でのレポートと論文の違い～実際に経験することから～	8. 大学での学びの方法～アクティブラーニング～
9. マナー講座を通して①～社会人として必要な力を探る～	10. マナー講座を通して②～実演を伴った各自の課題を知る～	11. マナー講座を通して③～①②で経験したことをレポートにまとめる～	12. グループワークによるプレゼンテーション力の向上
13. グループワークを通して仕上げたチーム別発表、自己評価	14. 専門ゼミを知る(2回生の研究テーマを聞く)	15. 専門ゼミを選択する(各自で見学、体験し、決定する)	16. 造形ゼミオリエンテーションー課題説明やテーマについてー
			17. グループワーク、制作発表に向けての課題設定①
			18. グループワーク、制作発表に向けての準備②
			19. グループワーク、制作発表に向けての完成③
			20. 実習に向けて①童謡の紹介 登場人物のペープサートの情報収集
			21. 実習に向けて②おはなしの紹介 登場人物のペープサート制作
			22. 実習に向けて③ペープサートの完成
			23. 2回生と実習についての意見交流会
			24. 児童館との交流に向けてー保育に活かす造形①・情報収集
			25. 児童館との交流に向けてー保育に活かす造形②・試しと材料準備
			26. 児童館との交流に向けてー保育に活かす造形③・制作～完成
			27. 児童館との交流(課外活動)
			28. イベントの振り返りと反省
			29. 子どもと楽しむ素材の研究①
			30. まとめ半年の振り返りと春期の課題説明ー
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
必要に応じてプリント資料を配布する。 購入の画材一式			
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
○ PBL(課題解決型学習)	○ 反転授業	○ ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
○ 学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	○ その他:
<b>実務経験</b>			
小中学校の図画工作・美術と併設の特別支援学級の美術(非常勤講師・常勤講師)、社会人向けの生涯学習(木版画教室)講師			

ゼミナール I 講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
演 ・ 2 単位 ・ 30 回  
[学修準備時間 30]

教員 年次・学期 関連資格・必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連  
 本田 和隆 1 年・通 [保必] ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性  
○ DP2: 知識・技術 ○ DP4:人権・共感

**授業の目的・内容**

<p><b>【授業の目的と概要】</b></p> <p><b>【前期】</b>        大学での学び方（ノートの取り方、講義の受け方、レポートの書き方、事前学習への取り組み方法など）を、全ゼミ同様に学んでいく。</p> <p><b>【後期】</b>        ・保育者として社会問題について考える。        ・保育に関わる社会問題を具体的な事例を交えて学ぶ。</p>	<p><b>【到達目標】</b></p> <p><b>【前期】</b>        1) 大学での授業方法、受講に際する姿勢を理解できる。        2) 大学での授業の受講をし、定められた課題に対応できる。</p> <p><b>【後期】</b>        1) 身近なことから社会課題について理解できる。        2) 社会課題解決のためのアイデアを出すことが出来る。</p>
---	---

**履修のルール**

<p><b>【履修のルール】</b></p> <p>・常に、自分の身の回りで起きていること、社会で起きていることに関心を持っておくようにしましょう。</p>	<p><b>【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】</b></p> <p>授業で指示する。</p> <p><b>【課題に対するフィードバックの方法】</b></p> <p>毎回授業時に確認する。        【オフィスアワー】:随時、受け付ける。</p>
--	--

**評価基準・評価方法**

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	・グループワーク、ディスカッションに対する取組、ゼミ発表会における成果物等を総合的に評価する。

**授業計画**

1. (プレゼミ) 大学での履修とは。大学での講義の受け方～ノートを取るには～ 2. 目指す夢は同じ～大学での夢を語り合う(各プレゼミごとの自己紹介を通して)～ 3. 入学前課題の確認① 4. 入学前課題の確認② 幼児教育には欠かせない「絵本」を通して 5. 入学前課題の確認③ 「保育者のイメージ」「保育者に必要な漢字」を通して～保育者にとって必要な力とは～ 6. 入学前課題の確認④ 自分の周辺にある「幼児教育施設」を理解する～実習に関連して～ 7. 大学でのレポートと論文の違い～実際に経験することから～ 8. 大学での学びの方法～アクティブラーニング～ 9. マナー講座を通して①～社会人として必要な力を探る～ 10. マナー講座を通して②～実演を伴った各自の課題を知る～ 11. マナー講座を通して③～①②で経験したことをレポートにまとめる～ 12. グループワークによるプレゼンテーション力の向上 13. グループワークを通して仕上げたチーム別発表、自己評価 14. 専門ゼミを知る(2回生の研究テーマを聞く) 15. 専門ゼミを選択する(各自で見学、体験し、決定する)	16. 福祉ゼミでの学び①～これまでのゼミ活動 17. 福祉ゼミでの学び②～学生の問題関心 18. 児童福祉施設の意義と課題①～実習に向けた学び 19. 児童福祉施設の意義と課題②～実習報告(障がい児・者系) 20. 児童福祉施設の意義と課題③～実習報告(社会的養護系) 21. 子ども家庭福祉の動向①～少子化対策、保育制度改革など 22. 子ども家庭福祉の動向②～児童虐待、子どもの貧困問題など 23. ゼミ発表会テーマの検討と文献探索 24. ゼミ発表会の方法について～パワーポイント、出典など 25. グループ指導①～先行研究の検討 26. グループ指導②～結論と根拠の確認 27. グループ指導③～発表資料作成 28. 卒業論文発表①～全体指導 29. 卒業論文発表②～全体指導 30. まとめグループの成果と春休みの課題について
--	---

<b>【教科書】</b> なし	<b>【参考書】</b> ・随時紹介する。
--------------------	--------------------------

**アクティブラーニングへの取り組み**

<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	その他:

**実務経験**

実務経験

講義要綱  
1年次  
幼児教育科

ゼミナール I		講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数 演 ・ 2 単位 ・ 30 回 【学修準備時間 30】	
教員 森 大樹	年次・学期 1 年 ・ 通	関連資格 ・ 必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱 ・ 使命感 ◎ DP3:探究 ・ 主体性 ○ DP2: 知識 ・ 技術 ○ DP4:人権 ・ 共感
<b>授業の目的 ・ 内容</b>			
<b>【授業の目的と概要】</b>		<b>【到達目標】</b>	
<p>【前期】 大学での学び方（ノートの取り方、講義の受け方、レポートの書き方、事前学習への取り組み方法など）を、全ゼミ同様に学んでいく。</p> <p>【後期】 本ゼミでは、保育の現場でコンピュータを活用することを一緒に考え、学ぶことを目的とする。下のテーマなどの幅広くコンピュータを活用した取り組みを行う。ひとつひとつの操作を覚えるだけでは良い作品はできない。何よりも大切なことは意欲と、その内容を表現するための柔軟な発想と工夫が必要である。</p> <p>ワードを使用してゼミアルバムの制作、パワーポイントを使用しての紙芝居、デジタルカメラやビデオカメラでの撮影手法や編集方法を学び、画像や映像の活用等を行う。作成したテーマ課題を授業時にプレゼンテーションし、相互学習をする。</p>		<p>【前期】 1) 大学での授業方法、受講に際する姿勢を理解できる。 2) 大学での授業の受講をし、定められた課題に対応できる。</p> <p>【後期】 目標は、コンピュータを使って、単に指示された内容の文書を正確に作成できるようになるだけでなく、自分で創意工夫を凝らした資料や作品も作成できるようにすることである。また、ゼミとして、ひとつのことを共同で取り組む姿勢を養う。</p>	
<b>履修のルール</b>			
<b>【履修のルール】</b>		<b>【予習 ・ 復習の方法「自主学習ガイド」】</b>	
授業に積極的に参加すること。グループワークを重視する。		授業後には、授業時にできなかった課題を必ず最後まで完成させておくこと。また、授業時間内に完了した課題についても、もう一度復習し、学習内容を整理すること。	
		<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>	
		提出された課題に対して次回授業時に解説を行う。 【オフィスアワー】:火曜～金曜の昼休み・森研究室(704)	
<b>評価基準 ・ 評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準 ・ 方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	受講態度(40%)、課題等(60%)。課題への取り組み、授業態度を重視する。	
<b>授業計画</b>			
1. (ブレゼミ) 大学での履修とは。大学での講義の受け方～ノートを取るには～	16. オリエンテーション		
2. 目指す夢は同じ～大学での夢を語り合う(各ブレゼミごとの自己紹介を通して)～	17. ゼミアルバムの制作(1)画像処理		
3. 入学前課題の確認① 保育者が必要な国語、数学力を理解する	18. ゼミアルバムの制作(2)効果		
4. 入学前課題の確認② 幼児教育には欠かせない「絵本」を通して	19. 運動会メダル作成(1)写真撮影		
5. 入学前課題の確認③ 「保育者のイメージ」「保育者に必要な漢字」を通して～保育者にとって必要な力とは～	20. 運動会メダル作成(2)写真編集		
6. 入学前課題の確認④ 自分の周辺にある「幼児教育施設」を理解する～実習に関連して～	21. 大学祭ビデオ撮影説明と練習		
7. 大学でのレポートと論文の違い～実際に経験することから～	22. 大学祭ビデオ編集(1)編集ソフトの使い方		
8. 大学での学びの方法～アクティブラーニング～	23. 大学祭ビデオ編集(2)DVD オーサリング		
9. マナー講座を通して①～社会人として必要な力を探る～	24. デジタルカメラの写真整理		
10. マナー講座を通して②～美演を伴った各自の課題を知る～	25. 1 回生終了制作指導(1)音量調整		
11. マナー講座を通して③～①②で経験したことをレポートにまとめる～	26. 1 回生終了制作指導(2)タイトル挿入		
12. グループワークによるプレゼンテーション力の向上	27. 1 回生終了制作指導(3)レーベル・デザインと印刷		
13. グループワークを通して仕上げたチーム別発表、自己評価	28. 1 回生終了制作指導(4)データ書き込みとパッケージング		
14. 専門ゼミを知る(2 回生の研究テーマを聞く)	29. 1 回生終了制作指導(5)パワーポイントでの発表準備		
15. 専門ゼミを選択する(各自で見学、体験し、決定する)	30. ゼミ発表会		
<b>【教科書】</b>		<b>【参考書】</b>	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	<input type="checkbox"/> その他:
<b>実務経験</b>			

ゼミナール I		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・2単位・30回 [学修準備時間 30]	
教員 寄 ゆかり	年次・学期 1年・通	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 ○ DP2:知識・技術 ○ DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
<p>【前期】 大学での学び方(ノートの取り方、講義の受け方、レポートの書き方、事前学習への取り組み方法など)を、全ゼミ同様に学んでいく。</p> <p>【後期】 本ゼミは、「音楽表現 アンサンブル」ゼミとして音楽表現の様々なあり方を考える。音楽=ピアノだけではない。1回生では、まず「自分が音楽を聴いてほっとする。」「歌うと元気が出る」とはどういうことか。実際に自身が体験することから始め、追求していく。</p>		<p>【前期】 1) 大学での授業方法、受講に際する姿勢を理解できる。 2) 大学での授業の受講をし、定められた課題に対応できる。</p> <p>【後期】 1) 提示された課題曲演奏(歌、合奏など)に、積極的に取り組める。 2) 演奏の幅を広げる(楽器の種類、音域、ジャンルなど)努力ができる。 3) 様々な音楽表現を追求することにより、幼児教育の場での音楽表現の方法を考えることができる。</p>	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>	
<p>・音楽表現は技術力で「上手」「下手」と判断するのではない。取り組む姿勢と、「人に伝わる演奏をするためにはどうしたらよいか」を考えていく姿勢があることが重要である。</p>		<p>事前に提示された課題については、必ず予習(曲の場合は練習)しておくこと。予習の方法は示しているが、わからない場合は放置せず、質問しながら到達できるようにしておく。</p> <p><b>[課題に対するフィードバックの方法]</b> 各自の課題については、できるだけ対面で個別に指導を行う。 [オフィスアワー]:(火)(水)(木)(金)の在室時</p>	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	・各授業での課題と課題追求に取り組む姿勢、課題の達成度、チームでの曲への取り組み協力度など総合的に判断する。	
<b>授業計画</b>			
1. (プレゼミ) 大学での履修とは。大学での講義の受け方～ノートを取るには～	16. 専門ゼミ「音楽表現 アンサンブル」とは。ゼミでの夢を語り合う	17. 歌唱から感じること①～選曲するために～	18. 歌唱から感じること②～曲を歌ってみる。そこから感じること～
2. 目指す夢は同じ～大学での夢を語り合う(各プレゼミごとの自己紹介を通して)～	19. 歌唱から感じること③～人に響く演奏をするには～	20. 歌唱から感じること④～演奏して、気づいたこと～	21. 歌唱から感じること⑤～気づいたことを、どう反映するか～
3. 入学前課題の確認①	22. 文献研究と歌唱、合奏①～幼児曲をもとに～	23. 文献研究と歌唱、合奏②～幼児曲での合奏～	24. 文献研究と歌唱、合奏③～ポップスの体験～
4. 入学前課題の確認② 幼児教育には欠かせない「絵本」を通して	25. 文献研究と歌唱、合奏④～ポップスのノリを深める～	26. 文献研究と歌唱、合奏⑤～自分たちで合奏できる曲の選曲～	27. 文献研究と歌唱、合奏⑥～合奏のパートを検討する～
5. 入学前課題の確認③ 「保育者のイメージ」「保育者に必要な漢字」を通して～保育者にとって必要な力とは～	28. 文献研究と歌唱、合奏⑦～演奏する楽しさ～	29. 文献研究と歌唱、合奏⑧～演奏を極めるには～	30. 2回生に向けて、各自の研究課題を整理する。
6. 入学前課題の確認④ 自分の周辺にある「幼児教育施設」を理解する～実習に関連して～			
7. 大学でのレポートと論文の違い～実際に経験することから～			
8. 大学での学びの方法～アクティブラーニング～			
9. マナー講座を通して①～社会人として必要な力を探る～			
10. マナー講座を通して②～実演を伴った各自の課題を知る～			
11. マナー講座を通して③～①②で経験したことをレポートにまとめる～			
12. グループワークによるプレゼンテーション力の向上			
13. グループワークを通して仕上げたチーム別発表、自己評価			
14. 専門ゼミを知る(2回生の研究テーマを聞く)			
15. 専門ゼミを選択する(各自で見学、体験し、決定する)			
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
○ PBL(課題解決型学習)	○ 反転授業	○ ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
○ 学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	その他:
<b>実務経験</b>			
音楽教室においては、3歳児から70代までピアノ、エレクトーンでの鍵盤指導及び管楽器、打楽器指導を中心としたアンサンブル教育も行う。また現役保育者に対する保育内容に関する実技講習などの研修を多く行っている。			





# 講義要綱

幼児教育科 2 回生  
2023 年度入学生



英語 C		講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数 演 ・ 1 単位 ・ 8 回 [学修準備時間 30]	
教員 鯨坂 はるよ	年次・学期 2 年 ・ 前	関連資格 ・ 必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱 ・ 使命感 - DP3:探究 ・ 主体性 ◎ DP2: 知識 ・ 技術 - DP4:人権 ・ 共感	
<b>授業の目的 ・ 内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
<p><b>[授業の目的]</b> 四大編入を予定している学生の英語力養成を主な目的とする。過去の四大編入試験を解く中で、語彙力、文法知識を向上させ、長文読解力を身に付ける。</p> <p><b>[授業の概要]</b> 最初は自ら辞書を用いて、編入希望学部に合わせて英語試験問題を解いていく。解き方のコツを説明し、問題の解説も行い、復習小テストを行う。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英文法の知識が増えた。</li> <li>・ 英文の長文読解の解き方を理解できた。</li> <li>・ 語彙力が身についた。</li> <li>・ 希望学部の英語試験問題傾向がわかった。</li> </ul>	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習 ・ 復習の方法「自主学習ガイド」]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ GPA1.0 以上を受講要件とする。</li> <li>・ 四年制大学への編入学希望者は履修することが望ましい。</li> </ul>		<p>次回の講義までに、講義内容に対応する箇所を予習しておくこと。振り返り小テストを行うので、学んだことを復習しておくこと。全 30 時間。</p> <p><b>[課題に対するフィードバックの方法]</b> 小テストの後、解説を行う。 [オフィシアワー]:火、水、木、金曜日の昼休み。研究室にて。</p>	
<b>評価基準 ・ 評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準 ・ 方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	編入試験過去問題を終えるごとに、振り返り小テストを行う。振り返り小テストを評価基準とする。	
<b>授業計画</b>			
1.	四大編入希望学部について、英語編入試験問題、四大編入までに身に付けておく英語の力	9.	
2.	社会福祉学部系の過去編入問題 文法 ・ 単語問題	10.	
3.	社会福祉学部系の過去編入問題 長文問題	11.	
4.	社会福祉学部系の問題の傾向、振り返り小テスト、解説	12.	
5.	教育学部系の過去編入問題 文法 ・ 単語問題	13.	
6.	教育学部系の問題の傾向、振り返り小テスト、解説	14.	
7.	教育学部系の過去編入問題 長文問題	15.	
8.	その他の学部の編入問題の傾向、振り返り小テスト、解説、まとめ		
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
適宜プリント教材を配布する。		授業中に適宜紹介する。	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:
<b>実務経験</b>			

英語 D

講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
演 ・ 1 単位 ・ 8 回

[学修準備時間 30]

教員  
鯨坂 はるよ

年次・学期 2 年 ・ 後  
関連資格 ・ 必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連

- DP1:情熱・使命感
- DP2:知識・技術
- DP3:探究・主体性
- DP4:人権・共感

授業の目的・内容

[授業の目的と概要]

[授業の目的]

「英語 C」に引き続き、四大編入を予定している学生の英語力養成を主な目的とする。過去の四大編入試験を解く中で、語彙力、文法知識を向上させ、長文読解力を身に付ける。

[授業の概要]

最初は自ら辞書を用いて、編入希望学部に合わせて英語試験問題を解いていく。解き方のコツを解説し、問題の解説も行い、復習小テストを行う。

[到達目標]

- ・英文法の知識が増えた。
- ・英文の長文読解の解き方を理解できた。
- ・語彙力が身についた。
- ・希望学部の英語試験問題傾向がわかった。

履修のルール

[履修のルール]

- ・ GPA1.0 以上を受講要件とする。
- ・ 四年制大学への編入学希望者は履修することが望ましい。

[予習・復習の方法「自主学習ガイド」]

次回の講義までに、講義内容に対応する教科書の箇所を予習しておくこと。振り返り小テストを行うので、学んだことを復習しておくこと。全 30 時間。

[課題に対するフィードバックの方法]

小テストの後、解説を行う。  
[オフィスアワー]:火、水、木、金曜日の昼休み。研究室にて。

評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	編入試験過去問題を終えるごとに、振り返り小テストを行う。振り返り小テストを評価基準とする。

授業計画

1. 四大編入希望学部について、英語編入試験問題、四大編入までに身に付けておく英語の力	9.
2. 社会福祉学部系の過去編入問題 文法・単語問題	10.
3. 社会福祉学部系の過去編入問題 長文問題	11.
4. 社会福祉学部系の問題の傾向、振り返り小テスト、解説	12.
5. 教育学部系の過去編入問題 文法・単語問題	13.
6. 教育学部系の問題の傾向、振り返り小テスト、解説	14.
7. 教育学部系の過去編入問題 長文問題	15.
8. その他の学部の編入問題の傾向、振り返り小テスト、解説、まとめ	

[教科書]

適宜プリント教材を配布する。

[参考書]

授業中に適宜紹介する。

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

実務経験

--

コンピュータ・リテラシC		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・1単位・8回 [学修準備時間 30]	
教員 森 大樹	年次・学期 2年・後	関連資格・必修/選択 [幼選]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 - DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>【授業の目的と概要】</b>		<b>【到達目標】</b>	
<p>【目的】インターネットやメール、文書作成、プレゼンテーションなどコンピュータに対する情報活用能力は、将来の就業においても大切な要素のひとつである。さらに近年、各種情報がデジタル化された結果、デジタルカメラやクラウドなど、ICT環境の運用能力も必要とされるようになった。本科目では具体的な課題の演習を行い、これらの技能を自然と身に付け、同時に専門分野などへの応用ができる力を習得する。</p> <p>【概要】1年次に引き続き、ワードやパワーポイントの進んだレベルでの使い方や動画・音楽編集を学習する。作成したテーマ課題を授業時にプレゼンテーションし、相互学習をする。</p>		<p>Windows や代表的なソフトウェアであるワード、エクセル、パワーポイントの操作方法を学び、様々なタイプの文書や表の作成がスムーズに出来るようになること。また単に例文通りに入力するだけでなく、全体の構成、体裁などについて各自が創意工夫し応用の利いた文書や表の作成、動画・音楽編集の基本ができるようになることを目標としている。</p>	
<b>履修のルール</b>			
<b>【履修のルール】</b>		<b>【予習・復習の方法「自主学習ガイド」】</b>	
授業に積極的に参加すること。		<p>授業後には、授業時にできなかった課題を必ず最後まで完成させておくこと。また、授業時間内に完了した課題についても、もう一度復習し、学習内容を整理すること。</p> <p><b>【課題に対するフィードバックの方法】</b> 提出された課題に対して次回授業時に解説を行う。 [オフィスアワー]:火曜～金曜の昼休み・研究室(704)</p>	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	授業への取り組み姿勢(40%)、課題等(60%)。	
<b>授業計画</b>			
1.	音楽編集(1)データの取り込みとトリミング	9.	
2.	音楽編集(2)マルチトラック編集とエフェクト	10.	
3.	パワーポイント演習(1)課題説明と制作	11.	
4.	パワーポイント演習(2)発表	12.	
5.	ポスター制作(1)課題説明	13.	
6.	ポスター制作(2)課題完成と評価	14.	
7.	動画編集(1)課題説明とタイムライン	15.	
8.	動画編集(2)タイムラインとエフェクト		
<b>【教科書】</b>		<b>【参考書】</b>	
講義時に適宜紹介		講義時に適宜紹介	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
PBL(課題解決型学習)		反転授業	
○ 学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	ディスカッション、ディベート 双方向アンケート	グループワーク その他:
<b>実務経験</b>			

# 体育理論

講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
講 ・ 1 単位 ・ 8 回

[学修準備時間 30]

教員  
相奈良 律

年次・学期  
2 年 ・ 後

関連資格・必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連

[幼必][保必]

- DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性  
◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感

## 授業の目的・内容

### [授業の目的と概要]

体育・スポーツについての講義を通して、保育者・教育者として健康と安全に関する知識を身につけることを目的とする。各回のテーマに基づき、講義を行い、生涯にわたって自らの健康の保持増進が図れるように理解を深める。また、子どもの発育発達をふまえてのイメージを膨らませ援助・指導に必要な知識や技能を習得する。

### [到達目標]

自身の健康観や運動の重要性に気づき日常の実践活動に生かすことができる。子どもの発育発達の基礎を理解できるようになる。

## 履修のルール

### [履修のルール]

### [予習・復習の方法「自主学习ガイド」]

授業時に配布するプリント等の資料を整理しておくこと。スポーツや体育・体力等に關する記事やニュース等を意識して読むようにすること。

### [課題に対するフィードバックの方法]

課題等のフィードバックは、次時の授業冒頭で解説、説明する。筆記試験等は成績発表後に希望があれば開示、解説を適宜実施する。

[オフィスアワー]:授業時間前後。

## 評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	70	到達目標に対応して筆記試験を行う。体育理論について用語の説明や自身の考えを問う。
期末レポート	0	
その他	30	授業時に提示した課題について取り組み状況や内容を総合的に評価する。

## 授業計画

1. オリエンテーション、幼児体育の理論と現状、幼児の運動遊びの意義	9.
2. 体育の歴史と文化、体育・遊びの概念	10.
3. 熱中症について	11.
4. オリンピック、パラリンピック	12.
5. 体力とは、健康とは	13.
6. 健康づくり～運動、栄養、睡眠～	14.
7. 運動指導の留意点と安全への配慮	15.
8. 子どもが動きたくなる環境づくり	

### [教科書]

特に指定しない。必要に応じて適宜プリントを配布する。

### [参考書]

## アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	○	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート		その他:

## 実務経験

講義/演習/実技実習・単位数・回数 実・1単位・15回 [学修準備時間 15]			
体育実技			
教員 相奈良 律	年次・学期 2年・後 関連資格・必修/選択 [幼必][保必] ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感		
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b> 講義と実技を通して、身体運動に関する知識と実践のための方法や技術を身につけることを目的とする。学生自身が身体を動かす楽しさを体験する中で、子どもの発達をふまえてのイメージを膨らませ援助・指導に必要な知識や技術を習得する。また、保育者として必要な体力・運動能力の養成を図るために、運動遊びに加えて競技的なスポーツの実践を通して基礎技術の習得、ルールや特性について理解を深める。自らの健康の保持増進が図れるように理解を深めながら、心身のリフレッシュを図る。	<b>[到達目標]</b> 1)各運動を安全かつ効果的に実施するための基本的な動きと基礎的な知識を理解する。 2)技術の高低や得意不得意、好き嫌いにとらわれず、自分の持っている技術を活かして運動そのものを楽しめる能力を身につけることができる。 3)運動やゲームを多く経験し、保育現場で実践できるように理解し、簡易的な運動やゲームを考案することができる。		
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b> ・授業に際し、体調管理に努めること。 ・授業時は、水分・汗ふきタオル・着替え・屋内屋外両方のシューズを常に用意しておくこと。	<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b> ・授業時に配布する資料を整理しておくこと。 ・毎時、講義ノートに感想や気づきを記録する。 ・授業内容に応じて、自宅等で練習するなど動きの確認をしておくこと。 <b>[課題に対するフィードバックの方法]</b> 課題等のフィードバックは、次時の授業冒頭で解説、説明する。提出された講義ノート返却時にメッセージを添える。 [オフィスアワー]:授業時間前後。		
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%) 基準・方法		
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100 ①到達目標 1)に対応して実技試験を行う。 ②グループワークにおける発表や活動状況を評価する。 ③授業への取り組み姿勢、講義ノートの提出を評価する。		
<b>授業計画</b>			
1. オリエンテーション、アイスブレイキング	9. ニューススポーツ①ドッジビー		
2. 「走」運動(いろいろな鬼あそび)	10. ニューススポーツ②ヘルスパレー		
3. 「投」運動(基本動作の指導法、ボール運動)	11. 身近なものを使った運動あそび(新聞紙、フラフープ)		
4. 「跳」運動(なわあそびの理論と実践)	12. 表現運動(キッズダンス、ダンス創作)		
5. 運動あそびの創作と発表(グループワーク)	13. 運動指導の理論と実践(模擬保育実践に向けた内容検討)		
6. パラバルーン	14. 模擬保育実践①		
7. 器械運動(とび箱、鉄棒の基本)	15. 模擬保育実践②・ふりかえり		
8. サーキットあそび			
<b>[教科書]</b> 特に指定しない。必要に応じて適宜プリントを配布する。	<b>[参考書]</b>		
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	<input type="checkbox"/> その他:
<b>実務経験</b>			

# キャリアデザインⅡ

講義/演習/実技実習・単位数・回数  
講・2単位・15回

[学修準備時間 60]

教員  
阪田 啓代

年次・学期 2年・通\*  
関連資格・必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連

◎ DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性  
- DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感

## 授業の目的・内容

### [授業の目的と概要]

「就職活動」とは単に働く会社(園、施設)を選ぶことではない。「正解」がない進路選択を、自らの生き方に照らし決断し決定するまでの探究的な活動である。本講義では、就職活動の具体的な準備と実践、様々な分野で活躍しているゲスト講師の話等を通して、生涯を通じてのキャリア形成という視点をもちながら、進路を決定する力を身につける。

### [到達目標]

- ・卒業後の進路を考え、具体的な活動計画をたて、実践する。
- ・進路決定および決定後の活動について、自身の考えを整理し相談できる。
- ・社会人として働くために必要な力とは何か、具体的に考え身に付ける。

## 履修のルール

### [履修のルール]

### [予習・復習の方法「自主学習ガイド」]

・予習、復習については授業内で指示する。

### [課題に対するフィードバックの方法]

課題(確認テストやレポート等)については、適宜授業の中で解説、講評する。  
[オフィスアワー]:月～金 実習・キャリアサポート室にて随時

## 評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	授業への取り組み姿勢、授業内課題、進学・就職活動の報告レポートなどで総合的に評価する。

## 授業計画

- |                                  |                                  |
|----------------------------------|----------------------------------|
| 1. オリエンテーション/就職活動とは何か            | 9. 卒業後のキャリア形成①仕事を継続すること          |
| 2. 求人動向と就職活動への取り組み方(就職フェア・説明会など) | 10. 卒業後のキャリア形成②結婚・出産という転機        |
| 3. 受験先の選択-卒業生の就職活動-              | 11. 卒業後のキャリア形成③同業他社・異業種への転職という転機 |
| 4. 契約と労働条件                       | 12. 研修の意味と心構え                    |
| 5. 実務実践①求人先理解とアプローチの仕方           | 13. 内定辞退・早期退職防止のために-新卒社員に必要な力-   |
| 6. 実務実践②応募書類の作成・志望動機の考え方と伝え方     | 14. 雇用に関する権利と義務-労基法-             |
| 7. 実務実践③採用側の求める人材                | 15. 私のキャリアデザイン                   |
| 8. 実務実践④採用試験の模擬体験                |                                  |

### [教科書]

- ・プリント教材を配布
- ・進路就職ハンドブック

### [参考書]

## アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	○ その他:

## 実務経験

2級キャリアコンサルティング技能士、国家資格キャリアコンサルタントとして、本学の進路指導を担当する部署で学生のキャリア支援を行っている。

保育内容の指導法(健康 I)		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・1単位・8回 [学修準備時間 30]	
教員 本山 司	年次・学期 2年・後	関連資格・必修/選択 [幼必][保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
現代社会の状況をふまえた幼児の心身の発達 の知識 (ICT の活用含む)、その指導のた めの実践方法を学ぶ		幼稚園教育要領等の領域「健康」の ねらい及び内容の取扱いについて理 解し、幼児の健やかな心と体を育 てるための基本的な生活習慣や安全 な生活、運動発達の特徴を理解し、 適切な指導方法を身につける	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスを参照し、事前にテキスト を読んでおくこと。</li> <li>・授業時に配布した資料を必ず整 理し、まとめておくこと。</li> </ul>	
		<b>[課題に対するフィードバックの方法]</b>	
		課題等のフィードバックは、次時の 授業冒頭で解説、説明する。筆記 試験等は成績発表後に希望があ れば開示、解説を適宜実施する。 [オフィスアワー]:授業の前後に 受付します。	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	50	筆記試験 (50%)	
期末レポート	0		
その他	50	学習のまとめの発表内容及び成 果 (50%)	
<b>授業計画</b>			
1.	オリエンテーション、三法令から考 える領域「健康」のねらい	9.	
2.	保幼小の連携・接続、領域「健康」 の指導計画と評価	10.	
3.	保育内容「健康」の指導法①(運動 あそび)	11.	
4.	保育内容「健康」の指導法②(生活 習慣)	12.	
5.	現場における事故防止と安全管理 の実際と理論	13.	
6.	保育計画のための ICT を用いた 教材研究①	14.	
7.	保育計画のための ICT を用いた 教材研究②	15.	
8.	ICT を用いた教材研究プレゼンテ ーション、まとめ (最新動向)		
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
1 回生時に購入した、「子どもの姿 からはじめる領域・健康」		幼稚園教育要領、保育所保育指 針、幼保連携型認定こども園教 育・保育要領を引き続き使用する。	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート
○	学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート
			○ グループワーク その他:
<b>実務経験</b>			

## 保育内容の指導法(健康Ⅱ)

講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
演 ・ 1 単位 ・ 8 回

[学修準備時間 30]

教員 本山 司	年次・学期 2 年 ・ 後	関連資格・必修/選択 [幼選][保選]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
------------	------------------	------------------------	---

### 授業の目的・内容

<b>[授業の目的と概要]</b> 幼稚園教育要領及び保育所保育所保育指針に示されている保育内容(健康)を踏まえ、保育者として大切な「健康」のねらい及び内容を理解する。具体的には、乳幼児の健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養うというねらいを達成するために、乳幼児の健康体力づくり、運動と栄養、疲労回復とレクリエーションなどの基礎から応用に至る知見と発育発達、スポーツと社会などに関する子どもを取り巻く環境を念頭におきながら、より実践的な学習を運動遊びと安全を中心に検討・開発・実践を行う。	<b>[到達目標]</b> ・保育内容「健康」の目標を正しく理解し、保育現場に役立つ知識とスキルを習得することができる。 ・運動遊びと安全について、計画・開発、実践(指導・示範・指示)ができ、改善することができる。 また、他者の実践を評価できる。
--	--

### 履修のルール

<b>[履修のルール]</b> ・保育内容の指導法「健康Ⅰ」を修得済みであること。 ・実技を伴うため、軽装で参加すること。	<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b> ・予習及び復習の内応については、授業中に適宜指示するので、確実に履行しておくこと(120分)。 <b>[課題に対するフィードバックの方法]</b> ・課題等のフィードバックは、次時の授業冒頭で解説、説明する。 [オフィスアワー]:授業終了後に随時受け付ける。また、メールでも受け付ける(Gメール:t_motoyama@koyasan-u.ac.jp)。
---	---

### 評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験		
期末レポート		
その他	100	・実技内容、保育計画、模擬保育実践、振り返りや授業に取り組む姿勢などを総合して評価をする。

### 授業計画

1. オリエンテーション、健康Ⅰを振り返って(幼児の生活・発達特性・健康)	9.
2. 動きを育てる基本的運動あそび	10.
3. 運動遊び計画(基本的・心を育てる・社会性・考え方を育てる運動遊び)	11.
4. 計画に基づいた実践準備	12.
5. 幼児期の運動技能と運動遊び①(提案・説明、実技指導、評価)	13.
6. 幼児期の運動技能と運動遊び②(提案・説明、実技指導、評価)	14.
7. 応急手当て、一次救命処置①(理論と実践)	15.
8. 応急手当て、一次救命処置②(演習、到達度テスト)、まとめ	

<b>[教科書]</b> ・1年次に購入した、「子どもの姿からはじめる領域・健康」幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を引き続き使用する。	<b>[参考書]</b> 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
--	--

### アクティブラーニングへの取り組み

○ PBL(課題解決型学習)		反転授業		ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		双方向アンケート	その他:

### 実務経験

--

保育内容の指導法(人間関係)		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・1単位・8回 [学修準備時間 30]	
教員 石上 浩美	年次・学期 2年・後	関連資格・必修/選択 [幼必][保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
子どもたちが他者と共に共通の目的に向かって、一緒に考え、工夫し、協力する育ちの体験を支える、領域「人間関係」の内容について学ぶ。発達や社会的背景を含め、子どもが人と関わる姿を読み取り理解し、より良い方向へ向かっていける援助を組み立てられる力をつけることを目指す。		領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。人間関係を通して培われる「非認知的能力」について理解する。個々の子どもの人間関係における課題について、読み取る力を身につける。	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>	
		授業内でのレポートや演習発表があるので、教科書をよく読むだけでなく、図書館を使用して関連の書籍を積極的に調べること。	
		<b>[課題に対するフィードバックの方法]</b>	
		随時メールやClassroomを活用して行う。 [オフィスアワー]:メールやClassroomを活用して随時	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	授業内課題レポートと演習発表(グループワークでの態度や積極性も含む) 100%	
<b>授業計画</b>			
1.	非認知的能力と認知能力	9.	
2.	保育の基本と領域「人間関係」① 愛着や信頼関係	10.	
3.	保育の基本と領域「人間関係」② 仲間関係	11.	
4.	事例をとおして人間関係の育ちを読み解く①事例の分析	12.	
5.	事例をとおして人間関係の育ちを読み解く②分析の発表	13.	
6.	ICTと人間関係	14.	
7.	「人間関係」の育ちの理解と評価	15.	
8.	まとめ 非認知的能力を育む「人間関係」とは		
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
無藤隆・古賀松香『実践事例から学ぶ保育内容 社会情動的スキルの育む「保育内容 人間関係」』北大路書房 ¥2,530(税込) 円+税		田代和美・榎本真実『演習 保育内容 人間関係—基本的事項の理解と指導法—』建帛社 1,600	
『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』			
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	<input type="checkbox"/> その他:
<b>実務経験</b>			

保育内容の指導法(環境)

講義/演習/実技実習・単位数・回数  
演・1単位・8回

[学修準備時間 30]

教員 柳原 高文	年次・学期 2年・前	関連資格・必修/選択 [幼必][保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
-------------	---------------	------------------------	---

授業の目的・内容

<b>[授業の目的と概要]</b> 保育者として、自然への気付きを育み、領域「環境」の内容・ねらいを理解し、保育の構想・指導方法を身につける。幼児の発達段階を踏まえた具体的な指導に加えて、地域の自然・文化の特性を活かした指導ができるように講義を行う。幼児の発達を理解し、環境とかかわる力を育てる保育内容から、内面を育てる豊かな環境の構成ができるようにする。	<b>[到達目標]</b> 1)幼稚園教育要領における領域「環境」のねらいや内容を理解し説明できる。 2)領域「環境」のねらいと内容に基づき、指導上の留意点について理解できる。 3)幼児の発達を理解し、具体的な保育を構想できる。 4)身近な地域環境の現状と課題を踏まえながら、保育構想の向上に取り組む。
---	---

履修のルール

<b>[履修のルール]</b>	<b>[予習・復習の方法「自主学習ガイド」]</b> 予習：次回までに予習すべき内容と準備物について授業内で指示する。 復習：講義授業では配布プリント等の内容の整理、演習授業では実践の振り返りを行うこと。 <b>[課題に対するフィードバックの方法]</b> 授業内で解説する。また、実践の振り返りについては個別に添削を行う。 [オフィスアワー]:水の昼休み
-----------------	---

評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	70	筆記試験を行う。
期末レポート	0	
その他	30	授業への関心・意欲・態度

授業計画

1. オリエンテーション/キャンパスの野草観察	9.
2. 森で行う保・幼・小接続とは/キャンパスの樹木観察	10.
3. 幼児のアクティブ・ラーニングとは	11.
4. 野外ゲーム	12.
5. 幼児のサイエンス・プロセス・スキルとは	13.
6. 図形に親しむ	14.
7. ネイチャークラフト	15.
8. 自然保育ふりかえり	

<b>[教科書]</b> 適時資料を配布する。	<b>[参考書]</b> 内角府・文部科学省・厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 ¥500+税
----------------------------	---

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	○	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート		その他:

実務経験

森林インストラクター。この経験をもとに保育の基本を指導する。

保育内容の指導法(言葉 I)		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・1単位・8回 [学修準備時間 30]	
教員 杉田 律子	年次・学期 2年・前	関連資格・必修/選択 [幼必][保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>【授業の目的と概要】</b>		<b>【到達目標】</b>	
領域「言葉」の指導基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を修得することを目的とする。		1)言葉の意義や機能について理解する。 2)言葉に対する感覚を豊かにする実践方法を身につける。 3)乳幼児にとっての児童文化財の意義について理解する。 4)さまざまな児童文化財の特性について理解し、活用する力を身につける。	
<b>履修のルール</b>			
<b>【履修のルール】</b>		<b>【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】</b>	
・ペアワークやグループワーク等に積極的に参加すること。 ・配布プリント等をまとめるファイルまたはノートを準備しておくこと		予習：次回までに取り組むべき内容や課題について授業内で指示する。 復習：講義授業では配布プリント等の内容の整理、演習授業では実践の振り返りを行うこと。	
<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>			
授業内で講評を行う。実践の振り返りについては個別に評価を行う。 [オフィスアワー]:授業の前後やり方レクシヨシシート等を活用して質問を受け付ける。			
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	50	到達目標 1~4) に対応した理解度を問う筆記試験を行う。	
期末レポート	0		
その他	50	授業内課題、課題発表	
<b>授業計画</b>			
1.	オリンテーション/言葉の意義と機能	9.	
2.	言葉による伝え合いと文字の機能/各児童文化財の特性	10.	
3.	言葉の感覚を磨く遊びの理解と保育実践	11.	
4.	児童文化財の理解と実践①言葉遊び	12.	
5.	児童文化財の理解と実践②手遊び・うた遊び	13.	
6.	児童文化財の理解と実践③絵本・紙芝居	14.	
7.	児童文化財の理解と実践④シアター系文化財	15.	
8.	児童文化財の理解と実践⑤まとめの発表		
<b>【教科書】</b>		<b>【参考書】</b>	
近藤幹夫ほか『改訂2版 実践につながることばと保育』ひとなる書房 ¥2,200(税込)		内角府・文部科学省・厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 ¥500+税	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
<input type="checkbox"/>	PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	ディスカッション、ディベート
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	双方向アンケート
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	グループワーク
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	その他:
<b>実務経験</b>			
難聴乳幼児早期療育指導員として聴覚特別支援学校内の難聴乳幼児教室で教育活動の経験あり			

保育内容の指導法(言葉Ⅱ)

講義/演習/実技実習・単位数・回数  
演・1単位・8回

[学修準備時間 30]

教員  
杉田 律子

年次・学期 関連資格・必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連

2年・前集 [幼選][保選] - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性  
◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感

授業の目的・内容

[授業の目的と概要]

領域「言葉」の指導基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を修得することを目的とする。言葉Ⅱでは、言葉Ⅰでの学びを踏まえ、言葉の発達を理解したうえで、具体的な保育場面を想定しながら、言葉の指導法について実践的に学ぶ。

[到達目標]

- 1)言葉の意義や機能について理解する。
- 2)言葉に対する感覚を豊かにする方法を身につける。
- 3)乳幼児にとっての児童文化財の意義について理解する。
- 4)児童文化財をもとに教材づくりや実演をすることで、保育実践力を身につける。

履修のルール

[履修のルール]

・ペアワークやグループワーク等に積極的に参加すること。

[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]

予習：次回までに取り組むべき内容や課題、準備物について授業内で指示する。  
復習：講義授業では配布プリント等の内容の整理、演習授業では実践の振り返りを行うこと。

[課題に対するフィードバックの方法]

授業内で解説する。また、実践の振り返りについては個別に添削を行う。  
[オフィスアワー]:授業の前後やりフレクションシート等を活用して質問を受け付ける。

評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	授業内課題【作品含む】(50%) 課題発表、授業への参加状況(50%)

授業計画

1. オリエンテーション/保育内容の指導法(言葉Ⅰ)を振り返る	9.
2. 児童文化財の研究①ペープサート	10.
3. 児童文化財の研究②言葉あそび	11.
4. 児童文化財の研究③ストーリーテリング	12.
5. 児童文化財の研究④文字を遊びに取り入れる	13.
6. 児童文化財を用いた保育実践：立案	14.
7. 児童文化財を用いた保育実践：①模擬保育/振り返り	15.
8. 児童文化財を用いた保育実践：②模擬保育/振り返り	

[教科書]

適宜プリント教材を配布する。

[参考書]

内角府・文部科学省・厚生労働省 『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 ¥500+税

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	○ ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	その他：

実務経験

難聴乳幼児早期療育指導員として聴覚特別支援学校内の難聴乳幼児教室で教育活動の経験あり

講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
**保育内容の指導法(造形表現 I)**  
 演 ・ 1 単位 ・ 8 回  
 [学修準備時間 30]

教員 年次・学期 関連資格・必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連  
 東 景子 2 年 ・ 前 [幼必][保選] - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性  
 ◎ DP2: 知識・技術 - DP4:人権・共感

**授業の目的・内容**

**[授業の目的と概要]** **[到達目標]**

・幼稚園教育要領（保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領）の領域「表現」のねらい及び内容について実践的に学ぶ。  
 ・「表現」の中でも、造形表現を主体とした展開方法を身に付ける。  
 ・主に子どもの発達年齢に応じた「はさみ」の制作と折り紙、絵の具を中心に行う。具体的には、同じ行事やテーマであっても、3 歳児から5 歳児の発達年齢に応じた作品例を提示し、実際に制作を行う。

・幼稚園教育要領（保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領）の領域「表現」のねらい及び内容について理解する。  
 ・造形表現の意義について理解する。  
 ・発達年齢に応じた、はさみの使い方や折り紙の内容、絵の具の扱い方を理解し、保育現場で活用する力を身に付ける。  
 ・幼児が造形表現で身につける力を理解し、小学校の図画工作とのつながりを理解する。

**履修のルール**

**[履修のルール]** **[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]**

特に絵の具画材を使用する回では、多少汚れても構わない服装かエプロン等を持参の上受講する事。 必要な道具と素材は告知するので、必ず事前に準備し持参する事。各課題について確実に仕上げる。

**[課題に対するフィードバックの方法]**  
 作品鑑賞会の際にコメントをする、もしくは、課題とプリント返却時にメッセージを添える等の方法で行う。  
 [オフィスアワー]:月火水金の昼休み、図工室か研究室

**評価基準・評価方法**

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	準備物、制作課題提出、作品制作意図のまとめプリントで評価する。

**授業計画**

1. オリエンテーション・造形活動の意義－はさみの活動例－	9.
2. 梅雨の制作 実習に向けての平面制作①	10.
3. 梅雨の制作 実習に向けての平面制作②	11.
4. 身近な素材を使った造形①	12.
5. 夏の制作 基礎技法を使って①	13.
6. 夏の制作 基礎技法を使って②	14.
7. 身近な素材を使った造形②	15.
8. まとめ 紙粘土を使った制作	

**[教科書]** **[参考書]**

一年時購入済『保育をひらく造形表現』萌文書林¥2,300 円＋税  
 必要に応じてプリント資料を配布する。  
 二年の追加画材●協和紙工 パラエティおりがみ15cm 角(80 枚)、●銀鳥産業 かるーいかみねんど白

**アクティブラーニングへの取り組み**

<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	その他:

**実務経験**

小中学校の図画工作・美術と併設の特別支援学級の美術（非常勤講師・常勤講師）、社会人向けの生涯学習（木版画教室）講師

講義要綱  
 幼児教育科  
 2 年次

保育内容の指導法(造形表現Ⅱ)

講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
演 ・ 1 単位 ・ 8 回

[学修準備時間 30]

教員  
東 景子

年次・学期  
2 年 ・ 後

関連資格 ・ 必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連

[幼必][保選]

- DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性  
◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感

授業の目的・内容

【授業の目的と概要】

保育内容と指導法(造形表現Ⅰ)で学んだ事を基にして学ぶ。  
・幼稚園教育要領(保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領)の領域「表現」のねらい及び内容について実践的に学ぶ。  
・「表現」の中でも、造形表現を主体とした展開方法を身に付ける。  
・主に子どもの発達年齢に応じた「はさみ」の制作と折り紙、絵の具を中心に行う。具体的には、同じ行事やテーマであっても、3歳児から5歳児の発達年齢に応じた作品例を提示し、実際に制作を行う。

【到達目標】

・幼稚園教育要領(保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領)の領域「表現」のねらい及び内容について理解する。  
・造形表現の意義について理解する。  
・発達年齢に応じた、はさみの使い方や折り紙の内容、絵の具の扱い方を理解し、保育現場で活用する力を身に付ける。  
・幼児が造形表現で身につける力を理解し、小学校の図画工作とのつながりを理解する。

履修のルール

【履修のルール】

特に絵の具画材を使用する回では、多少汚れても構わない服装がエプロン等を持参の上受講する事。

【予習・復習の方法「自主学習ガイド」】

必要な道具と素材は告知するので、必ず事前に準備し持参する事。各課題について確実に仕上げる。

【課題に対するフィードバックの方法】

作品鑑賞会の際にコメントをする、もしくは、課題とプリント返却時にメッセージを添える等の方法で行う。  
【オフィスアワー】:月火水金の昼休み、図工室か研究室

評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	準備物、制作課題提出、作品制作意図のまとめプリントで評価する。

授業計画

1. 後期オリエンテーション	9.
2. 冬の造形①折り紙やハサミの活用	10.
3. 冬の造形②折り紙やハサミの活用-完成	11.
4. 絵馬に希望や願いを込めて-個人制作-	12.
5. 大絵馬に挑戦グループワーク①下地塗り	13.
6. 大絵馬に挑戦グループワーク②完成	14.
7. 春の造形①折り紙やハサミの活用	15.
8. 春の造形②完成、まとめ	

【教科書】

一年時購入済『保育をひらく造形表現』萌文書林 2,300円  
+税  
必要に応じてプリント資料を配布する。  
購入済の画材一式

【参考書】

アクティブラーニングへの取り組み

<input type="radio"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="radio"/> 反転授業	<input type="radio"/> ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> グループワーク
<input type="radio"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="radio"/> 実習、フィールドワーク	<input type="radio"/> 双方向アンケート	その他:

実務経験

小中学校の図画工作・美術と併設の特別支援学級の美術(非常勤講師・常勤講師)、社会人向けの生涯学習(木版画教室)講師

<b>保育内容の指導法(音楽表現 I)</b>		講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数 演 ・ 1 単位 ・ 8 回 [学修準備時間 30]	
<b>教員</b> 大浦 知加	年次・学期 2 年 ・ 前	関連資格 ・ 必修/選択 [幼必][保選]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児の様々な表現方法を豊かにするための表現遊びとその環境構成を実践的に学ぶ。</li> <li>・ 表現遊びの中でも、音楽を主体とした展開方法を身につける。</li> <li>・ 表現遊びに必要な鍵盤演奏力の向上を目指す。</li> <li>・ 鍵盤楽器以外の楽器や和太鼓の奏法を学びながら、保育に取り入れる指導法を学ぶ。</li> <li>・ 音楽を取り入れた保育計画の立案について学ぶ。</li> <li>・ 演奏を修得する上で必要な音楽理論も学ぶ。</li> <li>・ よりよい保育計画案に改善できることを目指す。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園教育要領（保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領）の領域「表現」のねらい及び内容の取扱いについて理解する。</li> <li>・ 音楽の側面から領域「表現」を捉え、その指導を展開できる。</li> <li>・ 弾き歌いを用いた音楽表現活動を実施できる。</li> <li>・ 鍵盤楽器以外、和太鼓等を用いた音楽表現活動を実施できる。</li> </ul>	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学習ガイド」]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽を使った身体遊びなども行うため、動きやすい服装で出席すること。</li> <li>・ ピアノ練習のため、イヤホンを持参すること（スマホ等で使用しているものでよい）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の指導法を確立できるようになるためにも、日常的に様々な方法を見つけられるような姿勢で周りを見るようにしましょう。</li> <li>・ 弾き歌いは、日々の積み重ねが大切です。毎日、練習しましょう。</li> </ul>	
<b>[課題に対するフィードバックの方法]</b> 実技ミニチェックでは、その場で各自に応じた指導を返している。また、楽典、レポートなどはClassroom等で各自の課題をコメントし、指導に活かしている。 [オフィスアワー]:火～金（研究室）			
<b>評価基準・評価方法</b>			
<b>種類</b>	<b>割合(100%)</b>	<b>基準・方法</b>	
期末試験	40	実技試験（ピアノ・和太鼓、日常授業の取り組み状況も含む）	
期末レポート	0		
その他	60	授業内で実施する実技ミニチェック、学習のまとめのレポート内容及び成果と取組状況	
<b>授業計画</b>			
1. 領域「表現」のねらい及び内容の取扱い、幼小接続・学びの連続性における表現の発達を音楽の側面から理解する	9.		
2. こどもの音楽あそび—身体を通して表現する活動—①（リトミック等の表現）を取り入れた活動の体験	10.		
3. こどもの音楽あそび—身体を通して表現する活動—②（手遊び・音楽遊び等の表現）を取り入れた活動を行う保育計画の立案	11.		
4. こどもの音楽あそび—身体を通して表現する活動—③（手遊び・音楽遊び等の表現）を取り入れた活動を行う保育計画の実施	12.		
5. こどもの音楽あそび—モノとの対話から表現する活動—①（和太鼓等、楽器を使って）を取り入れた活動の体験	13.		
6. こどもの音楽あそび—モノとの対話から表現する活動—②（和太鼓等、楽器を使って）を取り入れた活動を行う保育計画の立案	14.		
7. こどもの音楽あそび—モノとの対話から表現する活動—③（和太鼓等、楽器を使って）を取り入れた活動を行う保育計画の実施	15.		
8. こどもの音楽あそび—モノとの対話から表現する活動—④（和太鼓等、楽器を使って）を取り入れた活動を行う保育計画をICT活用して発表			
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
編著：木村鈴代『新たなのしい子どものうたあそび』同文書院 平成 29 年度 幼稚園教育要領(最新版)、保育所保育指針(最新版)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版) 2,420		編著：伊藤伸明『3つのコードで楽しく弾ける』ドレミ楽譜 適宜授業内で紹介する。 出版¥1,980(税込)	
※すべて 1 回生時の教科書を使用			
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	<input type="checkbox"/> その他：学生による創作演奏
<b>実務経験</b>			
保育園・こども園・小学校・中学校・高校、専門学校音楽講師勤務の経験と、現場保育者や教員への音楽指導経験を生かした指導法を展開する。また長年、0 歳～大人までのピアノ指導や親子リトミック・音楽遊び指導を行い、和楽器・管弦打楽器こどもオーケストラや舞台イベントを主催・指導。自身も和太鼓やピアノによる舞台表現家である。			

保育内容の指導法(音楽表現Ⅱ)		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・1単位・8回 [学修準備時間 30]	
教員 寄 ゆかり	年次・学期 2年・後	関連資格・必修/選択 [幼必][保選]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>【授業の目的と概要】</b>		<b>【到達目標】</b>	
<p>保育内容の指導法(音楽表現Ⅰ)で学んだことをもとに、さらに</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の様々な表現方法を豊かにするための表現遊びとその環境構成を実践的に学ぶ。</li> <li>・表現遊びの中でも、音楽を主体とした展開とその発展方法を身につける。</li> <li>・表現遊びに必要な鍵盤演奏力の向上を目指す。</li> <li>・様々な楽器を用いた合奏法を学ぶ。</li> <li>・情報機器を用いた保育計画の立案について学ぶ。</li> <li>・よりよい保育計画案に改善できることを目指す。</li> <li>・演奏を修得する上で必要な音楽理論も学ぶ。</li> </ul>		<p>幼稚園教育要領の領域「表現」のねらい及び内容の取扱いについて理解し、音楽の側面から表現を捉え、その指導計画立案、実施を通して、その指導法を身に付ける</p>	
<b>履修のルール</b>			
<b>【履修のルール】</b>		<b>【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を使った身体遊びなども行うため、動きやすい服装で出席すること。</li> <li>・ピアノ練習のため、イヤホンを持参すること。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の指導法を確立できるようになるためにも、日常的に音楽の様々な音楽表現を見つけて意識をもち、教材研究に励みましょう。</li> <li>・弾き歌いは、日々の積み重ねが大切です。毎日、練習しましょう。</li> </ul>	
<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>			
<p>実技ミニチェックでは、その場で各自に応じた指導を返している。また、楽典、レポートなどはClassroom等で各自の課題をコメントし、指導に活かしている。 [オフィスアワー]:お昼休み等(研究室)</p>			
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	50	実技試験及び筆記試験	
期末レポート	0		
その他	50	授業内で実施する実技ミニチェック、楽典ミニテストほか学習のまとめのレポート内容及び成果と取組状況	
<b>授業計画</b>			
1.	領域「表現」のねらい及び内容の取扱いにおける音楽表現の捉え方	9.	
2.	音楽の楽しさを様々な楽器の奏法を学ぶ(いい音色を鳴らす)	10.	
3.	音楽表現の一方法(ポディーパーカッション)を理解する	11.	
4.	音楽表現の体験と子どもができるポディーパーカッションを考える。	12.	
5.	音楽の楽しさを味わうことを目的とした保育計画のための情報機器を用いた教材研究	13.	
6.	鍵盤楽器での音楽表現方法	14.	
7.	子どもと合奏する場合をイメージして合奏を完成させる	15.	
8.	合奏発表に向けての課題の改善と本活動として指導案の作成		
<b>【教科書】</b>		<b>【参考書】</b>	
<p>編著：伊藤伸明『3つのコードで楽しく弾ける』ドレミ楽譜出版 ¥1,980(税込) 編著：木村鈴代『たのしい子どものうたあそび』 同文書院¥2,200+税 ※すべて1回生時、表現技術(ピアノⅠ)の教科書を継続して使用します。 それ以外は、プリント配付</p>			
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
PBL(課題解決型学習)	○	反転授業	○
学生によるプレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
		ディスカッション、ディバート	○
		双方向アンケート	○
		グループワーク	○
		その他:	○
<b>実務経験</b>			
<p>音楽教室においては、3歳児から70代までの幅広い層にピアノ、エレクトーンでの鍵盤指導及び管楽器、打楽器指導を中心としたアンサンブル教育も行う。また現役保育者に対する保育内容に関する実技講習などの研修を多く行っている。</p>			

講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
**保育内容の指導法(総合表現)** 演・1単位・15回  
 [学修準備時間 15]

教員 年次・学期 関連資格・必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連  
 大浦 知加 2年・後 [幼必][保選] - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性  
 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感

**授業の目的・内容**

**[授業の目的と概要]** **[到達目標]**

・三法令の領域「表現」のねらい及び内容の取扱いについて、総合的な視点から理解する。  
 ・「音楽」「言語」「身体」「造形」表現の学びの集大成として、こどもの表現の過程を理解する感性と表現力を養う。  
 ・主体的に動き自分の得意な分野の力を伸ばし、対話的に他者とコラボレーションする力を育む。  
 ・子どもたちの表現力を引き出し、見守り、援助することができる保育者を目指す。  
 ・集団活動の中で主体的に動き協働する力や、周りを見渡す力を養う

・劇作りのプロセスから、子どもが表現を獲得していく過程を理解する。  
 ・豊かな感性を養い、様々な表現力を身につける。  
 ・見通しを立てて計画し、実行することができる。  
 ・集団活動の中で周りを見渡しながらか主体的に動くことができる。  
 ・他者とコラボレーションする力を身につける。

**履修のルール**

**[履修のルール]** **[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]**

・動きを伴うため、動きやすい服装と靴。  
 ・造形創作時は汚れても良い服装で。  
 ・創作時は各自「ホチキス、カッター、のり、マジック、色鉛筆」等を持ってくる。  
 ・脚本係はPC要。  
 ・夏休みに授業前課題として、指示された昨年2回生の劇発表動画を鑑賞しレポートを提出する。

・ミュージカルや劇等の動画を観て参考にする。  
 ・授業前課題を提出する  
 ・舞台やテレビ、映画等での、役者の話し方や目線、動き方、話の起転転結を参考にする。  
 ・造形創作が始まったら、休み時間や放課後等の空いている時間に制作をしても良い。

**[課題に対するフィードバックの方法]**  
 その場で、課題に応じた指導を返したり、補足説明をする。また、随時メールやClassroomを活用して行う。  
 [オフィスアワー]:お昼休み等(研究室)

**評価基準・評価方法**

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>・劇作りへの取り組み状況</li> <li>・授業前課題提出レポート</li> <li>・授業内、振り返りレポート</li> <li>・創作劇発表に取り組む姿勢(意欲・片付け含む)</li> </ul> 上記を総合的に評価する。

**授業計画**

1. 領域「表現」のねらい及び内容の取扱いを総合的に理解する	9. 音楽表現：音楽表現におけるディスカッションと改善
2. 言語・身体・音楽・造形表現を融合させ劇を創作することを理解し、手立てや材料などについて構想する	10. 身体表現：ダンスや動きに関するディスカッションと改善
3. 役割分担、劇イメージの共有、製作の計画作成と実践	11. 言語表現：ナレーションやセリフに関するディスカッションと改善
4. 造形表現：舞台、衣装等の計画と制作	12. 他クラスと劇発表を鑑賞し合い、意見交換をする
5. 音楽表現：場面表現における音楽の効果探究と創作	13. クラス毎に、ディスカッションを通じた表現の深化・改善
6. 身体表現：ダンスの計画と創作	14. 劇発表の振り返りと表現活動のまとめ
7. 言語表現：登場人物のキャラクター、セリフの創作	15. 子どもたちと創作する劇について学ぶ
8. 造形表現：舞台、衣装等におけるディスカッションと改善	

**[教科書]** **[参考書]**  
 適宜指示します。※すべて1回生時の教科書を使用

**アクティブラーニングへの取り組み**

<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	<input type="checkbox"/> その他：学生による創作表現・発表・運営

**実務経験**

保育園・こども園・小学校・中学校・高校、専門学校音楽講師勤務の経験と、現場保育者や教員への音楽指導経験を生かした指導法を展開する。また長年、0歳~大人までのピアノ指導や親子リトミック・音楽遊び指導を行い、和楽器・管弦打楽器こどもオーケストラや舞台イベントを主催・指導。自身も和太鼓やピアノによる舞台表現家である。

講義要綱  
 幼児教育科  
 2年次

教育制度論 講義/演習/実技実習・単位数・回数  
講・2単位・15回  
[学修準備時間 60]

教員 年次・学期 関連資格・必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連  
松浦 善満 2年・後 [幼必] - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性  
○ DP2:知識・技術 ◎ DP4:人権・共感

**授業の目的・内容**

**[授業の目的と概要]** **[到達目標]**  
幼稚園免許取得科目として保育・幼児教育並びに教育制度に関する基本的素養を学ぶ。保育者として日本と世界の保育教育制度改革について見識を深め将来の実践に生かせる能力を育成する。  
保育者として実践に生かせる基礎的素養を身に着ける。とくに保育実践の課題と保育・教育制度の関係について理解を深める。

**履修のルール**

**[履修のルール]** **[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]**  
・授業内容を理解するとともに、近い将来保育・教育現場での実践に生かせるように実践的意欲を高める。そのために授業への疑問や自己の意見を積極的に発表する。  
・ノート及び授業の感想をよく読み課題意識を高める。  
**[課題に対するフィードバックの方法]**  
・友人とグループワークに参加し他者の考えと自己の考えとを統合できる経験を授業を通して獲得する。そのために実習等の体験を生かして学習に参加する。課題については授業要望に対するレスポンスを丁寧に行う。  
[オフィスアワー]:水曜2・4時間目

**評価基準・評価方法**

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	ノートの提出を随時実施する。(10点×2回) ノートの提出、課題発表報告書を期末レポートに代える。 各自の提出ノート、課題発表について①課題設定②発表方法③他者・自己評価を総合して行う。

**授業計画**

- |                        |                     |
|------------------------|---------------------|
| 1. 保育教育制度論の授業計画を確認する   | 9. 世界の保育・教育制度②      |
| 2. 子どもの発達課題と保育・教育制度①   | 10. 世界の保育・教育制度③     |
| 3. 子どもの発達課題と保育・教育制度②   | 11. 保育・教育制度改革提案・発表① |
| 4. 子どもの発達課題と保育・教育制度③   | 12. 保育・教育制度改革提案・発表② |
| 5. 保育者・教師の専門性と保育・教育制度① | 13. 保育・教育制度改革提案・発表③ |
| 6. 保育者・教師の専門性と保育・教育制度② | 14. 課題発表を相互評価する     |
| 7. 保育者・教師の専門性と保育・教育制度③ | 15. 保育・教育制度論まとめ     |
| 8. 世界の保育・教育制度①         |                     |

**[教科書]** **[参考書]**  
・随時資料を提供するので教科書の指定はない。  
・泉千勢他『世界の幼児教育・保育改革と学力』明石書店 2,600円・キティ・スチュアート他『保育政策の国際比較』明石書店 3,200円・保育研究所編『保育白書 2000～2023年』ひとなる書房

**アクティブラーニングへの取り組み**

<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	その他:

**実務経験**

実務経験

幼児教育科 2年次 講義要綱

特別支援教育・保育演習 講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
演 ・ 1 単位 ・ 8 回  
[学修準備時間 30]

教員 年次・学期 関連資格・必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連  
土居 隆 2・3年・前 [保必] - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性  
◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感

**授業の目的・内容**

<b>[授業の目的と概要]</b>	<b>[到達目標]</b>
特別支援教育の実践においては、障害のある子どもや保護者の困り感や心情を理解した上で、学んだ理論や知識を積極的に活用することが求められる。この授業では、子どもの実態把握や教育的支援の工夫、個別の支援計画の作成、家庭や専門機関・小学校との連携について、グループワーク等の演習を通して学ぶことで、専門性と実践力を高めることを目的とする。	1)障害のある子どもの根拠に基づく実態把握ができる。 2)子どもの発達状況に応じた教育的支援や教材・教具の工夫ができる。 3)個別の支援計画を作成し、子どものニーズに応じたチームによる支援を計画できる。 4)家庭や専門機関、小学校との連携におけるポイントについて説明できる。

**履修のルール**

<b>[履修のルール]</b>	<b>[予習・復習の方法「自主学習ガイド」]</b>
「特別支援教育」の内容は学習済みであることを前提に授業を行う。	予習：授業計画を参考に教科書の該当箇所の通読・不明な用語や言葉の確認（60分） 復習：教科書や配布資料の再読・興味を持った事柄について文献やインターネット等で調べる（60分） <b>[課題に対するフィードバックの方法]</b> 授業内でフィードバックを行う。また、随時 Classroom を活用して行う。 [オフィスアワー]:火曜以外の昼休み（研究室）

**評価基準・評価方法**

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	20	授業で指示する。到達目標 3)の観点から評価を行う。
その他	80	各授業の授業内課題及びミニレポート、授業で指示する課題（到達目標 2)の観点による）により評価する。

**授業計画**

1. 保育と特別支援教育	9.
2. 対人関係の課題やこだわりのある子どもの保育	10.
3. 不注意や落ち着きのなさがある子どもの保育	11.
4. 学習に課題のある子どもの保育	12.
5. 幼稚園・保育所等の支援について①（子どもの観察の方法・環境調整）	13.
6. 幼稚園・保育所等の支援について②（個別の指導計画・障害理解教育）	14.
7. 家庭や専門機関との連携	15.
8. 小学校へのなめらかな接続	

<b>[教科書]</b>	<b>[参考書]</b>
・教科書 松井剛太・七木田敦編著「実践事例を通して具体的ななかかわりを学ぶ 保育における特別支援教育」教育情報出版 2200円 ・「特別支援教育」(1回生科目)で使用したテキストも引き続き使用する。(尾野明美・小湊真衣・奥田訓子編「特別支援教育・保育概論」萌文書林) ・授業時に資料、プリントを配布する。画用紙等を使用することがある(授業内で指示します)。	授業内で適宜紹介する。

**アクティブラーニングへの取り組み**

<input type="radio"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="radio"/> 反転授業	<input type="radio"/> ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> グループワーク
<input type="radio"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="radio"/> 実習、フィールドワーク	<input type="radio"/> 双方向アンケート	<input type="radio"/> その他:

**実務経験**

小学校の学級担任、生徒指導主事、特別支援教育コーディネーターとして勤務

講義要綱  
幼児教育科  
2年次

保育方法論		講義/演習/実技実習・単位数・回数 講・2単位・15回 [学修準備時間 60]	
教員 石上 浩美	年次・学期 2年・後	関連資格・必修/選択 [幼必][保選]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
<p>「幼稚園教育要領」などの改定にともない「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明記されたことをふまえて、保育者にはより専門的な知識と技能が求められるようになった。これをふまえ、保育5領域の具体的な指導方法、ICTを活用した保育計画の作成と実践について学修することが、この科目の大きな目的である。そして、公教育を担う保育者として適切な教育実践を行うことができるようになることをめざす。具体的には、アクティブ・ラーニング(AL)形式で様々なICTを活用した保育実践事例を紹介しながら、教育方法と技術に関する基礎を習得する。さらに、現代の保育課題を明らかにし、それらへの具体的な対処方法・方略を探究する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育内容5領域方に関する指導方法・技術について理解できる。</li> <li>2. ICTを活用した保育方法・技術について理解できる。</li> <li>3. 子どもの発達特性や集団特性に応じた「遊び」や「教材」を考案し実践・評価することができる。</li> <li>4. 地域や家庭、異文化理解、小学校との連携の観点から保育方法。技術と支援について考察することができる。</li> </ol>	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>	
		予習：シラバスを参考に教科書指定ページの精読(60分) 復習：授業内容などを参考にノート整理・事後学修課題を行う。(60分) ※授業資料・課題提出は Google Classroom を活用する。	
		<b>[課題に対するフィードバックの方法]</b>	
		・授業時全体アナウンス ・Google Classroom コメント [オフィスアワー]:後日公表 メールおよび Google Classroom も常時活用	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	50	筆記試験：50% 知識・理解の習熟度合いについて	
期末レポート	0		
その他	50	毎回のミニレポート (Google Form) 内容：30% 思考・判断力について 授業内口頭発表内容：20% 表現・独創性について	
<b>授業計画</b>			
1. オリエンテーション 授業の目的・目標、内容、授業計画と評価観点・方法の説明	9. 幼児期における科学教育 テキスト第8章		
2. これからの時代における新しい幼児教育の可能性 テキスト第1章	10. 保育とICT/指導計画園だよりの作成 テキスト第10章		
3. 環境指導法 テキスト第2章	11. 保育とICT/電子絵本の作成 テキスト第10章		
4. 造形指導法 テキスト第3章	12. 外国にルーツを持つ子どもたち/障害がある子どもたち テキスト第11章第12章		
5. 幼児教育における身体表現 テキスト第4章	13. 虐待経験の影響と求められる特別支援 テキスト第13章第14章第15章		
6. 新しい時代を生きる子どもたちの音楽 テキスト第5章	14. 電子絵本プレゼンテーション(1)		
7. 幼児期の生活と言葉の発達 テキスト第6章	15. 電子絵本プレゼンテーション(2)		
8. 幼児の算数的活動 テキスト第7章			
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
大浦賢治・野津直樹編著(2020)『実践につながる新しい幼児教育の方法と技術』ミネルヴァ 書房(ISBN:9784623089642) 2750円		・文部科学省編 幼稚園教育要領解説(平成30年3月) フレーベル館(ISBM9784577814475) 264円 ・厚生労働省編 保育所保育指針解説(平成30年3月) フレーベル館(ISBM9784577814482) 352円	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
PBL(課題解決型学習)	○	反転授業	○
○ 学生によるプレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート
			○ グループワーク その他:
<b>実務経験</b>			

乳幼児理解		講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数 演 ・ 1 単位 ・ 8 回 [学修準備時間 30]	
教員 石上 浩美	年次・学期 2 年 ・ 前	関連資格 ・ 必修/選択 [幼必][保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱 ・ 使命感 - DP3:探究 ・ 主体性 ◎ DP2: 知識 ・ 技術 - DP4:人権 ・ 共感
<b>授業の目的 ・ 内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
乳児保育 I 既習内容をふまえ、乳幼児期の身体・認知・社会性などの発達特性について理解する。また、実際の指導場面を想定した演習（乳児との接し方、排泄ケア・沐浴など）を通して、乳児の取り扱いについて理解し、保育者の役割や保育の意義について探究する。さらに、0 歳児から 2 歳児の保育計画の作成・実践・評価について PDCA サイクルを用いた知識の定着と保育技能の改善を図る。		1. 乳幼児の発達過程や特性について言語的に説明・論述できる。 2. 養護と教育の一体性をふまえ、3 歳未満児の生活や遊びと援助の方法および環境づくりについて考案できる。 3. 0 歳から 2 歳児を対象とした計画の作成・模擬保育実践・評価を通して、自己評価・改善ができる。	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学習ガイド」]</b>	
2023 年度開講「乳児保育 I」と共通テキストを用いる（新規購入不要） 乳児保育 I 期集内容は適宜テキストの精読・復習するのが望ましい。		予習：シラバスを参考に教科書指定ページの精読(60 分) 復習：授業内容などを参考にノート整理・事後学修課題を行う。(60 分) ※授業資料・課題提出は Google Classroom を活用する。 <b>[課題に対するフィードバックの方法]</b> ・ 授業時全体アナウンス ・ Google Classroom コメント [オフィスアワー]:後日公表 メールおよび Google Classroom も常時活用	
<b>評価基準 ・ 評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準 ・ 方法	
期末試験	50	筆記試験：50% 知識・理解の習熟度合いについて	
期末レポート	0		
その他	50	毎回のミニレポート (Google Form) 内容：30% 思考・判断力について 授業内口頭発表内容：20% 表現・独創性について	
<b>授業計画</b>			
1.	オリエンテーション 授業の目的・目標、内容、授業計画と評価観点・方法の説明	9.	
2.	乳児保育における計画と記録 テキスト第 14 章	10.	
3.	0 歳児保育の実際 テキスト第 16 章・沐浴演習	11.	
4.	1 歳児保育の実際 テキスト第 17 章・遊びのワーク	12.	
5.	2 歳児保育の実際 テキスト第 18 章・遊びのワーク	13.	
6.	心の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 テキスト第 19 章	14.	
7.	長期的な指導計画と短期的な指導計画 テキスト第 22 章	15.	
8.	集団の指導計画と個別の指導計画・まとめ テキスト第 23 章		
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
大浦賢治編著 (2023)『実践につながる新しい乳児保育—ともに育ち合う保育の原点がここに—』ミネルヴァ 書房 (ISBN:9784623094707) 2640 円 (2023 年度「乳児保育 I」と共通テキストのため新規購入不要)		・ 文部科学省編 幼稚園教育要領解説 (平成 30 年 3 月) フレーベル館 (ISBN9784577814475) 264 円 ・ 厚生労働省編 保育所保育指針解説 (平成 30 年 3 月) フレーベル館 (ISBN9784577814482) 352 円	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
PBL (課題解決型学習)	○ 反転授業	ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	その他：
<b>実務経験</b>			

# 教育相談

講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
講 ・ 1 単位 ・ 8 回

[学修準備時間 30]

教員  
土居 隆

年次・学期 関連資格・必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連

2・3年・後 [幼必][保必] - DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性  
- DP2:知識・技術 ○ DP4:人権・共感

## 授業の目的・内容

### [授業の目的と概要]

教育相談は、子どもが集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。この授業では、子どもの発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、保護者とともに子どもの発達を支えるため、教育相談に必要な基礎的知識（理論や技法を含む）を身に付けることを目的とする。

### [到達目標]

- 1)教育相談の意義や基本的な考え方について説明できる。
- 2)教育相談を進める際に必要な主要なカウンセリングの理論や主要な技法について、その基礎的事項を説明できる。
- 3)教育相談の具体的な進め方や対応の仕方の基本を身に付けるとともに、組織的な取組や連携の必要性を説明できる。
- 4)保育者のメンタルヘルスの大切さを知るとともに、実践できる。

## 履修のルール

### [履修のルール]

### [予習・復習の方法「自主学习ガイド」]

予習：授業計画を参考に教科書の該当箇所の通読・不明な用語や言葉の確認（60分）  
復習：教科書や配布資料の再読・興味を持った事柄について文献やインターネット等で調べる（60分）

### [課題に対するフィードバックの方法]

授業内でフィードバックを行う。また、随時 Classroom を活用して行う。  
[オフィスアワー]:火曜以外の昼休み（研究室）

## 評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	40	筆記試験を行う。
期末レポート	0	
その他	60	各授業の授業内課題及びミニレポートにより評価する。

## 授業計画

1. 教育相談って何するの？	9.
2. 子どもを理解する	10.
3. 保護者への支援	11.
4. カウンセリングマインド	12.
5. 相談にのるための技法①（傾聴・非言語的コミュニケーション）	13.
6. 相談にのるための技法②（言語による応答・行動療法・認知行動療法）	14.
7. 園内の教育相談体制・外部機関との連携	15.
8. 保育者のメンタルヘルス	

### [教科書]

・杉崎雅子「スギ先生と学ぶ教育相談のきほん」 萌文書林 授業内で適宜紹介する。  
¥1,870(税込)  
・授業時に資料、プリントを配布する。

### [参考書]

## アクティブラーニングへの取り組み

<input type="radio"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="radio"/> 反転授業	<input type="radio"/> ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他：

## 実務経験

指導主事として巡回相談、臨床心理士として発達相談を担当

教育実習Ⅱ 講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
実 ・ 2 単位 ・ 回  
[学修準備時間]

教員 年次・学期 関連資格・必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連  
板倉 史郎, 本田 和隆, 他 2 年・前集 [幼必] - DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性  
○ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感

### 授業の目的・内容

<p><b>【授業の目的と概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この実習は、幼稚園教諭 2 種免許を取得するための基礎及び応用的な実習である。実習を通じて、幼稚園教諭として必要な知識と技術を身につけ、教員としての資質を向上させることを目的としている。</li> <li>・教育実習では、幼稚園の教育活動に参加し、幼稚園教諭の業務と役割について実践的に学ぶ参加実習、教育活動にかかわる計画を立案し、部分実習、責任実習に参加する。また、そこでの実習指導者指導のもと、幼稚園教諭に必要な資質、技能を習得する。</li> </ul>	<p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園の機能、社会的役割および幼稚園教諭の業務内容を理解する。</li> <li>・幼稚園教諭の姿から子どもとのかかわり方を理解する</li> <li>・子どもの発達に応じた関わり方を学ぶ</li> <li>・保育計画(保育指導案)の立案および実施できる</li> <li>・幼稚園教諭として必要な資質および知識、技術を身につける</li> <li>・幼児教育に対する考え方を深める</li> </ul>
---	---

### 履修のルール

<p><b>【履修のルール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前指導の出席が 4/5 に満たない者については、本実習への参加を認めない。</li> </ul>	<p><b>【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回提示される課題については、提出期日も含めて必ず行うこと</li> </ul> <p><b>【課題に対するフィードバックの方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習後に個人面談を行い、実習園の評価を開示したうえで、成果と課題について確認する。</li> </ul> <p>[オフィスアワー]:特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。</p>
--	--

### 評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習施設による評価(75%)</li> <li>・実習日誌(25%)</li> </ul>

### 授業計画

1. 実習ハンドブック 参照	9.
2.	10.
3.	11.
4.	12.
5.	13.
6.	14.
7.	15.
8.	

<p><b>【教科書】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小櫃智子ほか『改訂版 幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,650(税込)</li> <li>・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通)¥750</li> </ul>	<p><b>【参考書】</b></p>
---	---------------------

### アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

### 実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

講義要綱  
幼児教育科  
2年次

教育実習指導

講義/演習/実技実習・単位数・回数  
演・1単位・15回

[学修準備時間 15]

教員 板倉 史郎, 本田 和隆	年次・学期 (1年通)・2 年前	関連資格・必修/選択 [幼必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 - DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
--------------------	------------------------	--------------------	---

授業の目的・内容

<b>[授業の目的と概要]</b> 本授業は、教育実習に参加するための事前・事後指導を行うことを目的とする。 講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連づけ、子ども理解と豊かな実践力の基礎を養い、及び幼稚園の子どもを取り巻く環境を理解することを目的としている。幼稚園の現状の理解やそこで求められる保育者としての力量を高めるための講義、演習を行う。	<b>[到達目標]</b> ・幼稚園の教育活動を理解する ・幼稚園の制度的理解を深める ・幼稚園教諭として必要とされる保育の内容を学ぶ ・幼稚園教諭として求められる基礎的な知識・技能を学ぶ ・子どもの発達的基础知識に基づき、保育計画(保育指導案)が作成できる ・実習記録が書けるようになる
---	--

履修のルール

<b>[履修のルール]</b> ・事前指導は 4/5 以上の出席が必須。欠席した場合は次回までに講義配付資料等を受け取りに行くこと(板倉研究室) ・実習手続きがされない、課題未提出の場合、実習を中止することがある ・全 15 回を 2 年間にわたって履修	<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b> ・毎時、提示される課題等は必ず行うこと。 <b>[課題に対するフィードバックの方法]</b> ・提出課題については評価を行い、必要に応じて修正、加筆することで改善を図らせる。 [オフィスアワー]:特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。
--	---

評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に取り組む姿勢(受講態度)(30%)</li> <li>・授業における参加状況(15%)</li> <li>・実習課題提出、到達状況(30%)</li> <li>・実習後の振り返り、まとめ、報告(25%)</li> </ul>

授業計画

1. オリエンテーション(教育実習とは)	9. 参加・観察実習事前指導②～実習での自己課題の確認～
2. 幼稚園の役割と機能、幼稚園教諭の職務の理解	10. 実習振り返りによる自己課題の明確化①
3. 幼稚園の一日の流れ	11. 実習記録の改善点～本実習に向けて～
4. 保育技術の習得	12. 教育実習の目標と課題(カード作成)
5. 教育実習の目標と課題(カード作成)	13. 教育実習事前指導①～本実習の理解～
6. 実習記録の構成	14. 教育実習事前指導②～自己課題の確認～
7. 実習記録の記述方法	15. 実習振り返りによる自己課題の明確化② まとめ
8. 参加・観察実習事前指導①～始めての実習に参加すること～	

<b>[教科書]</b> ・小櫃智子ほか『改訂版 幼稚園・保育所・認定こども園実習 授業内で紹介するパーフェクトガイド』わかば社 ¥1,650(税込) ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通)750円	<b>[参考書]</b>
--	--------------

アクティブラーニングへの取り組み

<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	その他:

実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

幼児教育科 2年次 講義要綱

保育・教職実践演習 講義/演習/実技実習・単位数・回数  
演・2単位・15回  
[学修準備時間 60]

教員 板倉 史郎 年次・学期 2・3年・後 関連資格・必修/選択 [幼必][保必] ディプロマポリシー(DP)との関連  
- DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性  
- DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感

**授業の目的・内容**

**[授業の目的と概要]** 保育・教職に関する科目の学習及び保育実習、教育実習、学校外の活動などを通して、保育・教職に関する基礎的知識と技能が獲得できたかを確認し、保育・教職についての理解と職業意識を深める。

**[到達目標]**  
 ・保育者、教育者として使命感、情熱を持つ姿勢が身についている。  
 ・保育施設で働く上での社会性や対人関係能力について理解し、実践できる。  
 ・子ども理解の意味を認識した上で、その取組方法について理解できている。

**履修のルール**

**[履修のルール]**

**[予習・復習の方法「自主学習ガイド」]**  
 ・配布する資料等を整理し、活用する。  
 ・授業時に予習、復習について説明する。

**[課題に対するフィードバックの方法]**  
 ・講義で課すミニレポートに関しては、次回の講義で講評を行い、返却する。  
 [オフィスアワー]:特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。

**評価基準・評価方法**

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	授業に取り組む姿勢(40%)、各講義で課すミニレポート(40%)、最終レポート(20%)により総合的に評価する。

**授業計画**

- |   |  |
|---|--|
| 1. 科目「教職実践演習」が設けられた趣旨及び授業の目的と方法についてオリエンテーションを行う。  | 9. 実習において遭遇した場面において、どのような対応が必要であったか検討する。   |
| 2. 学校の種類、教員の研修、サービスなど教員の使命感、責任感、教育的愛情に関する事項について教員としての職務を理解しているか。教職論の内容が定着しているかを確認の講義を行う。  | 10. 子どもたちが置かれている現状について、いくつかの視点から検討し、深く学ぶ。  |
| 3. 教員として必要な社会性や対人関係能力に関する事項について、教員のサービスについて多様な事例を取り上げ演習方式で学生参加の授業を行う。世代間、男女間、幼児・教員間、教員間の理解を深めるにはなにが必要か。行動特性の違いをどう把握するかについて理解を深める。 | 11. 保育施設や保育者が置かれている現状を確認し、保育者のやりがいを確認する。   |
| 4. 現実の園や学校で生じている課題についてチームとして教員の協力・協働を深めるにはどのような態勢が必要か具体的な課題について議論し総括する訓練を行う。  | 12. 保・幼・小連携の必要性と取りまわされている事例、求められる実務について学ぶ。 |
| 5. 社会性や対人関係能力を深めるため、自己紹介、父母への園の紹介(自己表現)、園児の父母の前で伝えたいことを話すために準備しておくことはなにかなどの役割演技(ロールプレイ)を行う。                                       | 13. 保育者に求められる専門性について、子ども、保護者、社会をキーワードに考える。 |
| 6. 幼児、児童、生徒にはどのような発達上の特徴があるか。コミュニケーションをする上での留意点について幼児、児童、生徒理解や学級経営の視点から問答方式により理解を深める。   | 14. 保育者に求められる倫理について、普遍的な観点と現代的な観点から確認する。   |
| 7. 教育実習参加者の報告、実習中で、失敗したこと、感激したことなど、強く意識したこと等を各自3分程度にまとめて発表する。2~6回までの内容再確認の小テストを行う。  | 15. 保護者対応の考え方について確認するとともに、基本的な姿勢について学ぶ。    |
| 8. 実習等を振り返り、身につけたい自分の課題を明らかにし、そのための方策を検討する。   |  |

**[教科書]** 授業時に配布する。 **[参考書]**

**アクティブラーニングへの取り組み**

PBL(課題解決型学習)	反転授業	○ ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

**実務経験**

学校現場において教育活動を行う中で、実践を通して様々な課題について取り組んできた。

講義要綱  
幼児教育科  
2年次

# 社会的養護Ⅱ

講義/演習/実技実習・単位数・回数  
演・1単位・15回

[学修準備時間 30]

教員  
本田 和隆

年次・学期 関連資格・必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連

2・3年・前

[保必]

- DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性  
- DP2:知識・技術 ○ DP4:人権・共感

## 授業の目的・内容

### 【授業の目的と概要】

【授業の目的】  
社会的養護Ⅰの講義で学んだ理論を踏まえ、家庭的養護・施設養護の具体的な実践内容と支援方法について理解を深める。5月には福祉施設実習を控えているので、実際の現場に立ってより学べるような準備をしておきたい。

【授業の概要】  
社会的養護に係る児童を対象とした施設養護及び家庭的養護の実際を学ぶ。具体的には、児童の日常生活支援をはじめ、発達、教育、心理、治療、自立および家庭への支援方法と、そのための施設内外における連携方法について理解を深める。実際の事例やグループワークなどを通じて、必要とされる能力や技術の獲得、向上を目指すとともに、現場実践への具体的なイメージを持てるようにする。合わせて、社会的養護分野における保育士の専門性が果たす役割について考察する。

### 【到達目標】

・児童福祉施設(乳児院・児童養護施設・障害児施設・児童心理治療施設・児童自立支援施設)および里親家庭における養護の実際を、具体的にイメージすることが出来る。  
・現場における課題遂行や問題解決のためのチーム・ワークの重要性と必要性を認識し、多様なメンバー構成においても、有意義な議論や協働作業を行うことが出来る。

## 履修のルール

### 【履修のルール】

### 【予習・復習の方法「自主学習ガイド」】

社会的養護Ⅱで使用した教科書を中心に予習・復習をすること。範囲については、授業時に確認する。また、授業内容に関わるニュースに関心をもっておくこと。

### 【課題に対するフィードバックの方法】

都度、授業時に確認する。

【オフィスアワー】:授業終了後、可能な限り対応する。

## 評価基準・評価方法

種類 割合(100%) 基準・方法

期末試験

0

期末レポート

0

その他

100

・本試験の評価方法は、①授業内のミニテスト(60%)、②授業に取り組む姿勢(40%)の合計点により総合評価する

## 授業計画

1. 社会的養護における子どもの理解	9.
2. 施設養護の生活特性及び実際	10.
3. 家庭養護の生活特性及び実際	11.
4. 社会的養護における支援の計画と記録及び評価	12.
5. 社会的養護に関わる専門技術	13.
6. 養護内容の理解と施設実習の振り返り①	14.
7. 養護内容の理解と施設実習の振り返り②	15.
8. 社会的養護の課題と展望	

### 【教科書】

芝野松次郎・新川泰弘・山川宏和編(2021)『社会的養護入門』 都度、紹介する。  
ミネルヴァ書房。(1回生で購入済)

### 【参考書】

## アクティブラーニングへの取り組み

	PBL(課題解決型学習)		反転授業	○	ディスカッション、ディバート	○	グループワーク
○	学生によるプレゼンテーション		実習、フィールドワーク		双方向アンケート		その他:

## 実務経験

--	--

子ども家庭支援の心理学		講義/演習/実技実習・単位数・回数 講・1単位・8回 [学修準備時間 30]	
教員 土居 隆	年次・学期 2・3年・後	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>【授業の目的と概要】</b>		<b>【到達目標】</b>	
<p>子どもの発達支援や子育て支援においては、生涯発達の観点から、初期経験の重要性や発達課題、親子関係・家族関係について理解することが求められる。この授業では、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得し、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題、子どもの精神保健とその課題について基本的な理解を得ることを目的とする。</p>		<p>1)生涯発達に関する心理学の基礎的事項や初期経験の重要性、発達課題について説明できる。 2)家族・家庭の意義や機能、発達の観点からの親子関係・家族関係について説明できる 3)子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について説明できる 4)子どもの精神保健とその課題について説明できる。</p>	
<b>履修のルール</b>			
<b>【履修のルール】</b>		<b>【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】</b>	
<p>「教育心理学」「幼児と人間関係」の内容は学習済みであることを前提に授業を行う。</p>		<p>予習：授業計画を参考に教科書の該当箇所の通読・不明な用語や言葉の確認（60分） 復習：教科書や配布資料の再読・興味を持った事柄について文献やインターネット等で調べる（60分）</p>	
		<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>	
		<p>授業内でフィードバックを行う。また、随時 Classroom を活用して行う。 【オフィスアワー】:火曜以外の昼休み（研究室）</p>	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	40	筆記試験を行う。	
期末レポート	0		
その他	60	各授業の授業内課題及びミニレポートにより評価する。	
<b>授業計画</b>			
1.	生涯発達とは何か	9.	
2.	乳幼児期から学童前期にかけての発達	10.	
3.	学童後期から青年期にかけての発達	11.	
4.	成人期・老年期における発達	12.	
5.	家族・家庭の意義と機能、親子・家族関係の理解	13.	
6.	子育ての経験と親としての育ち・多様な家庭背景とその理解	14.	
7.	特別な配慮を必要とする家庭	15.	
8.	発達支援の必要な子どもがいる家庭・子どもの精神保健		
<b>【教科書】</b>		<b>【参考書】</b>	
<p>・青木紀久代編「【シリーズ知のゆりかご】子ども家庭支援の心理学」みらい ¥2,310(税込) ・授業時に資料、プリントを配布する。</p>			
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
○ PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他：
<b>実務経験</b>			
指導主事として巡回相談、臨床心理士として発達相談を担当			

# 子どもの食と栄養

講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
演 ・ 2 単位 ・ 23 回

[学修準備時間 44]

教員  
人見 玲子

年次・学期 関連資格・必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連

2 年・前(理 [保必] - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性  
論)後(実習) © DP2: 知識・技術 - DP4:人権・共感

## 授業の目的・内容

### [授業の目的と概要]

栄養の基礎を理解し、「健康な食」とは何か、考える。  
子どもの発達に合わせた食の支援を学び、調理実習で確認する。  
食育について学ぶ。

### [到達目標]

子どもの発達に応じた食の支援が行える。  
食と栄養の知識を自身の健康管理に応用できる。  
食育の重要性を理解して、子どもや保護者への支援が行える。

## 履修のルール

### [履修のルール]

調理実習時はエプロン・ハンドタオルを持参すること

### [予習・復習の方法「自主学习ガイド」]

授業中配布する講義予定・演習ノートを参考に、あらかじめ教科書を読んでおく。(20分)  
調理実習後は演習レポートを各自まとめておく。(40分)

### [課題に対するフィードバックの方法]

演習ノート・演習レポートで理解度をチェックし、不足部分を授業で再確認する。  
[オフィスアワー]:

## 評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	50	年度末に筆記試験を行う。
期末レポート	0	
その他	50	授業時間内の小レポート・演習レポート 40 演習に取り組む姿勢 10

## 授業計画

- |                      |                           |
|----------------------|---------------------------|
| 1. 子どもの食の現状と課題       | 9. 食品の基礎知識と食品衛生           |
| 2. 栄養素の働きと代謝         | 10. 授乳・離乳の支援ー摂食機能と食べさせ方   |
| 3. 妊娠期の栄養と授乳の支援      | 11. 調理実習(1)調乳             |
| 4. 離乳の支援             | 12. 調理実習(2)生後5~6か月頃の離乳食   |
| 5. 幼児期の食と栄養          | 13. 調理実習(3)生後7~8か月頃の離乳食   |
| 6. 学童期・思春期の食と栄養      | 14. 調理実習(4)生後9~11か月頃の離乳食  |
| 7. 食育                | 15. 調理実習(5)生後12~18か月頃の離乳食 |
| 8. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 |                           |

### [教科書]

小川雄二編著『子どもの食と栄養演習 第6版』  
建帛社  
¥3,080(税込)

### [参考書]

## アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	○ その他:

## 実務経験

--

乳児保育Ⅱ		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・1単位・8回 [学修準備時間 30]	
教員 今井 美樹	年次・学期 2・3年・前	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>【授業の目的と概要】</b>		<b>【到達目標】</b>	
<p>・乳児保育Ⅰ（講義）で学んだ内容を踏まえ、0・1・2歳児の心身の発達過程や特性を確認し、保育における保育者の援助やかかわりの基本について理解できるようにする。</p> <p>また0歳児、1歳児以上3歳未満児の基本的な生活習慣（食事・排泄・睡眠・着脱・清潔）と安全、遊びについての保育の方法、環境の構成や配慮の実際について具体的に学ぶ。</p> <p>さらに子どもの気持ちを理解しようとする姿勢、一人一人の子どもに寄り添う保育や計画の作成などについて事例検討やグループワークを取り入れた授業を展開する。</p>		<p>1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。</p> <p>2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法、および環境について、具体的に理解する。</p> <p>3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。</p> <p>4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における指導計画の作成について、具体的に理解する。</p>	
<b>履修のルール</b>			
<b>【履修のルール】</b>		<b>【予習・復習の方法「自主学習ガイド」】</b>	
乳児保育Ⅰの内容は学習済であることを前提に行う。		<p>事前学習：シラバスを確認し、該当箇所のテキストを読む。(60分)</p> <p>事後学習：当日の授業内容を振り返り、内容を再確認する。関心を持った事項については深く調べる。(60分)</p>	
<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>			
<p>授業時全体アナウンス Google Classroom コメント [オフィスアワー]:後日公表 メール及び Google Classroomも常時活用</p>			
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	<p>・到達度テスト（50%）基本的内容が理解できているかを問う到達度確認テストを行う。</p> <p>・課題（乳児向け手作りおもちゃ製作提出）(30%) 手作りおもちゃの製作 保育実習で使えるものとして製作できているか。</p> <p>・授業参加、発表等主体的取組（20%）グループで実践発表等を行う中で、主体的取組ができていないか。</p>	
<b>授業計画</b>			
1.	オリエンテーション 養護と教育が一体となって行われる乳児保育の意義について	9.	
2.	0～3歳までの発育・発達 0～3歳の各年齢の発達について	10.	
3.	食事の援助と環境 調乳や冷凍母乳の解凍、授乳、離乳食などの具体的な援助について	11.	
4.	排泄の援助と環境 具体的な援助について（到達度テスト）	12.	
5.	睡眠・休息の援助と環境 子どもの睡眠や休息時の保育者の援助や保育環境などについて	13.	
6.	着脱に関する援助と環境 子どもの衣服や衣服以外（靴下や帽子など）の着脱への保育者の援助について	14.	
7.	清潔に関する援助と環境 沐浴や清拭、手や顔を拭く洗う、鼻をかむ、うがい、歯磨きなどの援助について	15.	
8.	乳児保育における健康と安全 乳児保育での安全対策や自己防止、アレルギーへの対応、園外での遊びの対応、虐待、防災対策の実際について (到達度テスト)		
<b>【教科書】</b>		<b>【参考書】</b>	
善本真弓編著・小山朝子・亀崎美沙子「演習で学ぶ 乳児保育」 わかば社¥1,760		<p>・厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年3月）フレーベル館¥352</p> <p>・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）フレーベル館¥385</p>	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
PBL(課題解決型学習)	○ 反転授業	ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他：
<b>実務経験</b>			
幼稚園教諭・保育園施設長 保育者等キャリアアップ研修講師（乳児保育）			

講義要綱  
2年次  
幼児教育科

子育て支援		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・1単位・8回 [学修準備時間 30]	
教員 鯉坂 はるよ	年次・学期 2・3年・後	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 - DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
保育士による子育て支援の特性や実践的な事項（支援の具体的な内容・方法・技術、事例検討の実際など）について学び、保育の専門性を活かした子育て支援に関する実践力を養うことを目的とする。		1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。 2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>	
履修上の注意については、最初の授業時に指示する。		次回の講義までに、講義内容に対応する教科書の章を読み予習しておくこと。復習しておくべき課題については授業中に指示する。全30時間。	
		<b>[課題に対するフィードバックの方法]</b>	
		レポート、課題、確認テスト等を返却する際に解説を行う。 [オフィスアワー]:火・水・木・金の昼休み	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	授業の内容から課題を設定し、レポートを課す。到達目標の観点から評価を行う。授業に取り組む姿勢、ミニレポート、確認テスト等により総合的に評価する。	
<b>授業計画</b>			
1.	子育て支援とは	9.	
2.	子育て支援の基本的価値・倫理	10.	
3.	子育て支援の基本的姿勢・技術	11.	
4.	園内・園外との連携と社会資源	12.	
5.	記録・評価・研修	13.	
6.	日常会話・文書を活用した子育て支援	14.	
7.	行事・環境を活用した子育て支援	15.	
8.	地域子育て支援拠点・入所施設・通所施設における子育て支援、まとめ		
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
二宮祐子『子育て支援 15のストーリーで学ぶワークブック』 萌文書林 ¥1,980(税込)			
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
○	PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート
	学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート
○			グループワーク
			その他:
<b>実務経験</b>			

保育実習 I (福祉施設)		講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数 実・2単位・回 [学修準備時間]	
教員 板倉 史郎, 本田 和隆, 他	年次・学期 2年・前集	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 - DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
<p>本実習は、保育士資格を取得するための実習である。実習を通じて保育士として必要な知識と技術を見につけ、保育士として必要な資質を向上させることを目的としている。</p> <p>保育実習 I (福祉施設)では、福祉施設の活動に参加し、実習指導者の指導のもと、保育士の業務と役割について実践的に学ぶ。また、活動に関わる計画、子どもや利用者の発達に応じた関わり方を学ぶ。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童福祉施設の機能、社会的役割および保育士の業務について理解する</li> <li>・ 保育士の姿から利用者との関わり方の実際を学ぶ</li> <li>・ 保育計画(自立支援計画)の立案を学ぶ</li> <li>・ 保育士として必要な資質および知識・技術を身につける</li> <li>・ 保育に対する考え方を深める</li> </ul>	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学習ガイド」]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育実習指導 I (福祉施設) への事前指導の出席が 4/5 に満たない者については、本実習への参加を認めない。</li> <li>・ 宿泊が伴う場合、宿泊費などは自己負担となる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習に必要な手続きや書類は期限内に必ず実施、提出すること。</li> </ul>	
		<b>[課題に対するフィードバックの方法]</b>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習後に個人面談を行い、実習園の評価を開示したうえで、成果と課題について確認する。</li> </ul>	
		[オフィスアワー]:特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習施設による評価(75%)</li> <li>・ 実習日誌(25%)</li> </ul>	
<b>授業計画</b>			
1.	実習ハンドブック 参照	9.	
2.		10.	
3.		11.	
4.		12.	
5.		13.	
6.		14.	
7.		15.	
8.			
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通)750円</li> <li>・ 小櫃智子ほか『改訂版 幼稚園・保育所実習 パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,650(税込)</li> </ul>			
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:
<b>実務経験</b>			
小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。			

保育実習指導 I (福祉施設)

講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
演 ・ 1 単位 ・ 15 回

[学修準備時間 15]

教員 板倉 史郎, 本田 和隆	年次・学期 (1 年後) ・ 2 年前	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 - DP2: 知識・技術 - DP4:人権・共感
--------------------	------------------------	--------------------	--

授業の目的・内容

<b>[授業の目的と概要]</b> 本授業は、保育実習 I (福祉施設)の参加するための事前・事後指導を行うことを目的とする。 講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連づけ、子ども理解と豊かな実践力の基礎を養うこと、及び福祉施設を取り巻く環境を理解することを目的としている。福祉施設の現状の理解やそこで求められる保育者としての力量を高めるための講義、演習を行う。	<b>[到達目標]</b> ・実習の目的を理解し、実習課題を明確にする ・福祉施設の制度的理解を深める ・福祉施設を利用する利用者と家族の生活を理解し、必要とされる支援の概要を学ぶ ・保育士として求められる基礎的な知識、技能の活用方法を学ぶ ・利用者の発達の基礎知識に基づき、レクリエーション案が作成できる ・実習記録が書ける
--	---

履修のルール

<b>[履修のルール]</b> ・事前指導は 4/5 以上の出席が必須。欠席した場合は次回までに講義配付資料等を受け取りに行くこと (板倉研究室) ・実習手続きがされない、課題未提出の場合、実習を中止することがある	<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b> ・毎時、提示される課題等は必ず行うこと。 <b>[課題に対するフィードバックの方法]</b> ・提出課題については評価を行い、必要に応じて修正、加筆することで改善を図らせる。 [オフィスアワー]:特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。
---	---

評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に取り組む姿勢 (受講態度) (30%)</li> <li>・授業における参加状況(15%)</li> <li>・実習課題提出、到達状況(35%)</li> <li>・実習後の振り返り、まとめ、報告(20%)</li> </ul>

授業計画

1. オリエンテーション (福祉施設実習とは)	9. 実習先の制度的理解
2. 福祉施設実習の必要性	10. 福祉施設での保育士に必要とされる専門性
3. 実習目的を基にした実習生カードの指導、記入	11. 実習に関わる演習①レクリエーションの指導について
4. 実習目的に基づく自己課題の明確化	12. 実習に関わる演習②日常生活での関わりについて
5. ソーシャルスキルに関わる演習	13. 実習直前指導
6. 福祉施設実習記録の書き方①目標の立て方、記録の書き方を中心に	14. 実習の振り返りによる自己課題の明確化
7. 福祉施設実習記録の書き方②考察の書き方を中心に	15. 実習報告会
8. 保育計画指導案の立て方	

<b>[教科書]</b> ・小櫃智子ほか『改訂版 幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,650(税込) ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通)750 円	<b>[参考書]</b>
--	--------------

アクティブラーニングへの取り組み

○ PBL(課題解決型学習)	○ 反転授業	○ ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
○ 学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	○ その他:

実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

幼児教育科  
2 年次  
講義要綱

保育実習Ⅱ		講義/演習/実技実習・単位数・回数 実・2単位・回 [学修準備時間]	
教員 板倉 史郎, 本田 和隆, 他	年次・学期 2年・前集	関連資格・必修/選択 [保選]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 - DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b> 本実習は、保育実習Ⅰ（保育所・福祉施設）の内容をふまえた応用実習である。乳児、障害児も対象とした、実習経験の集大成となる責任実習である。実習を通じ、保育士として必要な資質、技能を習得するだけでなく、家族や地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解、判断力を養い、子育てを支援するために必要な能力を養うことを目的としている。		<b>[到達目標]</b> ・保育士として必要な資質、技能を習得する ・子どもの発達に応じた教材選択ができる ・教材研究の姿勢を身につける ・保育計画(保育指導案)を立案、実施し、子どもの発達に応じた関わりだけでなく、子ども一人一人への配慮を考えることができる ・子ども家庭福祉ニーズを知り、子育て支援の実際を理解する ・子どもの最善の利益についての考察を深め、保育観を養う	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b> ・保育実習指導Ⅱへの事前指導の出席が4/5に満たない者については、本実習への参加を認めない。		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b> ・実習に必要な手続きや書類は期限内に必ず実施、提出すること。 <b>[課題に対するフィードバックの方法]</b> ・実習後に個人面談を行い、実習園の評価を開示したうえで、成果と課題について確認する。 [オフィスアワー]:特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	・実習評価(75%) ・実習記録の内容(25%)	
<b>授業計画</b>			
1. 実習ハンドブックほか 参照		9.	
2.		10.	
3.		11.	
4.		12.	
5.		13.	
6.		14.	
7.		15.	
8.			
<b>[教科書]</b> ・小櫃智子ほか『改訂版 幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,650(税込) ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通)750円		<b>[参考書]</b>	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
PBL(課題解決型学習)		反転授業	ディスカッション、ディベート
学生によるプレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	双方向アンケート
			グループワーク
			その他:
<b>実務経験</b>			
小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。			

講義要綱  
幼児教育科  
2年次

# 保育実習指導Ⅱ

講義/演習/実技実習・単位数・回数  
演・1単位・15回

[学修準備時間 15]

教員 板倉 史郎, 本田 和隆	年次・学期 2年・前	関連資格・必修/選択 [保選]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 - DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
--------------------	---------------	--------------------	---

## 授業の目的・内容

<b>【授業の目的と概要】</b> <b>【授業の目的】</b> 本授業は、保育実習Ⅱに参加するための事前、事後指導を行うことを目的とする。 <b>【授業の概要】</b> 講義、演習で学んだ知識や技能を基礎として、これらを総合的に関連付け、子ども理解と豊かな実践力の応用を養うこと、子どもを取り巻く環境を子育て支援、地域支援の立場から観察し、保育実践を行う。	<b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達や成長を理解した実習記録が書ける。</li> <li>・子どもの発達を見据えた指導計画案が立案できる。</li> <li>・実習先の制度的理解、施設の役割が理解できる。</li> <li>・子育て支援、地域支援の目的、目標が理解できる。</li> <li>・保育者として必要な力を身に付けている。</li> </ul>
---	--

## 履修のルール

<b>【履修のルール】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前指導は 4/5 以上の出席が必須。欠席した場合は次回までに講義配付資料等を受け取りに行くこと（板倉研究室）。</li> <li>・実習手続きがされない、課題未提出の場合、実習を中止することがある。</li> </ul>	<b>【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時、提示される課題等は必ず行うこと。</li> </ul> <b>【課題に対するフィードバックの方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提出課題については評価を行い、必要に応じて修正、加筆することで改善を図らせる。</li> <li>【オフィスアワー】:特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。</li> </ul>
--	--

## 評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に取り組む姿勢（受講態度）(30%)</li> <li>・授業における参加状況(15%)</li> <li>・実習課題提出、到達状況(35%)</li> <li>・実習後の振り返り、まとめ、報告(20%)</li> </ul>

## 授業計画

1. オリエンテーション（保育実習Ⅱの位置づけと取組）	9. 保育計画案の改善ポイント
2. 実習目的に合わせた自己課題の明確化	10. 子育て支援と保育環境
3. 実習手続きと実習生カード作成	11. 保育者に必要とされる専門性
4. 保育者から見た実習日誌の書き方	12. 保育所の役割と地域支援
5. 実習生に求められる力	13. 実習直前指導
6. 多角的に見る実習とその記録の書き方	14. 実習の振り返りによる自己課題の明確化
7. 応用的な計画(保育案)の立案	15. 実習報告会 まとめ
8. 保育計画案の実施	

<b>【教科書】</b> ・小櫃智子ほか『改訂版 幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,650(税込) ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通)750円	<b>【参考書】</b>
---	--------------

## アクティブラーニングへの取り組み

○ PBL(課題解決型学習)	○ 反転授業	○ ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
○ 学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	○ その他:

## 実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

幼児教育科 2年次 講義要綱

保育実習Ⅲ		講義/演習/実技実習・単位数・回数 実・2単位・回 [学修準備時間]	
教員 板倉 史郎, 本田 和隆, 他	年次・学期 2年・前集	関連資格・必修/選択 [保選]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 - DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
<p>本実習は、保育実習Ⅰ（保育所）の内容をふまえた応用実習である。実習経験の集大成となる指導実習である。実習を通じ、福祉施設職員に必要な資質、技能を習得するだけでなく、家族や地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解、判断力を養い、子育てを支援するために必要な能力を養うことを目的としている。</p>		<p>・保育士として必要な資質、技能を習得する。 ・子どもの発達に応じた教材選択ができる。 ・教材研究の姿勢を身につける。 ・自立支援計画を立案、実施し、子どもの発達に応じた関わりだけでなく、子ども一人一人への配慮を考えることができる。 ・子ども家庭福祉ニーズを知り、子育てを支援の実際を理解する。 ・子どもの最善の利益についての考察を深め、保育観を養う。</p>	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>	
<p>・保育実習指導Ⅲの出席が4/5に満たない者は実習への参加を認めない。 ・課題は期日厳守で必ず行うこと。 ・児童館実習を行うものは「児童館の機能と運営」「児童館の活動内容と指導法」を同時に履修すること。</p>		<p>・実習に必要な手続きや書類は期限内に必ず実施、提出すること。 <b>[課題に対するフィードバックの方法]</b> ・実習後に個人面談を行い、実習園の評価を開示したうえで、成果と課題について確認する。 [オフィスアワー]:特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。</p>	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習施設による評価(75%)</li> <li>・実習日誌(25%)</li> </ul>	
<b>授業計画</b>			
1.	実習ハンドブック 参照	9.	
2.		10.	
3.		11.	
4.		12.	
5.		13.	
6.		14.	
7.		15.	
8.			
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
<p>・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通)750円</p>			
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:
<b>実務経験</b>			
<p>小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。</p>			

# 保育実習指導Ⅲ

講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
演 ・ 1 単位 ・ 15 回

[学修準備時間 15]

教員	板倉 史郎, 本田 和隆	年次・学期	2 年・前	関連資格・必修/選択	ディプロマポリシー(DP)との関連
				[保選]	○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 - DP2: 知識・技術 - DP4:人権・共感

## 授業の目的・内容

<b>【授業の目的と概要】</b> <b>【授業の目的】</b> 本授業は、保育実習Ⅲに参加するための事前、事後指導を行うことを目的とする。 <b>【授業の概要】</b> 講義、演習で学んだ知識や技能を基礎として、これらを総合的に関連付け、子どもや障害者理解と豊かな実践力の応用を養うこと、および学童保育、障害者施設などを利用する利用者を取り巻く環境を理解することを目的としている。保育実習指導Ⅲでは、実施される保育実習Ⅲの実習のための事前・事後 指導を行う。児童館や障害者施設での現状を理解し、そこで求められる保育の力量を高めるための講義・演習を行う。	<b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育実習Ⅲの内容に即した事前準備ができる。</li> <li>・ 実習先の制度的理解、施設の役割が理解できる。</li> <li>・ 学童保育や障害児・者施設の制度的理解を深める。</li> <li>・ 学童保育、障害児・者施設を利用する利用者の背景も理解し、必要とされる支援の方法を模索できる。</li> <li>・ 学んだ知識に基づき、保育計画やレクリエーション案が立案できる。</li> </ul>
---	--

## 履修のルール

<b>【履修のルール】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童館実習者は「児童館の機能と運営」「児童館の活動内容と指導法」を履修すること。</li> <li>・ 本授業は、保育実習Ⅲに参加するための事前、事後指導を行う。事前指導は 4/5 以上の出席で保育実習Ⅲに参加できる。</li> </ul>	<b>【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎時、提示される課題等は必ず行うこと。</li> </ul> <b>【課題に対するフィードバックの方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 提出課題については評価を行い、必要に応じて修正、加筆することで改善を図らせる。</li> <li>【オフィスアワー】:特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。</li> </ul>
--	--

## 評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業に取り組む姿勢(受講態度)(30%)</li> <li>・ 授業における参加状況(15%)</li> <li>・ 実習課題提出、到達状況(35%)</li> <li>・ 実習後の振り返り、まとめ、報告(20%)</li> </ul>

## 授業計画

1. オリエンテーション(保育実習Ⅲの位置づけと取組)	9. 実習先の制度的理解
2. 実習目的に合わせた自己課題の明確化	10. 保育者に必要とされる専門性
3. 実習手続きと実習生カード作成	11. 実習生として福祉施設で学ぶこと
4. ソーシャルスキルに関わる演習①グループディスカッション	12. 施設の役割と地域支援
5. ソーシャルスキルに関わる演習②実習に必要な力	13. 実習直前指導
6. 実習日誌(記録)の書き方	14. 実習の振り返りによる自己課題の明確化
7. 実習日誌(記録)に必要なことを書くために	15. 実習報告会 まとめ
8. 応用的な計画(レクリエーション案や保育案)の立案	

<b>【教科書】</b> ・ 本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通)750 円	<b>【参考書】</b>
--	--------------

## アクティブラーニングへの取り組み

○ PBL(課題解決型学習)	○ 反転授業	○ ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
○ 学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	○ その他:

## 実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

幼児教育科 2年次 講義要綱

器楽活用法 I		講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数 演 ・ 1 単位 ・ 8 回 [学修準備時間 30]	
教員 寄 ゆかり	年次・学期 2 年 ・ 後	関連資格 ・ 必修/選択 [保選]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2: 知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
<p>・保育に必要な音楽技術と知識、ピアノ等鍵盤楽器他、打楽器などの演奏法を習得する。幼児教育では、合奏や音楽あそびを多く取り入れるため、様々な楽器の演奏法を習得し、それぞれの楽器のリズム・配置・アレンジなどを工夫でき、幼児に指導できるようになることを目指す。</p>		<p>・幼児保育における合奏・音楽遊びの指導ができる。指導計画が立案できる。 ・ピアノ習熟度に合わせた形で、弾き歌いコード伴奏のアレンジができる。</p>	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>	
<p>・「保育内容の指導法（音楽表現 I ・ II）」受講済みであることが望ましい。 ・楽器演奏の妨げとならないよう、爪は短く切っておく。</p>		<p>・合奏曲などは、事前に自主練習をして授業に臨むこと。 ・授業時に提示された課題は、必ず復習しておくこと。</p>	
<b>課題に対するフィードバックの方法</b>			
<p>課題レポート等については、個別指導を行う。また GoogleClassroom にて回答を行う。 [オフィスアワー]:随時</p>			
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	60	実技試験（ソロ 30 点、グループ合奏 30 点・・・授業時の取り組み状況も含む）	
期末レポート	0		
その他	40	ミニチェック、課題レポート等の取り組み状況、グループ活動への参加状況等総合的に判断する。	
<b>授業計画</b>			
1.	幼児曲の合唱①（春）/歌唱指導の指導計画案	9.	
2.	幼児曲の合唱②（夏）/音楽遊びの指導計画案	10.	
3.	一段譜によるコード伴奏/音楽指導計画案の実施	11.	
4.	コード伴奏の変奏	12.	
5.	遊びの中の音楽①（楽器を使用しない）	13.	
6.	遊びの中の音楽②（ピアノを使用しない）	14.	
7.	ピアノ弾き歌い、ヘッドアレンジによる合奏作成	15.	
8.	ピアノ弾き歌い、合奏曲練習		
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
<p>プリント等配付（貼付できるノートは各自で準備、毎回持参すること。）</p>			
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
PBL(課題解決型学習)	○ 反転授業	ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他：
<b>実務経験</b>			
<p>音楽教室においては、3 歳児から 70 代までの幅広い層にピアノ、エレクトーンでの鍵盤指導及び管楽器、打楽器指導を中心としたアンサンブル教育も行う。また現役保育者に対する保育内容に関する実技講習などの研修を多く行っている。</p>			

こども音楽療育演習		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・1単位・8回 [学修準備時間 30]					
教員 寄 ゆかり	年次・学期 2年・集	関連資格・必修/選択 [保選]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感				
<b>授業の目的・内容</b>							
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>					
<p>「こども音楽療育概論」で学んだ知識・身に付けた技術を基礎として、音楽療育の実践を行い、必要な技法を習得する。また、様々な対象者に合わせた音楽プログラムを作成し実践できることを目標とする。音楽療育の実習場面を想定し、その手順を理解し、援助者としての効果的なかわり方、音楽による具体的な援助方法を習得する。</p> <p>ピアノ、打楽器、管楽器をはじめとして、様々な楽器の演奏法を取得し音楽療育に活用し、手遊びや音楽による身体遊び、歌唱をプログラムに取り入れ実践できることを目指す。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽療育に必要な演奏技術を身につけている。</li> <li>・場面に応じた楽器の選択、選曲ができる。</li> <li>・支援プログラムの立案ができる。</li> </ul>					
<b>履修のルール</b>							
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>					
<p>・本科目受講にあたっては、こども音楽療育概論の単位を習得済みであること。もしくは受講中であること。</p>		<p>・授業時には、演奏や教材研究などの課題を提示する。必ず行って、次の授業に臨むこと。</p> <p>・グループワークも多いため、各人が提示された課題は必ず行っておくこと。</p>					
<b>評価基準・評価方法</b>							
<b>種類</b>	<b>割合(100%)</b>	<b>基準・方法</b>					
期末試験	60	グループによる演奏発表 (30) 及びプログラム案の作成 (30)					
期末レポート	0						
その他	40	チームとしてのグループワークへの取り組み状況及び授業時に提示する課題の提出状況と達成度					
<b>授業計画</b>							
1. 音楽療育での楽器の活用法①-小物楽器を中心に	9.						
2. 音楽療育での楽器の活用法②-音楽療法用楽器やラテン楽器	10.						
3. 手遊び・歌遊びを使用した発達援助の方法と実践	11.						
4. 音楽身体遊びを使用した発達援助の方法と実践	12.						
5. 発達援助をふまえた、音楽プログラムの作成方法	13.						
6. 歌唱を使用した発達援助の方法と実践、プログラムを見据えて	14.						
7. プログラム作成～療育で子どもとともにアンサンブルする～	15.						
8. プログラムの改善を演奏に活かすために							
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>					
<p>不要（授業時に資料配布） ※ファイルや楽譜の貼れるスケッチブックなどを持参すること。</p>							
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>							
	PBL(課題解決型学習)	○	反転授業		ディスカッション、ディベート	○	グループワーク
○	学生によるプレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		双方向アンケート		その他:
<b>実務経験</b>							

こども音楽療育実習 講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
実・1単位・15回  
[学修準備時間 15]

教員	年次・学期	関連資格・必修/選択	ディプロマポリシー(DP)との関連
大浦 知加	2年・集	[保選]	○ DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感

**授業の目的・内容**

<p><b>[授業の目的と概要]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「こども音楽療育概論」で学んだ知識、技術を基礎として、音楽療育の実践を行い、必要な技法を習得する。</li> <li>・「こども音楽療育演習」で学んで作成した様々な対象者に合わせて作成したプログラムをもとに、実践する。</li> <li>・療育や保育現場において、発達を援助するための効果的な音楽の奏法を習得する。</li> <li>・保育の現場での実習を行い、音楽による具体的な援助法を学び、自らの振り返りをおこなうことにより、実習を質の向上をはかる。</li> </ul>	<p><b>[到達目標]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現場に合わせた音楽プログラムを作成することができる。</li> <li>・現場にあわせた音楽プログラムを実施することができる。</li> <li>・療育や保育現場における、発達を援助するための効果的な音楽奏法を用いることができる。</li> <li>・プログラムを実施するための演奏技術を身につける。</li> </ul>
---	--

**履修のルール**

<p><b>[履修のルール]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「こども音楽療育概論」の単位を履修済みであること。</li> <li>・「こども音楽療育演習」を並行して受講すること。</li> <li>・本科目では、実習前指導、実習、事後指導を含めた科目である。</li> <li>・事前事後指導のみでの単位取得は不可。</li> </ul>	<p><b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時には、演奏や教材研究などの課題を提示する。必ず行って、次の授業に臨むこと。</li> <li>・グループワークも多いため、各人が提示された課題は必ず行っておくこと。</li> </ul> <p><b>[課題に対するフィードバックの方法]</b></p> <p>授業内にフィードバックする。また、随時メールやClassroomを活用して行う。 [オフィスアワー]:火～金(研究室)</p>
--	--

**評価基準・評価方法**

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	・実習に取り組む姿勢(70%) ・プログラム・実習振り返りレポート(30%)

**授業計画**

1. 音楽療育の手順①(対象者と目標の査定・発達支援のための音楽を理解する)	9. 音楽療育参加実習③(音楽療法の楽器を用いた実践)一場に応じた音楽療育の展開を学ぶ
2. 音楽療育の手順②(プログラムの作成とロールプレイ)	10. 音楽療育参加実習③(音楽療法の楽器を用いた実践)様々な年齢に応じた展開を学ぶ
3. 音楽療育体験実習①(地域ワークショップ)一楽器づくり・音楽遊び・身体遊びの展開を学ぶ	11. 発達支援と音楽療法の楽器、音楽遊びの効用を踏まえたプログラム案作成
4. 改善案をもとにしたプログラム案とロールプレイ	12. ロールプレイを行いプログラムをより良く完成させる
5. 音楽療育参加実習②(保育所・幼稚園-統合保育)一さまざまな年齢に応じた音楽療育の展開を学ぶ	13. 音楽療育施設実習④(発達支援)一様々な発達に応じた音楽療法の援助を学ぶ
6. 音楽療育参加実習②(こども園-統合保育)一こどもの発達に応じた音楽療育の展開を学ぶ	14. 音楽療育施設実習④(発達支援)一音楽療法楽器を用いた様々な発達援助セッションの実践
7. 音楽療法の楽器を用いたプログラム案を作成する	15. 実習の振り返りと実習報告書作成
8. ロールプレイを行いプログラムをより良く完成させる	

<b>[教科書]</b>	<b>[参考書]</b>
--------------	--------------

編著：木村鈴代『新たなしい子どものうたあそび』同文書院 授業内で紹介する。  
¥2,420  
編著：伊藤伸明『3つのコードで楽しく弾ける』ドレミ楽譜  
出版¥1,980(税込)  
※すべて1回生時の教科書を使用  
・音楽療育学外実習 一部、交通費自己負担

**アクティブラーニングへの取り組み**

○ PBL(課題解決型学習)	○ 反転授業	○ ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
○ 学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	○ その他:学生による創作表現・実習発表

**実務経験**

音楽療法士として施設や病院への訪問演奏、障がいを持つこどもへの音楽療法等を行っている。

幼児教育科  
講義要綱  
2年次

ゼミナールⅡ		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・2単位・30回 [学修準備時間 30]	
教員 鯉坂 はるよ	年次・学期 2年・通	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 ○ DP2:知識・技術 ○ DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
<p>子どもの発達を踏まえながら、発達に沿った絵本やレクリエーションを考えることを目的とする。実習で、発達・年齢に応じてどのような絵本を読んだらよいか、どのような遊びがふさわしいか検討する。絵本について調べ、各自発表し、その内容について意見交換を行う。発達に沿った遊びについても調べ、グループで考え発表する。2年間の学びを基に、卒業制作として、絵本を作成し、卒業発表会で発表する。</p>		<p>1) 発達に沿った絵本について理解する 2) 発達に沿ったレクリエーションについて理解する 3) グループワークにより、協調性が身に付いた。 4) 自分が考えたねらいに沿った絵本が卒業制作として作成できた</p>	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学習ガイド」]</b>	
グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションに積極的に参加すること。		発表する絵本やレクリエーションについて調べ、発表できるように準備すること。発表後、復習し、実習でどのような絵本を読み、遊びを行うか考えると共に、卒業制作でどのような絵本を作成するか考えること。全60時間。	
<b>[課題に対するフィードバックの方法]</b>			
発表後、ディスカッションするとともに、コメントする。 [オフィスアワー]:火、水、木、金のお昼休み。研究室にて。			
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	授業に取り組む姿勢、課題、卒業制作により、総合的に評価する。	
<b>授業計画</b>			
1. ガイダンス、卒業制作(絵本作成)について	16. 絵本の構想を練る		
2. 発達に沿った絵本(0歳児)(プレゼンテーション、ディスカッション)	17. 絵本の登場人物を考える		
3. 発達に沿ったレクリエーション(0歳児)(グループワーク、プレゼンテーション)	18. 絵本のストーリーを考える		
4. 発達に沿った絵本(1歳児)(プレゼンテーション、ディスカッション)	19. 絵本の材料を考える		
5. 発達に沿ったレクリエーション(1歳児)(グループワーク、プレゼンテーション)	20. 絵本の下書きを作成する		
6. 発達に沿った絵本(2歳児)(プレゼンテーション、ディスカッション)	21. 絵本の構想を発表する(プレゼンテーション) 意見交換(ディスカッション)		
7. 発達に沿ったレクリエーション(2歳児)(グループワーク、プレゼンテーション)	22. 絵本の構想の修正		
8. 発達に沿った絵本(3歳児)(プレゼンテーション、ディスカッション)	23. 絵本の表紙作成		
9. 発達に沿ったレクリエーション(3歳児)(グループワーク、プレゼンテーション)	24. 絵本の前半箇所作成		
10. 発達に沿った絵本(4歳児)(ディスカッション)	25. 絵本の中盤箇所作成		
11. 発達に沿ったレクリエーション(4歳児)(グループワーク、プレゼンテーション)	26. 絵本の後半箇所作成		
12. 発達に沿った絵本(5歳児)(ディスカッション)	27. 絵本の裏表紙作成		
13. 発達に沿ったレクリエーション(5歳児)(グループワーク、プレゼンテーション)	28. 卒業制作(絵本)の仕上げ		
14. 発達に沿った絵本・レクリエーションの振り返り	29. 2年間の学び、卒業制作(作成した絵本)の振り返り		
15. 卒業制作である絵本作成について考える	30. 卒業制作(作成した絵本)の発表(プレゼンテーション)		
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
○ PBL(課題解決型学習)	○ 反転授業	○ ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
○ 学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	○ その他:
<b>実務経験</b>			

幼児教育科  
2年次  
講義要綱

講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
演 ・ 2 単位 ・ 30 回  
[学修準備時間 30]

## ゼミナールⅡ

教員 石上 浩美	年次・学期 2 年・通	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 ○ DP2: 知識・技術 ○ DP4:人権・共感
-------------	----------------	--------------------	--

### 授業の目的・内容

<b>[授業の目的と概要]</b> 1. 子どもの身体・認知・言葉の発達段階についての既習知識・技能を確認しながら、深化・探究する。 2. 子どもの発達段階・特性をふまえたオリジナル児童文化教材を協同で考案・作成する。 3. 子どもの発達段階・特性を踏まえたオリジナル児童文化教材を用いた実践計画を協同で作成・実践し、PDCA サイクルによる相互評価を行う。	<b>[到達目標]</b> 1. 乳幼児期の子どもの身体・認知・言葉の発達段階における特徴について説明できる。 2. 子どもの発達段階・特性をふまえたオリジナル児童文化教材を協同で考案・作成できる。 3. 子どもの発達段階・特性を踏まえたオリジナル児童文化教材を用いた実践計画を協同で作成・実践し、PDCA サイクルによる相互評価ができる。
--	---

### 履修のルール

<b>[履修のルール]</b> ・問題解決型学習 (PBL)のためゼミ生同士で協同する意義を意識しながら互いに協力する。 ・1 年前期以外は 1・2 回生合同ゼミを原則とする。	<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b> 予習：発達心理学の基礎知識確認・教材作成準備(60 分) 復習：授業内容をふまえた制作物のブラッシュアップ(60 分) ※Google Classroom を活用する。 <b>[課題に対するフィードバックの方法]</b> ・授業時全体アナウンス ・Google Classroom コメント [オフィスアワー]:後日公表 メールおよび Google Classroom も常時活用
--	--

### 評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	・ゼミナール活動参加姿勢及び態度：30% ・ゼミナール発表会資料内容：30% ・ゼミナール発表会プレゼンテーション内容：40%

### 授業計画

1. オリエンテーション：本ゼミナールの目的・計画・評価方法 2. 実習準備(1)施設フィールドワーク 3. 実習準備(2)幼稚園フィールドワーク 4. 実習準備(3)保育園フィールドワーク 5. 実習リフレクション(1)施設 6. 実習リフレクション(2)幼稚園 7. 実習リフレクション(3)保育園 8. テーマ演習(1)実習から学んだこと 9. テーマ演習(2)実習リフレクション 10. テーマ演習(3)先行研究内容調査(実践事例など) 11. テーマ演習(4)先行研究内容調査(文献事例など) 12. テーマ演習(5)先行研究内容報告 13. テーマ演習(6)先行研究内容報告をふまえたレポート作成 14. テーマ演習(7)先行研究内容報告レポート作成 15. テーマ演習(8)先行研究内容報告レポート発表/前期のまとめ	16. オリエンテーション：本ゼミナールの目的・計画・評価方法 17. 小山田祭準備・参加(1) 18. 小山田祭準備・参加(2) 19. 小山田祭リフレクション 20. ゼミナール発表会に向けて(1)テーマ設定 21. ゼミナール発表会に向けて(2)プレゼンテーションとは 22. ゼミナール発表会に向けて(3)プレゼンテーション方法の検討 23. 合同ゼミフィールド見学(1) 幼児保育施設 24. 合同ゼミフィールド見学(2) 子育て支援施設 25. 合同ゼミフィールド見学(3) 民間課外活動施設 26. 合同ゼミフィールドワーク報告 口頭発表&ディスカッション 27. ゼミナール発表会に向けて(4)プレゼンテーション資料作成 28. ゼミナール発表会リハーサル 29. ゼミナール発表会/リフレクション 30. 総括-ゼミナールⅡを通して学んだこと
---	--

<b>[教科書]</b> 資料など Gppgle Classroom にて共有	<b>[参考書]</b> 多数あるので適宜紹介
--	----------------------------

### アクティブラーニングへの取り組み

○ PBL(課題解決型学習)	○ 反転授業	○ ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
○ 学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	○ その他：

### 実務経験

--

講義要綱  
幼児教育科  
2 年次

# ゼミナールⅡ

講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
演 ・ 2 単位 ・ 30 回

[学修準備時間 30]

教員 板倉 史郎	年次・学期 2 年・通	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 ○ DP2: 知識・技術 ○ DP4:人権・共感
-------------	----------------	--------------------	--

## 授業の目的・内容

### [授業の目的と概要]

・幼児教育を学んだ2年間の集大成として、各自の研究テーマに応じた卒業論文を作成するための研究を行、卒業論文にまとめる。  
・保育者の資質や能力について、研究、検討し、進路に活かす。

### [到達目標]

・研究することの意味を理解できる。  
・自らの学びを論文で表現する力を身につけている。

## 履修のルール

### [履修のルール]

・各ゼミの専門研究を中心とし、進める。ゼミごとの計画については、授業時に説明する。

### [予習・復習の方法「自主学习ガイド」]

・課題については、当日までにやり遂げる  
・自分の意見や考えをもって、ゼミに参加する。

### [課題に対するフィードバックの方法]

・面談で知らせる。  
[オフィスアワー]: ・特に設けないが、随時受け付ける。

## 評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	試験は実施しない。
期末レポート	0	期末レポート提出は求めない。
その他	100	・卒業論文、それに対する取組、卒論発表、提出課題等を総合的に評価する。

## 授業計画

- |                                    |                                   |
|------------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 今年度の計画と関心事項について                 | 16. 夏休みの課題報告1 実習について              |
| 2. 卒業論文テーマについて                     | 17. 夏休みの課題報告2 就職活動について            |
| 3. (卒業)論文作成の方法と注意点                 | 18. 卒業生の論文を読み、論文作成の参考にする          |
| 4. 論文の読み方、資料の検索方法                  | 19. 保育・子どもを巡る状況の発表1 児童虐待、卒論作成     |
| 5. 初めての福祉施設実習について                  | 20. 保育・子どもを巡る状況の発表2 子どもの貧困、卒論作成   |
| 6. 施設実習の振り返りと教育実習に向けて              | 21. 保育・子どもを巡る状況の発表3 単親世帯、卒論作成     |
| 7. 教育実習の振り返り                       | 22. 保育施設の現状について1-制度を中心に、卒論作成      |
| 8. 卒業論文テーマの掘り下げと骨子作成               | 23. 保育施設の現状について2-子どもの実態を中心に、卒論作成  |
| 9. 卒業論文骨子の検討                       | 24. 保育施設の現状について3-保護者を中心に、卒論作成     |
| 10. 社会に出る意味と自己実現                   | 25. 保育施設の現状について4-保育者を中心に、卒論作成     |
| 11. 卒論テーマと方向性の発表とアドバイス会1 テーマ設定を中心に | 26. 保育施設の現状について4-世界に目を向けて、卒論作成    |
| 12. 卒論テーマと方向性の発表とアドバイス会2 資料収集について  | 27. 卒業論文のまとめ方-考察とは、卒論作成           |
| 13. 卒論テーマと方向性の発表とアドバイス会3 考察に関する考え方 | 28. プレゼンテーションの意味と方法-卒論発表に向けて、卒論作成 |
| 14. 最後の実習について                      | 29. プレゼンテーションファイルの作成              |
| 15. 夏休みの課題について                     | 30. 卒業論文発表                        |

### [教科書]

なし

### [参考書]

・ゼミの時間に随時紹介する。

## アクティブラーニングへの取り組み

<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディバート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	その他:

## 実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

ゼミナールⅡ		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・2単位・30回 [学修準備時間 30]	
教員 大浦 知加	年次・学期 2年・通	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 ○ DP2:知識・技術 ○ DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>【授業の目的と概要】</b>		<b>【到達目標】</b>	
<p>「音楽表現コミュニケーション」ゼミ</p> <p>1) 目に見えない「音楽」を目に見えるモノでサポートしながら表現し、こどもにわかりやすい形で関わる方法を展開していく。</p> <p>2) こどもの発達や興味・関心に合わせ、音楽を通して関わっていく方法を創作していく。</p> <p>3) どのような状況の中でも、自ら学び、共に学び合う人間関係構築力を身につけ、居場所をつくる。</p> <p>4) 学生主体でゼミ発表を計画し、立案、実践する。</p> <p>◎ゼミ発表の方法として「和太鼓・音楽演奏・音楽劇」を提供する。</p>		<p>1) こどもの発達や興味・関心に合わせ目に見えるモノでサポートしながら、音楽を通して関わっていくことができる。</p> <p>2) 集団活動の中で他者を受容し、自らの得意を認識し、協働しながら高め合うことができる。</p> <p>3) 学生主体・協働作業として共に学び合いながらゼミ発表を実践できる。</p>	
<b>履修のルール</b>			
<b>【履修のルール】</b>		<b>【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】</b>	
・共に学び合う積極的な姿勢と、周りを見渡す広い視野を持つ		<p>・動画等を活用し、音楽遊びを幅広く知る。</p> <p>・こどもの発達を考慮し、どのような環境で行うか考えてみる。</p> <p><b>【課題に対するフィードバックの方法】</b></p> <p>授業内でフィードバックを行う。また課題の種類によってはグループディスカッションを行う。</p> <p>【オフィスアワー】:火曜～金曜 (研究室)</p>	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	各授業での取り組み、意欲、姿勢、発表を総合評価する。	
<b>授業計画</b>			
1. オリエンテーション/ガイダンス	16. 5歳児：保育・幼児教育現場の表現活動について探究		
2. 春期課題によるプレゼンテーション発表とディスカッション	17. 5歳児の音環境：和太鼓と鍵ハモ		
3. 課外学習①：森の楽器づくり探究	18. 幼小連携：表現活動について探究		
4. 課外学習②：森の楽器づくり実践	19. 幼小連携：音楽ゲーム創作と実践		
5. 保育・幼児教育における音環境と音楽表現活動の探究	20. 課外学習①：創作活動の準備		
6. 0歳児：保育・幼児教育現場の表現活動について	21. 課外学習②：創作活動の実践		
7. 0歳児の音環境：ベビーマッサージとあやし歌	22. ゼミ発表準備①：和太鼓を取り入れた内容・方法について検討		
8. 1歳児：保育・幼児教育現場の表現活動について探究	23. ゼミ発表準備②：役割・担当について検討		
9. 1歳児の音環境：簡単ぬいぐるみづくりと遊び歌	24. ゼミ発表準備③：環境・構成について検討		
10. 2歳児：保育・幼児教育現場の表現活動について探究	25. ゼミ発表準備④：内容・方法について創作活動		
11. 2歳児の音環境：魔法のパネルシアターづくりと手遊び歌	26. ゼミ発表準備⑤：役割り・担当別に創作活動		
12. 3歳児：保育・幼児教育現場の表現活動について探究	27. ゼミ発表準備⑥：和太鼓を取り入れた発表の改善を重ねる		
13. 3歳児の音環境：楽器づくりと演奏	28. ゼミ発表準備⑦：演者と観客で音楽を共有する環境の探究		
14. 4歳児：保育・幼児教育現場の表現活動について探究	29. ゼミ発表リハーサル：演者と観客で音楽を共有する環境を整える		
15. 4歳児の音環境：トーンチャイムとバル演奏法	30. ゼミ発表会（アリーナ）		
<b>【教科書】</b>		<b>【参考書】</b>	
		授業内で紹介する。	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
○ PBL(課題解決型学習)	○ 反転授業	○ ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
○ 学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	○ その他：学生創作演奏と発表
<b>実務経験</b>			
<p>保育園・こども園・小学校・中学校・高校、専門学校音楽講師勤務の経験と、現場保育者や教員への音楽指導経験を生かした指導法を展開する。また長年、0歳～大人までのピアノ指導や親子リトミック・音楽遊び指導を行い、和楽器・管弦打楽器こどもオーケストラや舞台イベントを主催・指導。自身も和太鼓やピアノによる舞台表現家である。</p>			

ゼミナールⅡ 講義/演習/実技実習・単位数・回数  
演・2単位・30回  
[学修準備時間 30]

教員 東 景子	年次・学期 2年・通	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 ○ DP2:知識・技術 ○ DP4:人権・共感
------------	---------------	--------------------	---

**授業の目的・内容**

<b>[授業の目的と概要]</b>	<b>[到達目標]</b>
平面表現である絵本制作と、空間表現である舞台美術装置のミニチュア制作を行い、保育現場での子どもたちとのコミュニケーションや舞台発表の空間演出に役立てる。卒業制作では2年分の作品を発表する。	・表現したい対象やテーマを考え、絵本制作と舞台美術装置のミニチュア制作が出来る。 ・保育・教育現場で活用する事を想像しながら制作する事が出来る。

**履修のルール**

<b>[履修のルール]</b>	<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>
グループワークも多いため、一人一人が積極的な姿勢で取り組む。特に絵の具画材を使用する回では、多少汚れても構わない服装かエプロン等を持参の上受講する事。	予習：事前に提示された課題について、創作のヒントとなる絵本、おはなし、小説、アニメ、映画等の参考資料を調べて収集する。復習：提供した資料を整理しながら、次回に向けて質問事項をまとめる。
	<b>[課題に対するフィードバックの方法]</b>
	ゼミの話し合いの中で、毎回対面で指導を行う。 [オフィスアワー]:月火水金の昼休み、図工室か研究室

**評価基準・評価方法**

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	準備物、授業への取り組み姿勢、課題の作品や発表内容を総合的に評価する。

**授業計画**

1. 造形ゼミオリエンテーション ー 春期課題の発表と共有ー	16. 後期オリエンテーション ー卒業制作概要説明ー
2. 春期課題絵本を参考に① 絵本の構想を考える	17. 舞台美術装置ミニチュア制作ー保育に活かす造形①説明、情報収集
3. 春期課題絵本を参考に② 絵本の構想 下絵の制作	18. 舞台美術装置ミニチュア制作ー保育に活かす造形②下絵と材料準備
4. 春期課題絵本を参考に③ 下絵の制作	19. 舞台美術装置ミニチュア制作ー保育に活かす造形③背景制作
5. 春期課題絵本を参考に④ 下絵の制作、着色、表紙の構想	20. 舞台美術装置ミニチュア制作ー保育に活かす造形④背景制作
6. 春期課題絵本を参考に⑤ 着色、表紙の制作	21. 舞台美術装置ミニチュア制作ー保育に活かす造形⑤道具制作
7. 春期課題絵本を参考に⑥ 表紙の制作	22. 舞台美術装置ミニチュア制作ー保育に活かす造形⑥道具制作
8. 春期課題絵本を参考に⑦ 裏表紙の制作	23. 一回生への実習報告会
9. 春期課題絵本を参考に⑧ 裏表紙の制作	24. 舞台美術装置ミニチュア制作ー保育に活かす造形の仕上げ
10. 春期課題絵本を参考に⑨ 完成と講評会	25. 舞台美術装置ミニチュア制作ー保育に活かす造形⑧完成・撮影準備
11. 子どもと楽しむ素材の研究② (ゼミナールⅠに続いて)	26. 舞台美術装置ミニチュア制作ー保育に活かす造形⑨撮影
12. 夏期課題説明ー卒業制作に向けてー	27. 舞台美術装置ミニチュア制作ー保育に活かす造形⑩講評会、まとめ
13. グループワーク、発表に向けての課題設定①	28. 舞台美術装置ミニチュア制作ー保育に活かす造形 11 振り返り
14. グループワーク、発表に向けての準備②	29. 卒業制作への最終準備
15. グループワーク、発表に向けての完成③	30. 卒業発表会、振り返り、まとめ

<b>[教科書]</b>	<b>[参考書]</b>
必要に応じてプリント資料を配布する。 購入の画材一式	

**アクティブラーニングへの取り組み**

<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディバート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	その他:

**実務経験**

小中学校の図画工作・美術と併設の特別支援学級の美術(非常勤講師・常勤講師)、社会人向けの生涯学習(木版画教室)講師

ゼミナールⅡ 講義/演習/実技実習・単位数・回数  
演・2単位・30回  
[学修準備時間 30]

教員 年次・学期 関連資格・必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連  
 本田 和隆 2年・通 [保必] ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性  
 ○ DP2:知識・技術 ○ DP4:人権・共感

**授業の目的・内容**

**[授業の目的と概要]** **[到達目標]**  
 幼児教育を学んだ2年間の集大成として、各自の研究テーマに応じた卒業論文をまとめ、年度末に行うゼミ発表会でその成果を発表する。特に、子ども家庭福祉や社会福祉に関わる自らの問題意識を深め、課題解決に向けた提案力を身につける。実施内容は、①学生同士のディスカッション、②現場職員との交流、③地域や福祉現場の視察である。  
 ・講義で得た知識を身近な課題として理解できる。  
 ・研究することの意味を理解し、提案力を身につけることができる。  
 ・自らの学びを論文にまとめ、プレゼンテーションする力を身につけている。

**履修のルール**

**[履修のルール]** **[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]**  
 ・常に、自分の身の回りで起きていること、社会で起きていることに関心を持っておくようにしましょう。 授業で指示する。  
**[課題に対するフィードバックの方法]**  
 毎回授業時に確認する。  
 [オフィスアワー]:随時、受け付ける。

**評価基準・評価方法**

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	・卒業論文、それに対する取組、卒論発表、提出課題等を総合的に評価する。

**授業計画**

1. ゼミの流れと問題意識の共有	16. 卒業論文構想発表①-全体指導
2. 卒業論文作成の流れと書き方①-文献検索編	17. 卒業論文構想発表②-全体指導
3. 卒業論文作成の流れと書き方②-執筆編	18. 課題解決に向けた実践①-保育・幼児教育施設
4. 卒業論文作成の流れと書き方③-プレゼン編	19. 課題解決に向けた実践②-NPOの意義
5. 児童福祉施設で学ぶ視点①-保育・幼児教育施設との違い	20. 卒業論文個別指導①-問題意識と背景
6. 児童福祉施設で学ぶ視点②-実習での学び	21. 卒業論文個別指導②-先行研究の検討
7. 専門職とは-実習での学びから考える	22. 卒業論文個別指導③-調査結果の検討
8. 社会福祉の課題①-子ども家庭福祉	23. 卒業論文個別指導④-結論と根拠の検討
9. 社会福祉の課題②-高齢者福祉	24. 卒業論文個別指導⑤-引用・参考文献の表記方法
10. 社会福祉の課題③-障害者福祉	25. 卒業論文発表①-全体指導
11. 社会福祉の課題④-生活困窮者支援	26. 卒業論文発表②-全体指導
12. 社会福祉の課題⑤-地域共生社会とは	27. 卒業論文発表③-全体指導
13. 卒業論文構想の検討①-前半学生	28. 卒論発表の方法について-パワーポイント、出典など
14. 卒業論文構想の検討②-後半学生	29. まとめ①-社会を良くするための提案
15. 夏休み課題の提示-卒業論文構想	30. まとめ②-社会を良くするための提案

**[教科書]** なし **[参考書]** ・随時紹介する。

**アクティブラーニングへの取り組み**

○ PBL(課題解決型学習)		反転授業	○ ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
○ 学生によるプレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

**実務経験**

講義要綱  
幼児教育科  
2年次

ゼミナールⅡ		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・2単位・30回 [学修準備時間 30]	
教員 森 大樹	年次・学期 2年・通	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 ○ DP2:知識・技術 ○ DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
<p>本ゼミでは、保育の現場でコンピュータを活用することを一緒に考え、学ぶことを目的とする。下のテーマなどの幅広くコンピュータを活用した取り組みを行う。ひとつひとつの操作を覚えるだけでは良い作品はできない。何よりも大切なことは意欲と、その内容を表現するための柔軟な発想と工夫が必要である。</p> <p>ワードを使用してゼミアルバムの制作、パワーポイントを使用しての紙芝居、デジタルカメラやビデオカメラでの撮影手法や編集方法を学び、画像や映像の活用等を行う。作成したテーマ課題を授業時にプレゼンテーションし、相互学習をする。授業の最後には、(1)卒業制作としてビデオ編集、または、(2)卒業論文のどちらかを仕上げる。</p>		<p>目標は、コンピュータを使って、単に指示された内容の文書を正確に作成できるようになるだけでなく、自分で創意工夫を凝らした資料や作品も作成できるようになることである。また、ゼミとして、ひとつのことを共同で取り組む姿勢を養う。</p>	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>	
授業に積極的に参加すること。グループワークを重視する。		授業後には、授業時にできなかった課題を必ず最後まで完成させておくこと。また、授業時間内に完了した課題についても、もう一度復習し、学習内容を整理すること。	
<b>[課題に対するフィードバックの方法]</b>			
提出された課題に対して次回授業時に解説を行う。 [オフィスアワー]:火曜～金曜の昼休み・森研究室(704)			
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	受講態度(40%)、提出物(20%)、ゼミ内での役割(20%)、卒業制作(20%)の総合評価とする。	
<b>授業計画</b>			
1. オリエンテーション	16. 附属幼稚園運動会メダル(3)制作②印刷		
2. 就職活動に向けての取り組み	17. 卒業制作(1)課題説明		
3. ゼミアルバムの制作①画像処理	18. 卒業制作(2)課題テーマ設定		
4. ゼミアルバムの制作②効果	19. 卒業制作(3)ビデオカメラでの撮影方法		
5. プロジェクター絵本①パワーポイント概要	20. 卒業制作(4)動画の取り込み方法		
6. プロジェクター絵本②効果のつけ方	21. 卒業制作(5)動画編集①基本操作		
7. プロジェクター絵本③操作実演	22. 卒業制作(6)動画編集②素材取り込み		
8. デジタルカメラの活用(1)基本操作	23. 卒業制作(7)動画編集③カット編集		
9. デジタルカメラの活用(2)構図と撮影計画	24. 卒業制作(8)動画編集④エフェクト		
10. デジタルカメラの活用(3)PCでの取り込みと加工処理	25. 卒業制作(9)動画編集⑤音声編集		
11. ビデオ編集(1)編集ソフトの使い方	26. 卒業制作(10)動画編集⑥タイトル編集		
12. ビデオ編集(2)DVD オーサリング	27. 卒業制作(11)動画完成		
13. ビデオ編集(3)デザイン	28. 卒業制作(12)プレゼンテーション作成		
14. 附属幼稚園運動会メダル(1)写真撮影	29. 卒業制作(13)プレゼンテーション・リハーサル		
15. 附属幼稚園運動会メダル(2)制作①写真加工	30. ゼミ発表会		
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
授業時に指示する。			
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	その他:
<b>実務経験</b>			

ゼミナールⅡ		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・2単位・30回 [学修準備時間 30]	
教員 寄 ゆかり	年次・学期 2年・通	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 ○ DP2:知識・技術 ○ DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>【授業の目的と概要】</b>		<b>【到達目標】</b>	
<p>本ゼミでは、「音楽表現 アンサンブル」ゼミとして音楽表現の様々なあり方を考える。1 回生後期から、実際に各自が体験した音楽表現のあり方を、どう感じ、どう追求していくのか。文献研究や、各自の「曲を聴いて感じたこと」「人の心に響く演奏をするには」から得られた表現力をもとに、考える。また「人の心に響く演奏」を作り上げるための舞台設定、脚本等も研究し、最終は自分たちで卒業発表会を計画、立案、実施を行うことを卒業課題とする。</p>		<p>1) 提示された課題曲演奏（歌、合奏など）に、積極的に取り組める。 2) 演奏の幅を広げる（楽器の種類、音域、ジャンルなど）努力ができる。 3) 様々な音楽表現を追求することにより、幼児教育の場での音楽表現の方法を考えることができる。 4) 舞台発表のための必要な知識（設定、装置、背景、構成等）を習得するための学習姿勢がある。 5) 卒業発表会の計画立案から実施までをチームで協力しながらできる。</p>	
<b>履修のルール</b>			
<b>【履修のルール】</b>		<b>【予習・復習の方法「自主学習ガイド」】</b>	
<p>・音楽表現、特に合奏や合唱を行うためには、チームでの「調和」が重要です。演奏力だけではなく、自分が表現できる方法を身につける姿勢を持って、授業に臨んでください。</p>		<p>事前に提示された課題については、必ず予習（曲の場合は練習）しておくこと。また卒業発表には、ゼミ生各自が「自分たちで作り上げる」という意識と自覚を持って、進めてください。</p> <p><b>【課題に対するフィードバックの方法】</b> 共に向上させられるよう、課題が出た場合にその場で指導する。 【オフィスアワー】：(火)(水)(木)(金)の在室時</p>	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	<p>・各授業での課題と課題追求に取り組む姿勢、課題の達成度、チームでの曲への取り組み協力度、卒業発表会に関する計画から発表までのあらゆる面での取り組み姿勢など総合的に判断する。</p>	
<b>授業計画</b>			
1. 春期課題「自分のお勧め曲」パワプロプレゼンテーション（個人）発表①	16. 卒業発表会に向けて①（舞台に必要な仕事とは）		
2. 春期課題プレゼンテーション（個人・グループ演奏）発表②	17. 卒業発表会に向けて②（チームでの役割）		
3. プレゼンテーション発表から感じたことディスカッション	18. 卒業発表会に向けて③（演奏形態と選曲）/学園祭演奏練習		
4. 様々な演奏形態の紹介①（春期課題で探求したもの）	19. 卒業発表会に向けて④（選曲の吟味）/学園祭演奏練習		
5. 様々な演奏形態の紹介②（春期課題で探求したものを自分たちに置き換える）	20. 卒業発表会に向けて⑤（担当者別ディスカッション）/学園祭演奏練習		
6. 様々な演奏形態の紹介③（春期課題で探求したものを参考に新しい形態を考える）	21. 卒業発表会に向けて⑥/学園祭演奏練習		
7. 音楽で自分を活かせる～選曲のための環境を考える～	22. 卒業発表会～構成をもとに舞台を作り上げる～各セクション担当決め		
8. グループで演奏（合唱、合奏）形態を考える①～選曲～	23. 卒業発表会への取り組み①舞台構成の検討		
9. グループで演奏（合唱、合奏）形態を考える②～演奏～	24. 卒業発表会への取り組み②舞台のイメージ共有		
10. グループで演奏（合唱、合奏）形態を考える③～練習の方法～	25. 卒業発表会への取り組み③イメージに沿った楽器構成の検討		
11. グループで演奏（合唱、合奏）形態を考える④～合わせる～	26. 卒業発表会への取り組み④構成に沿った楽曲選曲		
12. グループで演奏（合唱、合奏）形態を考える⑤～息を合わせる～	27. 卒業発表会への取り組み⑤演奏練習、各担当パートによる		
13. グループで演奏（合唱、合奏）形態を考える⑥～曲のジャンルを考える～	28. 卒業発表会への取り組み⑥演奏を極めることによる自分の成長を見つめる		
14. ゼミ演奏を仕上げる①～人に聴かせられる演奏に～	29. 卒業発表会への取り組み⑦演奏の喜びとは		
15. ゼミ演奏を仕上げる②～振り返りと改善～	30. 卒業発表会、振り返り、まとめ		
<b>【教科書】</b>		<b>【参考書】</b>	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
○ PBL(課題解決型学習)	○ 反転授業	○ ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
○ 学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	その他：
<b>実務経験</b>			
音楽教室においては、3 歳児から 70 代までピアノ、エレクトーンでの鍵盤指導及び管楽器、打楽器指導を中心としたアンサンブル教育も行う。また現役保育者に対する保育内容に関する実技講習などの研修を多く行っている。			

講義要綱  
2年次  
幼児教育科







# 大阪千代田短期大学

〒586-8511 大阪府河内長野市小山田町1685

TEL 0721(52)4141(代 表)

0721(52)6800(実習・キャリアサポート室直通)

FAX 0721(52)4747

<https://www.chiyoda.ac.jp>

学籍番号

氏名